

# 資 料



## 資料1 用語の定義

---

本調査において、使用する用語の定義は次の通りとする。推計に用いた文部科学省「学校基本調査」及び総務省「科学技術統計調査」の定義を基本とするが、推計に当たり設定したパラメータについては、独自に定義したものもあるので留意されたい。

### 1. 専攻分野

#### (1) 定義

学科系統分類表 3 大学院（研究科）大分類「人文科学」「社会科学」「理学」「工学」「農学」「保健」「商船」「家政」「教育」「芸術」「その他」のうち、次の5分野を推計の対象とする。なお、各専攻分野の内訳（中分類）を示すと次の通りである。

##### ■人文科学

文学関係、史学関係、哲学関係、その他

##### ■社会科学

法学・政治学関係、商学・経済学関係、社会学関係（社会事業関係を含む）、その他

##### ■理学

数学関係、物理学関係、化学関係、生物関係、地学関係、原子力理学関係、その他

##### ■工学

機械工学関係、電気通信工学関係、電気通信工学関係、土木・建築工学関係、応用化学関係、応用理学関係、原子力工学関係、鉱山学関係、金属工学関係、繊維工学関係、船舶工学関係、航空工学関係、経営工学関係、工芸学関係、その他

##### ■農学

農学関係、農芸化学関係、農業工学関係、農業経済学関係、林学関係、林産学関係、獣医学畜産学関係、水産学関係、その他

出所：文部科学省「学校基本調査」

### 2. 進学率

#### (1) 定義

##### ■大学進学率（現役）

高等学校本科及び中等教育学校後期課程卒業者のうち、大学の学部・別科に進学した者の比率。

■大学進学率（過年度高卒者・外国人学生等を含む）

大学学部入学者数を（過年度高卒者等を含む）を、18歳人口（3年前の中学校卒業生および中等教育学校前期課程修了者数）で除した比率。

■大学院進学率

大学学部卒業者のうち、大学院研究科へ入学した者の比率。

出所：文部科学省「学校基本調査」

(2) 設定したパラメータ

■学部別大学進学率（過年度高卒者を含み留学生を除く）

大学学部入学者数から1学年当りの留学生（推計）を差し引いたものを、上記と同じ18歳人口で除した比率を学科ごとに設定。

■修士（博士）課程進学率（現役・留学生も含む）

大学学部卒業生（修士課程卒業生）のうち、修士課程（博士課程）に進学した者の比率。

■日本人一般学生進学率

博士課程に進学した日本人一般学生（推計）／修士課程終了した日本人一般学生（推計）

### 3. 学部入学者数

(1) 定義

■学科別入学者数（大学）

当該年に入学した者（補欠入学者は含むが、編入者は除く。）で5月1日現在に在籍する者の数。一度入学手続きをしても5月1日までに退学、除籍した者は除く。

■入学状況（大学）

「外国の学校卒」；学校教育法施行規則第150条第1号に定める「外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者」である。

「専修学校高等課程卒」；学校教育法施行規則第150条第3号に基づき、昭和23年文

部省告示第 47 号中第 21 号で文部科学大臣の指定する「専修学校高等課程の修了者」である。

「その他（高卒認定等）」；上記以外の者で学校教育法施行規則第 150 条に定める者（「高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者」等）。

出所：文部科学省「学校基本調査」

#### 4. 大学院入学者数

##### (1) 定義

###### ■専攻別入学者数（大学院）

当該年に入学した者（補欠入学者は含むが、編入者は除く。）で 5 月 1 日現在に在籍する者の数。一度入学手続きをしても 5 月 1 日までに退学、除籍した者は除く。

###### ■入学状況（大学院）

「当該大学出身者」；修士課程、博士課程（前期）、博士課程（一貫）では当該大学の学部を、博士課程（後期）では当該大学の修士課程又は博士課程（前期）を卒業又は修了した者をいう。

「外国の学校卒」；学校教育法施行規則第 155 条第 1 項第 2 号の規定による「外国において、学校教育における 16 年（医学、歯学、薬学（6 年制学部・学科に基礎を置く大学院）又は獣医学を履修する博士課程への入学については 18 年）の課程を修了した者」をいう。

「その他（高卒認定等）」；学校教育法施行規則第 155 条第 1 項第 1 号、第 3 号、第 4 号、第 5 号、第 6 号、第 7 号及び第 8 号の規定による者をいう。

##### (2) 設定したパラメータ

###### ■当該大学出身者率

当該大学出身者数／入学者数
---------------

###### ■外国学校卒業者率

外国学校卒業者数／入学者数
---------------

出所：文部科学省「学校基本調査」

## 5. 学生数

### (1) 定義

#### ■学科別学生数（大学）

外国人学生を含む学部の学生数。専攻科、別科の学生及び聴講生等の数は含めない。

#### ■専攻別学生数（大学院）

外国人学生も含む研究科の学生数。聴講生・選科生・研究生等の数は含めない。

出所：文部科学省「学校基本調査」

## 6. 外国人学生（大学）

### (1) 定義

#### ■外国人学生

「外国人」；日本の国籍を有しない者をいう。

「留学生」；日本の大学に留学する目的を持って入国した外国人学生である。すなわち、出入国管理及び難民認定法第2条の2別表第1の4に定める「留学」（本邦の大学若しくはこれに準ずる機関、専修学校の専門課程、外国において12年の学校教育を修了した者に対して本邦の大学に入学するための教育を行う機関又は高等専門学校において教育を受ける活動）による在留資格によって、入国した者である。なお、同法による他の在留資格によって入国しその後所定の手続を経て上記に定める資格に変更することを許された者も留学生として扱う。

「留学生以外の外国人学生」；留学生以外のすべての外国人学生であり、主として日本の高等学校（中等教育学校（後期課程））を卒業して大学に入学した外国人である。

### (2) 設定したパラメータ

#### ■学部別留学生比率（専攻別、別科等は含めない）

留学生数のうち学部留学生数を学部学生数で除した比率。

#### ■学部別外国人比率

外国人学生数を専攻科・別科・聴講生・選科生・研究生等と学部学生数を合わせたもので除した比率。

出所：文部科学省「学校基本調査」

## 7. 外国人学生（大学院）

### （1）定義

#### ■外国人学生

定義は学部と共通

### （2）設定したパラメータ

#### ■専攻分野別留学生比率（聴講生等は含めない）

留学生数のうち研究科留学生数を、修士課程と博士課程合計の専攻分野別大学院学生数で除した比率。

#### ■専攻分野別外国人学生比率

外国人学生数を、聴講生・選科生・研究生等と修士課程と博士課程合計の専攻分野別大学院学生数を合わせたもので除した比率。

修士課程と博士課程に分けて設定する方法（専攻分野別に方法を設定）

- ① 学生数比で振り分ける。（人文科学、社会科学）
- ② 留学生受入れ数の多い大学\*1（平成 20 年 5 月 1 日現在の在籍者数）の留学生数比で振り分ける。（理学、工学、農学）

出所：文部科学省「学校基本調査」

\*1 独立行政法人日本学生支援機構：平成 20 年度外国人留学生在籍状況調査結果、平成 20 年 12 月

## 8. 社会人学生数

### (1) 定義

#### ■専攻別社会人学生数（大学院）

「左記のうち社会人」；学生数のうち、社会人。5月1日において職に就いている者、すなわち、給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者の数を記入する。ただし、企業等を退職した者、及び主婦なども含む。

### (2) 設定したパラメータ

#### ■社会人率

社会人/学生数
---------

出所：文部科学省「学校基本調査」

## 9. 卒業者

卒業者の定義は次の通りである。なお、本文中博士課程卒業者については、修了者という用語を用いている。

### (1) 定義

#### ■卒業者

卒業者とは、大学学部、大学院研究科の卒業者をいい、専攻科及び別科等の修了者は除外する。なお、大学院研究科においては、所定の年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ学位論文の審査及び最終試験に合格した者をいう。ただし、博士課程については、所定の年限以上在学し、所定の単位を修得したが博士の学位を取得しなかった者で、当年度に満期退学した者も便宜卒業者として含める。

#### ■入学年度別卒業者数

大学学部、大学院研究科の入学した入学年度別の卒業者数。



## (2) 設定したパラメータ

### ■平均修業年数（係数）

大学学部及び大学院を卒業した者が卒業までに要した年数の平均値。

例) 4年制大学学部の卒業生数 A のうち

1年超過が a1 人 ①a1\*1

2年超過が a2 人 ②a2\*2

3年超過が a3 人 ③a3\*3

4年超過が a4 人 ④a4\*4

(①+②+③+④) / A = 平均超過年数 B 年とする。

平均修業年数は最低修業年数 4 年に B 年を加えたもの。

出所：文部科学省「学校基本調査」

## 10. 卒業後の進路

### (1) 定義

#### ■進学者

大学院研究科等へ進学した者。

#### ■就職者

給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いた者をいう。したがって、自家・自営業に就いた者は就職者とみなす。自家・自営業に就いた者とは、継続的に本業として家業に従事する場合である。ただし、家事の手伝いに就いた者は「左記以外の者」の欄に記入する。就職先が不明な場合にも就職者として取扱う。また、夜間部の学生で在学中すでに職に就いている者で卒業後も引き続きその職にある場合は、就職者とする。

#### ■臨床研修医（予定者を含む）

医師法第 16 条の 2 及び歯科医師法第 16 条の 2 に基づく臨床研修を受ける者の数。また、5 月 1 日現在、臨床研修医となることが予定されている者も含む。

#### ■専修学校・外国の学校等入学者

大学院研究科、大学学部、短期大学本科、専攻科、別科以外の者で、学校等に入学（在籍）している者を記入する。専修学校・各種学校・外国の学校・職業能力開発校等への入学者、研究生として入学した者などがここに含まれる。

### ■一時的な仕事に就いた者

臨時的な収入を目的とする仕事に就いた者をいう。例えば、アルバイト、パート等で一時的な仕事に就いた者。

### ■左記以外の者

左記の進学でも就職でもないことが明らかな者。家事の手伝いなどがここに含まれる。なお、学校で具体的状況を把握していない者でも、左記の進学でも就職でもないことが明らかな者であれば「左記以外の者」とする。

### ■死亡・不詳の者

死亡・不詳の者の数を記入する。死亡とは、卒業者のうち当該年5月1日までに死亡した者をいう。また、不詳とは、上記の各欄のいずれに該当するか学校で把握していない者をいう。

## (2) 設定したパラメータ

### ■進学率

進学者数／卒業者数

### ■就職率

就職者数／卒業者数

出所：文部科学省「学校基本調査」

# 1.1. 職業分類

産業×職業マトリックスに使用した職業の定義は次の通り。

## (1) 定義

分類番号	項目名	説明	分類番号	項目名	説明
	専門的・技術的職業従事者	高度の専門的水準において、科学的知識を応用した技術的な仕事に従事するもの及び医療・法律・教育・宗教・芸術その他の専門的性質の仕事に従事するものをいう。 この仕事を遂行するには、通例、大学（短期大学を除く）の課程を修了したか又はこれと同程度以上の専門的知識を必要とする。 ※ <b>試験官</b> とは、科学的・専門的知識と手段を生産に適用し、生産における企画・管理・監督・研究などの科学的・技術的な仕事に従事する者が分類される。ただし、試験所・研究所などの試験・研究施設で、自然科学に関する専門的・科学的知識を要する研究の仕事に従事する者は、	12	その他の保健医療従事者	栄養士 栄養士の免許を有し、栄養指導、栄養相談、給食施設における献立の作成・栄養価の計算、特別治療食の調理、その他これらに伴う食事相談・し（嚙）好調査・栄養摂取状況調査などの栄養指導の仕事に従事するものをいう。 その他の保健医療従事者 医療監視員、薬事監視員など上記9～11に含まれない専門的・技術的な医療・保健衛生の仕事に従事するものをいう。
01	科学研究者	研究所・試験所・研究室などの研究施設において、自然科学、人文・社会科学の分野の基礎的又は応用的な学問上・技術上の問題を解明するため、専門的・科学的な仕事に従事するものをいう。 この仕事を遂行するには、通例、大学（短期大学を除く）の課程を修了したか又はこれと同程度以上の専門的知識を必要とする。 ※ <b>試験官</b> とは、科学的・専門的知識と手段を生産に適用し、生産における企画・管理・監督・研究などの科学的・技術的な仕事に従事する者が分類される。ただし、試験所・研究所などの試験・研究施設で、自然科学に関する専門的・科学的知識を要する研究の仕事に従事する者は、	13	美術家、写真家、デザイナー、音楽家、舞台芸術家	彫刻・絵画・美術工芸品・映画・演劇などの芸術作品の創作・演奏・上演に従事するもの、肖像写真の撮影 設計・引伸し・映画・テレビの撮影、出版物用のニュース・事件・人物の撮影に従事するもの、工業的又は商業的製品などの装飾に関する専門的な仕事に従事するものをいう。 彫刻家・画家・書家・工芸美術家・デザイナー・写真家・音楽家・舞踊家・俳優・演出家・演芸家等。
02	農林水産業・食品技術者	科学的・専門的知識と手段を生産に適用し、農林水産業及び食品製造における企画・管理・監督・研究開発などの科学的・技術的な仕事に従事するものをいう。	14	その他の専門的・技術的職業従事者	裁判官、司法書士、司法修習生、行政書士、公認会計士、税理士、宗教家、小説家、シナリオ作家、著述家、翻訳家、記者、アナウンサー、編集者、社会福祉事業専門員（老人福祉施設等の寄附者指導員等）、児童福祉施設の保育士、職業スポーツ家、個人教師、通訳、職業・教育カウンセラーなどが含まれる。
03	機械・電気技術者	機械、電気及び同製品の製造などに関する企画・管理・監督・研究開発などの科学的・技術的な仕事に従事するものをいう。		管理的職業従事者	事業方針の決定、経営方針に基づく執行関係の樹立、作業の監督・統制などの経営体の全般または課（課相当を含む）以上の内部組織の経営管理に従事するものをいう。管理的公務員（国又は地方公共団体における課（課相当を含む）以上の仕事を管理・監督するものをいう。）、会社・団体等の役員、会社・団体等の管理的職員、経営者等
04	鉱工業技術者（機械・電気技術者を除く）	科学的・専門的知識と手段を生産に適用し、鉱工業生産（機械・電気分野を除く）における企画・管理・監督・研究開発などの科学的・技術的な仕事に従事するものをいう。		事務従事者	一般に課長（課長相当職を含む）以上の職務にあるものの監督を受けて、庶務・文書・人事・会計・調査・企画などの仕事、運輸・通信・生産関連・営業販売・外勤に関する事務及び事務用機器の操作の仕事に従事するものをいう。一般事務従事者、速記者、タイピスト、電子計算機オペレーター、キーパンチャー、秘書、出立札係、電気・ガス等の検針・集金人、営業・販売事務員（営業・販売事務員、販売伝票記録整理員）等。
05	建築・土木・測量技術者	科学的・専門的知識と手段を適用し、建築・土木・測量における計画・設計・工事監理・技術指導・施工管理・検査などの技術的な仕事に従事するものをいう。		販売従事者	有体的商品・不動産・有価証券などの売買、売買の仲立・取次・代理などの仕事、保険の代理・専業の仕事、商品の売買・製造・サービスなどに関する取引上の勤務・交渉・受注の仕事など売買・売買類似の仕事に従事するものをいう。小売・卸売店主・販売店員・外交員等。
06	情報処理技術者	電子計算機を用いて、情報の整理・加工・蓄積・検索等を行うことを目的とし、情報処理技術に関する専門知識・経験をもって、システムの分析・設計、プログラムの設計・作成についての技術的な仕事に従事するものをいう。		サービス職業従事者	個人の家計における家事・介護サービス、身の回り用語・調理・接客・接客など個人に対するサービス及び他に分類されないサービスの仕事に従事するものをいう。旅館の主人、支配人、理容師、美容師、クリーニング職、下宿・アパートの管理人、学校・工場等の寄宿舎の舎監・寄宿舎指導員、スチュワーデス等。
07	その他の技術者	上記02～06に含まれない科学的・技術的な仕事に従事するものをいう。		保安職業従事者	国家の防衛、社会・個人・財産の保護、法と秩序の維持などに従事するものをいう。陸上自衛官、海上自衛官、航空自衛官、防衛大学校学生、警察官・海上保安官、鉄道公安員、消防員、看守・守衛、監視人、ガードマン等。
8	教員	学校及び学校教育に類する教育を行う施設又はその他の教育施設において、学生・生徒などの教育・養護に従事するものをいう。 その他の学校の教員 専修学校及び各種学校又は学校以外のその他の教員が含まれる。ただし、個人教授所（塾）教師、家庭教師、司書、茶道指導、活字指導などは14その他の専門的・技術的職業従事者に含める。		農林漁業作業者	農作物の栽培・収穫、養蚕・家畜・家さん、その他の動物の飼育、材木の育成・伐採・搬出、水産動物（両せい（陸）類を含む）の捕獲・採取・養殖する仕事、及びその他の農林漁業類似の仕事並びにこれらに関連する仕事に従事するものをいう。 1. 農林業作業者 農作物の栽培・収穫、養蚕・家畜・家さん、その他の動物（水産動物を除く）の飼育、材木の育成・伐採・搬出などの仕事に従事するもの及び農林業類似の仕事並びにこれらに関連する仕事に従事するものをいう。米作農夫・きこり・庭師・果樹・草花栽培者等。 2. 漁業作業者 海洋・河川・湖沼などの水域において、自然繁殖している水産動物（両せい（陸）類を含む）を採捕する作業、人工的に水産動物を育成・収穫する仕事に従事するもの及びその他の漁業・漁業類似の仕事並びにこれらに関連する仕事に従事するものをいう。漁夫・漁船船長・漁船航海士・水産養殖業者等。
9	医師、歯科医師、薬剤師	医師 医師の免許を有し、身体各部の疾患・機能障害の診断・治療・手術・研究・保健指導、健康管理、臨床検査、医学的矯正・保生、医学的監理、臨床研究に伴う医学的審査、海・空港における出入港検疫などの専門的・技術的な仕事に従事するもの、歯科医師の免許を有し、歯・その周辺組織、又は口内に生ずる全ての疾患についての診断・治療・予防指導などの専門的・技術的な仕事に就くするものをいう。 獣医師 獣医師の免許を有し、家畜・家さん、要がん動物などの診療、動物・畜産物の検疫などの専門的・技術的な仕事に従事するものをいう。 薬剤師 薬剤師の免許を有し、調剤、医薬品の供給などの、薬事に関する専門的・技術的な仕事に従事するものをいう。		運輸・通信従事者	機関車・自動車・船舶・航空機・電車などの運転・操縦の仕事に従事するもの、遠隔地の操作に従事するもの、又はその他の関連作業に従事するものをいう。鉄道運転機関士・自動車運転者・無線通信士・航海士・機関士・操縦士・航空士・電話交換手等。
10	保健師、助産師、看護師	保健師、助産師、看護師等の免許を有し、保健指導、助産、傷病者等に対する療養上の世話などの仕事に従事するものをいう。		生産工程・労務作業	機械・器具・手道具などを削いで原料・材料を加工する仕事、各種の機械器具を組み立て・調整・修理する仕事、製図・印刷・製本の作業、その他の製造・製作工程の仕事、定置機械・機械及び建設機械を操作する仕事、鉱物の採掘・試験・採掘・採掘、ダム・トンネルの掘削などの仕事及びこれらに関連する仕事、建設の仕事並びに他に分類されない運搬・清掃などの労務的作業
11	医療技術者	診療放射線師、臨床検査技師、理学療法士、歯科技工士等の免許を有し、医師又は歯科医師の指示、指導の下に、放射線の人体照射、微生物学的検査、理学療法、歯科工業業務など上記9及び10に含まれない保健衛生に関連する技術的な仕事に従事するものをいう。		上記以外のもの	上記以外の職業及び分類不能または不明のものをいう。

出所：文部科学省「学校基本調査」

## 12. 企業の研究員

本文中用いている「研究者ストック」とは、総務省「科学技術研究調査」の企業等の「研究者」と同義とする。なお、同調査における研究者の定義は次の通り。

### (1) 定義

#### ■研究

事物・機能・現象等について新しい知識を得るために、又は既存の知識の新しい活用の道を開くために行われる創造的な努力及び探求をいう。ただし、企業等及び非営利団体・公的機関の場合は、「製品及び生産・製造工程等に関する開発や技術的改善を図るために行われる活動」も研究業務としており、研究業務に類似するものとの区分は、以下のとおりである。

#### <研究業務とする活動>

##### ①研究所・研究部等で行われる本来的な活動

ここで、本来的な活動とは、研究に必要な思索、考案、情報・資料の収集、試作、実験、検査、分析、報告等をいう。

したがって、研究の実施に必要な機械、器具、装置等の工作、動植物の育成、文献調査等の活動も含む。

②研究所以外、例えば、生産現場である工場等では、上記の活動及びパイロットプラント、プロトタイプモデルの設計・製作及びそれによる試験の活動

##### ③研究に関する庶務・会計等の活動

社内（内部）で研究を実施していなくても委託研究等のために外部へ研究費を支出することは研究活動とする。

#### <研究業務としない活動>

研究所や工場等の生産現場で行われる次のような活動

①生産の円滑化を図るための生産工程を常時チェックする品質管理に関する活動並びに製品、半製品、生産物、土壌・大気等の検査、試験、測定及び分析

②パイロットプラント、プロトタイプモデル等による試験研究の域を脱して、経済的生産のための機器設備等の設計

③一般的な地形図の作成又は地下資源を探するための単なる探査活動及び地質調査

④海洋調査・天体観測等の一般的データ収集

⑤特許の出願及び訴訟に関する事務手続

⑥一般従業者の研修・訓練等の業務

#### ■研究者

研究関係従業者のうち、研究者をいう。

○研究関係従事者の定義（一部抜粋）

従業者のうち研究業務に従事する者をいい、研究者、研究補助者、技能者及び研究事務その他の関係者の四つに分類される。

①研究者（一部抜粋）

大学（短期大学を除く。）の課程を修了した者（又はこれと同等以上の専門的知識を有する者）で、特定の研究テーマをもって研究を行っている者をいう。

ア 企業等及び非営利団体・公的機関

- ・ 主に研究に従事する者  
研究関係業務に従事した時間が主である者をいう。
- ・ 研究を兼務する者  
研究関係業務に従事した時間が主でない者をいう。

②研究補助者（研究者ではない）

研究者を補佐し、その指導に従って研究に従事する者をいう。

③技能者（研究者ではない）

研究者、研究補助者以外の者であって、研究者、研究補助者の指導及び監督の下に研究に付随する技術的サービスを行う者をいう。

④ 研究事務その他の関係者（研究者ではない）

上記以外の者で、研究関係業務のうち庶務、会計、雑務等に従事する者をいう。

出所：総務省「科学技術研究調査」

## （２）設定したパラメータ

### ■博士置き換え率

$\text{博士卒新規採用研究者数（推計）} / \text{研究者ストック}$
-------------------------------------------

出所：文部科学省「学校基本調査」及び総務省「科学技術研究調査」より設定（詳細は第４章参照）

### ■企業就職比率

$\text{博士卒企業の研究員就職者数} / \text{博士卒業者数}$
----------------------------------------

出所：文部科学省「学校基本調査」より産業×職業マトリックスを作成の上、設定（詳細は第４章参照）

## 1.3. 大学教員

文部科学省「教員統計調査」の本務教員とする。なお、同調査における本務教員の定義は次の通り。

## (1) 定義

### ■本務教員

大学に籍を置くすべての本務教員（学長（校長）、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手）をいい、休職（休暇）者、現職のままで長期研修（内外地留学）中の者も含む。

## 14. 公務

文部科学省「学校基本調査」の卒業後の進路産業別就職者数のうち「公務」を対象とする。なお、同調査における公務の定義は次の通り。

### (1) 定義

#### ■公務

国または地方公共団体の機関のうち、国会、裁判所、中央官庁及びその地方支分部局、都道府県庁、市区役所、町村役場など本来の立法事務、司法事務及び行政事務を行う官公署が分類される。

##### ① 国家公務

国の機関のうち、国会、裁判所、中央官庁及びその地方支分部局などであって、本来の立法事務、司法事務及び行政事務を行う事業所が分類される。

##### ② 地方公務

都道府県庁、市区役所、町村役場、地方公共団体の組合及びその地方機関などであって、本来の立法事務及び地方行政事務を行う事業所が分類される。

## 資料2 アンケートによる現状分析

### (1) アンケート調査概要

#### 1) 調査目的

大学院博士課程に進学する研究者は、高度な専門的知識の習得と自己実現を目指す一方、社会ニーズとのミスマッチもあり、豊かな学識に裏打ちされた知見や優れた研究・開発能力を活用できる場が十分に提供されているとは言えない。そのため本調査は、こうした状況について現状把握するとともに、有用な推計プログラムを構築する上で必要な変化要因を探ること、博士課程修了後の出口戦略（大学側への要望、企業等への要望）の参考とすることを目的としている。

#### 2) 調査対象

修士（博士前期）課程及び博士（後期）課程を設置している全国の国公立大学のうち計 28 大学に在籍する学生及び修了者

※対象大学及び対象となる学生・修了者は無作為に抽出した。

#### 3) 調査方法

アンケート郵送・回収（一部、電子メールにて配付・回収）

※アンケート票は以下の 3 種類を作成し、該当する対象者に配付。

- ①修士（博士前期）課程在籍者用
- ②博士（後期）課程在籍者用
- ③博士（後期）課程修了者用

#### 4) 調査時期

2009 年 1 月～2 月上旬

#### 5) 配付数・回収率

配付数については、専攻による偏りが出ないように、平成 20 年度学校基本調査結果の専攻別学生数の構成比を元に決定した。

	①修士在籍		②博士後期在籍		③博士後期修了		計	
	配付数	回収率	配付数	回収率	配付数	回収率	配付数	回収率
人文科学	217	41.5%	120	42.5%	95	12.6%	432	35.4%
社会科学	170	29.4%	118	20.3%	119	15.1%	407	22.6%
理学	217	59.0%	131	51.1%	124	46.0%	472	53.4%
工学	642	62.0%	279	50.5%	257	28.8%	1,178	52.0%
農学	165	30.9%	50	32.0%	43	16.3%	258	28.7%
保健	202	79.2%	336	48.8%	334	41.0%	872	52.9%
その他	259	35.9%	166	51.8%	155	38.7%	580	41.2%
計	1,872	51.8%	1,200	45.8%	1,127	32.4%	4,199	44.9%

(2) 修士（博士前期）課程在籍者のアンケート調査結果

1) 回答者属性

①全体（上段：実数／下段：％）

<性別>(n=970)

男性	女性	無回答
655	288	27
67.5%	29.7%	2.8%

<年齢>(n=970)

24歳以下	25-29歳	30-39歳	40-49歳	50歳以上	無回答
646	232	40	12	12	28
66.6%	23.9%	4.1%	1.2%	1.2%	2.9%

<在籍課程> (n=970)

1年	2年	3年以上	無回答
429	523	18	0
44.2%	53.9%	1.9%	0.0%

<在籍年数>(n=970)

修士課程	博士前期課程	無回答
286	684	0
29.5%	70.5%	0.0%

<学生種別>(n=970)

社会人学生	留学生	一般学生	無回答
66	39	859	6
6.8%	4.0%	88.6%	0.6%

<出身大学>(n=970)

同じ大学	他大学(国立)	他大学(公立)	他大学(私立)	外国の大学	その他	無回答
750	60	11	101	36	11	1
77.3%	6.2%	1.1%	10.4%	3.7%	1.1%	0.1%



## ②専攻別（全体と比較して特徴がみられるもの）

### ◇ 人文科学

性別をみると、他専攻よりも「女性」の割合が比較的高く、男女の比率はほぼ同じである。在籍課程は、「博士前期課程」がほとんどを占めている。在籍年数は、「1年」の割合が低く「2年」が64.4%とやや多い。

### ◇ 社会科学

学生種別では「一般学生」の割合が56.0%とそれほど高くはなく、「社会人学生」「留学生」がそれぞれ約20%を占めている。そのため年齢は「24歳以下」の割合が低く、「25-29歳」が40.0%と最も高くなっている。「30-39歳」も22.0%と他の専攻と比べると多い。在籍課程は、「修士課程」が78.0%と多い。出身大学では、「同じ大学」が20.0%と低く、「他大学（私立）」が46.0%と最も高い。

### ◇ 理学

年齢は、「24歳以下」が81.3%と多い。

### ◇ 工学

性別をみると、「男性」が85.7%を占めており多い。年齢では、「24歳以下」が76.9%と多い。出身大学をみると、「同じ大学」が93.5%と、他大学出身者はほとんどみられない。

### ◇ 農学

年齢をみると、「24歳以下」が84.3%と多い。在籍課程では全員が「博士前期課程」である。在籍年数は、「1年」の割合が低く「2年」が70.6%と多い。出身大学別にみると、「同じ大学」が88.2%と多くなっている。

### ◇ 保健

性別では、「女性」が57.5%と半数を超えており多い。

### ◇ その他の専攻

学生種別にみると、「一般学生」が他専攻と比べると少なく、「社会人学生」が19.4%と多い。そのため、年齢は「24歳以下」の割合が低く、「25-29歳」が41.9%と高い。出身大学は、「同じ大学」が41.9%と半数を割っており、「他大学（国立）」「他大学（私立）」がそれぞれ約20%を占めている。

<専攻別にみた回答者の属性>

(%)

	n=	性別		年齢					在籍課程		在籍年数		
		男性	女性	24歳以下	25-29歳	30-39歳	40-49歳	50歳以上	修士課程	博士前期課程	1年	2年	3年以上
全体	(970)	67.5	29.7	66.6	23.9	4.1	1.2	1.2	29.5	70.5	44.2	53.9	1.9
人文科学	(90)	48.9	46.7	46.7	30.0	6.7	4.4	6.7	7.8	92.2	27.8	64.4	7.8
社会科学	(50)	72.0	28.0	30.0	40.0	22.0	2.0	6.0	78.0	22.0	46.0	48.0	6.0
理学	(128)	66.4	32.8	81.3	17.2	1.6	0.0	0.0	21.9	78.1	43.0	56.3	0.8
工学	(398)	85.7	11.3	76.9	19.6	0.3	0.0	0.0	30.4	69.6	50.3	49.2	0.5
農学	(51)	66.7	33.3	84.3	15.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	29.4	70.6	0.0
保健	(160)	40.6	57.5	66.3	23.8	6.9	0.6	0.6	33.8	66.3	50.6	48.8	0.6
その他	(93)	53.8	38.7	32.3	41.9	9.7	6.5	2.2	39.8	60.2	32.3	63.4	4.3

全体+10%   
  全体-10%

(%)

	n=	学生種別			出身大学					
		社会人学生	留学生	一般学生	同じ大学	他大学(国立)	他大学(公立)	他大学(私立)	外国の大学	その他
全体	(970)	6.8	4.0	88.6	77.3	6.2	1.1	10.4	3.7	1.1
人文科学	(90)	15.6	10.0	72.2	66.7	4.4	0.0	16.7	11.1	1.1
社会科学	(50)	24.0	20.0	56.0	20.0	10.0	4.0	46.0	16.0	4.0
理学	(128)	0.8	1.6	96.9	78.1	11.7	0.8	7.0	2.3	0.0
工学	(398)	0.5	1.8	97.2	93.5	2.3	1.3	1.8	0.5	0.5
農学	(51)	0.0	2.0	98.0	88.2	0.0	3.9	5.9	2.0	0.0
保健	(160)	11.9	0.0	87.5	77.5	5.0	0.6	15.0	0.0	1.9
その他	(93)	19.4	10.8	69.9	41.9	20.4	0.0	21.5	12.9	3.2

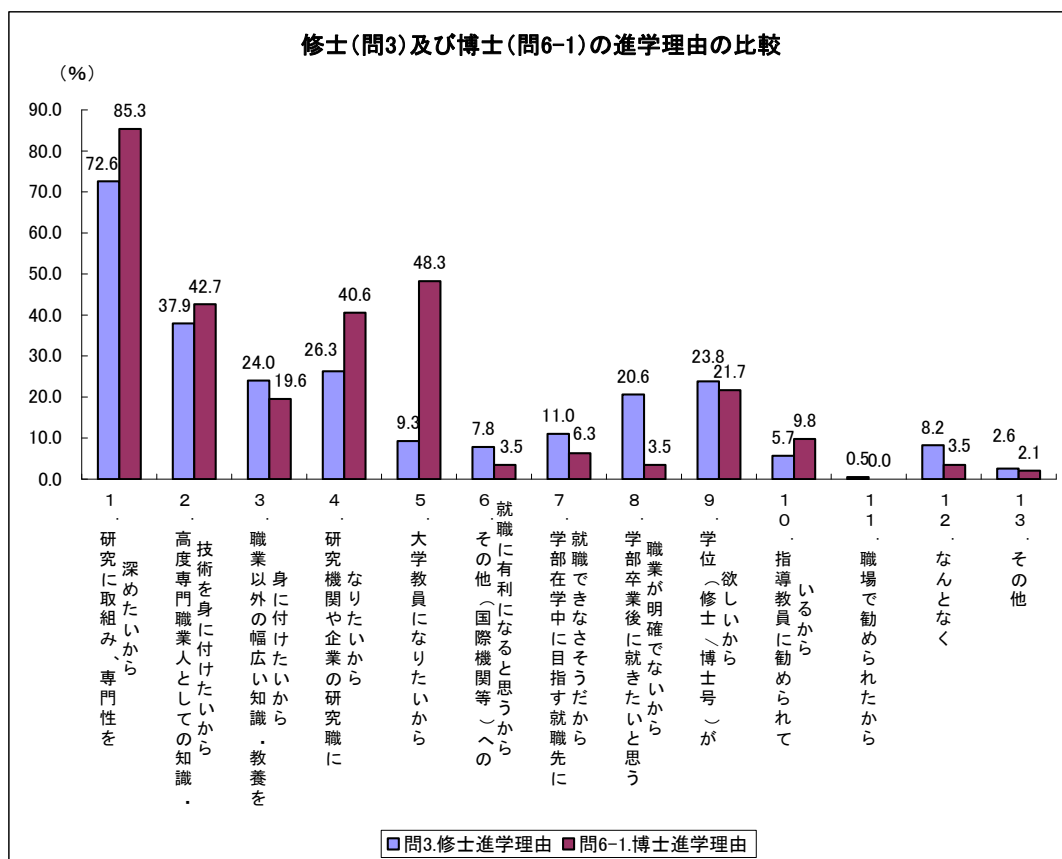
全体+10%   
  全体-10%

## 2) 調査結果の概要

### ①全体

#### ア) 進学理由

修士課程への進学理由（問3）と博士課程への進学理由（問6-1）ともに「専門性を深めたい」が最も多く、修士課程では72.6%、博士課程では85.3%と、博士課程の方が高い。また「大学教員になりたい」は、修士課程では9%程度しかみられなかったのに対し、博士課程では48.3%とほぼ半数にまで達している。さらに「研究機関・企業の研究職に就きたい」も博士課程の方が高くなっている。一方で、「就職できなさそう」や「就きたい職業が明確でない」といったネガティブな理由は博士課程の方が低いことから、修士課程進学時よりも具体的な目的を持ち博士課程への進学を検討する様子が見えてくる。



#### イ) 進学の障壁

進学の障壁は、博士課程への進学意向者（問6-2）、非意向者（問7）ともに、「経済的な面」や「大学教員になるのは難しそう」「キャリアパスが描けない」

といった進学後の進路に関する不安が多く挙げられている。

## ②専攻別

### ◇ 人文科学

修士課程の進学理由（問 3）は、「専門性を深めたい」に次いで「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」が多い。また、「大学教員になりたい」は他の専攻と比較すると比較的高い値となっている。さらに博士課程の進学理由（問 6-1）をみると、「専門性を深めたい」に次いで「大学教員になりたい」が多く挙げられている。

進路（問 4、問 5）は、「民間企業」の「事務職」が最も多く、次いで「博士課程へ進学」が 31.1%と、全ての専攻の中で最も高い博士進学意向率となっている。

博士課程進学の障壁としては、進学意向者（問 6-2）では「経済的な面」「大学教員になることが難しそう」が多い。進学非意向者（問 7）では「社会人として自立した生活を送りたい」に加え「自身の研究能力に限界を感じる」が多い。

### ◇ 社会科学

修士課程の進学理由（問 3）は、「専門性を深めたい」に次いで「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」が多い。また、「大学教員になりたい」は他の専攻と比べると高い値であり、博士課程の進学理由（問 6-1）においてもほぼ全員が「大学教員になりたい」と回答している。

進路（問 4、問 5）は、「民間企業」の「事務職」を挙げる者が多く、「博士課程へ進学」は 20.0%である。

博士課程進学の障壁としては、進学意向者（問 6-2）では「経済的な面」「大学教員になることは難しそう」が多い。進学非意向者（問 7）では「社会人として自立した生活を送りたい」が多い。

### ◇ 理学

修士課程（問 3）及び博士課程（問 6-1）の進学理由は、「専門性を深めたい」が最も多く、他の専攻と比べて最も高い割合となっている。また、「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」「研究機関・企業の研究職に就きたい」という回答が多い。さらに博士課程の進学理由（問 6-1）をみると、「専門性を深めたい」に次いで「研究機関・企業の研究職に就きたい」「大学教員になりたい」が多く挙げられている。

進路（問 4、問 5）は、「民間企業」の「研究職」が最も多い。「博士課程へ進学」は 16.4%である。

博士課程進学の障壁としては、進学意向者（問 6-2）では「大学教員になるのは

難しそう」が多い。進学非意向者（問 7）では「社会人として自立した生活を送りたい」に次いで「自身の研究能力に限界を感じる」「キャリアパスが描けない」が多い。

#### ◇ 工学

修士課程の進学理由（問 3）は、「専門性を深めたい」に次いで「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」が多い。また、博士課程の進学理由（問 6-1）をみると、「専門性を深めたい」に次いで「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」「研究機関・企業の研究職に就きたい」が多く挙げられている。

進路（問 4、問 5）は、ほとんどが「民間企業」と回答しており、職種としては「研究職」と「専門技術職」が多い。「博士課程へ進学」は 6.0%と少ない。

博士課程進学の障壁としては、進学意向者（問 6-2）では「経済的な面」「自身の研究能力に限界を感じる」が多い。進学非意向者（問 7）では「社会人として自立した生活を送りたい」が多い。

#### ◇ 農学

修士課程の進学理由（問 3）は、「専門性を深めたい」に次いで「研究機関・企業の研究職に就きたい」を挙げる者が多い。

進路（問 4、問 5）は、「民間企業」の「研究職」が多い。「博士課程へ進学」は 5.9%と少ない。

博士課程進学の障壁としては、進学非意向者（問 7）では「社会人として自立した生活を送りたい」に次いで「キャリアパスが描けない」が多い。

#### ◇ 保健

修士課程の進学理由（問 3）は、「専門性を深めたい」に次いで「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」が約半数と多く、他の専攻と比べると最も高い値となっている。また、博士課程の進学理由（問 6-1）をみると、「専門性を深めたい」に次いで「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」「大学教員になりたい」が多く挙げられている。

進路（問 4、問 5）は、「医療機関」が約半数を占めており、職種としては「専門技術職」を挙げる者が多い。「博士課程へ進学」は 19.4%である。

博士課程進学の障壁としては、進学意向者（問 6-2）では「経済的な面」「自身の研究能力に限界を感じる」が多い。進学非意向者（問 7）では「社会人として自立した生活を送りたい」が多い。

◇ その他の専攻

修士課程の進学理由（問 3）は、「専門性を深めたい」に次いで「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」が多い。また、「大学教員になりたい」は他の専攻と比べて最も高い値となっている。さらに博士課程の進学理由（問 6-1）をみると、「専門性を深めたい」に次いで「大学教員になりたい」が多く挙げられている。

進路（問 4、問 5）は、「民間企業」の「事務職」が最も多い。「博士課程へ進学」は 28.0%と、人文科学に次いで高い値となっている。

博士課程進学の障壁としては、進学意向者（問 6-2）では「大学教員になるのは難しそう」「自身の研究能力に限界を感じる」が多い。進学非意向者（問 7）では「社会人として自立した生活を送りたい」に次いで「自身の研究能力に限界を感じる」が多い。

### 3) 調査結果

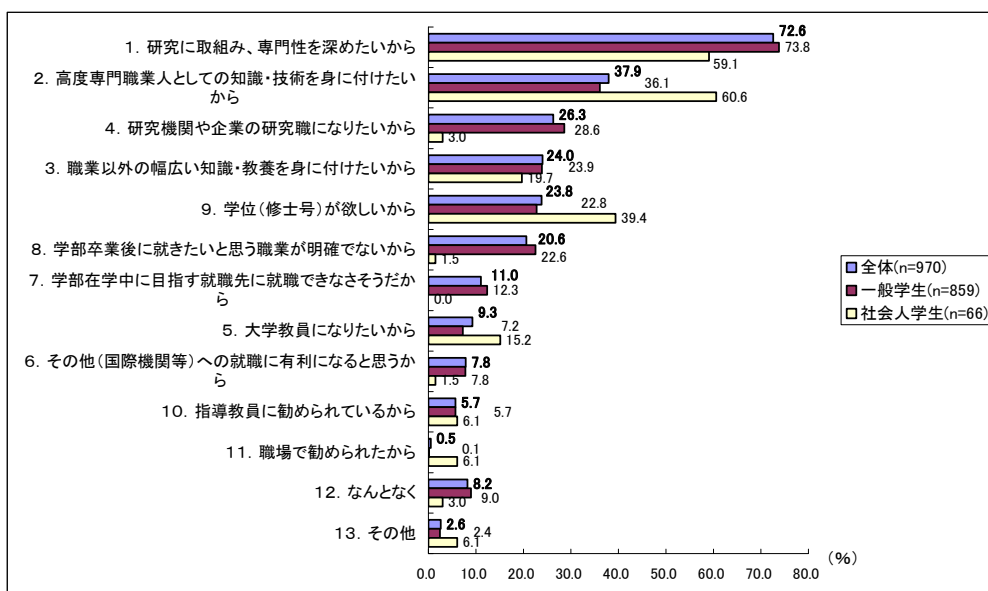
問3. あなたが修士・博士（前期）課程に進学した理由を教えてください。

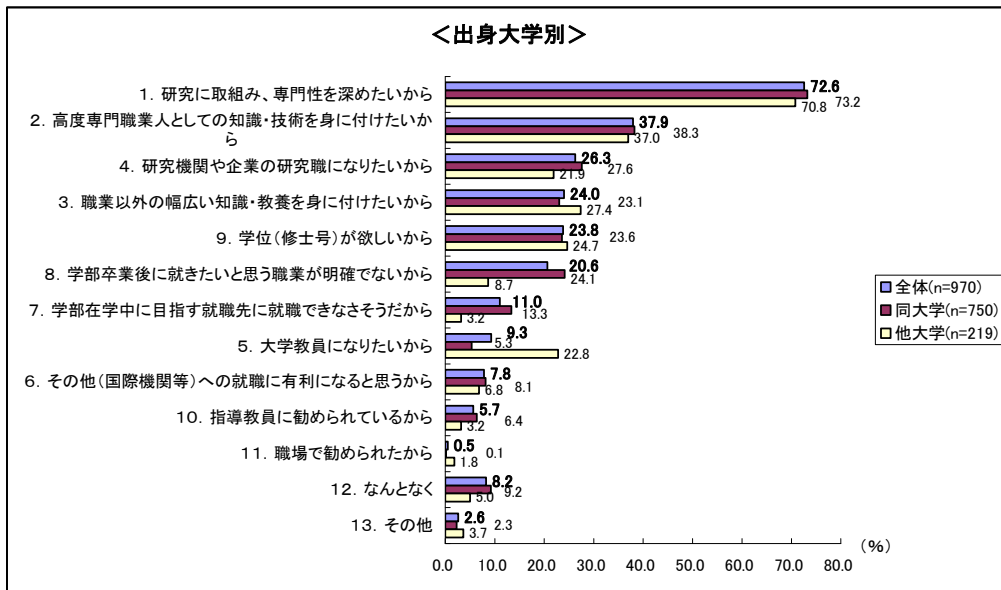
（当てはまるもの全てに○）

進学理由は「専門性を深めたい」が72.6%と最も多い。「知識・技術を身に付けたい」が37.9%、「研究職に就きたい」が26.3%と続く一方で、「就きたい職業が明確でない」が20.6%、「就職できなさそうだから」が11.0%と、就職先がなく進学する者も1割以上存在する。

また社会人学生では、「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」が最も多く、「学位（修士号）が欲しい」「大学教員になりたい」も全体と比べると多い。

出身大学別にみると、他大学出身者では「大学教員になりたい」が22.8%と、全体と比べると多い。





<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 人文科学・社会科学・その他の専攻では、「大学教員になりたい」が多くみられる。さらに人文科学・その他の専攻では、「就きたい職業が明確でない」が少なく、希望する職業に就くために進学する傾向が他専攻よりも強いことがうかがえる。
- ◇ 理学では、「専門性を深めたい」が多く、85.2%が理由として挙げている。
- ◇ 農学では、「研究機関・企業の研究職に就きたい」が多い。
- ◇ 保健では、「高度専門職業人としての知識・技術」が多い。

選択肢	専攻別	(%)							
		全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(970)	(90)	(50)	(128)	(398)	(51)	(160)	(93)
1. 研究に取組み、専門性を深めたいから		72.6	80.0	56.0	85.2	71.6	76.5	63.8	74.2
2. 高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたいから		37.9	30.0	30.0	32.8	37.7	31.4	50.6	39.8
3. 職業以外の幅広い知識・教養を身に付けたいから		24.0	20.0	22.0	21.1	24.9	31.4	23.8	25.8
4. 研究機関や企業の研究職になりたいから		26.3	10.0	18.0	33.6	26.1	43.1	27.5	25.8
5. 大学教員になりたいから		9.3	21.1	20.0	8.6	2.3	2.0	8.8	28.0
6. その他(国際機関等)への就職に有利になると思うから		7.8	7.8	8.0	3.9	9.5	9.8	7.5	5.4
7. 学部在学中に目指す就職先に就職できなさそうだから		11.0	11.1	4.0	6.3	16.1	9.8	8.8	4.3
8. 学部卒業後に就きたいと思う職業が明確でないから		20.6	10.0	12.0	25.8	27.4	23.5	15.0	7.5
9. 学位(修士号)が欲しいから		23.8	21.1	22.0	23.4	22.1	17.6	30.6	26.9
10. 指導教員に勧められているから		5.7	8.9	2.0	5.5	6.0	3.9	6.3	3.2
11. 職場で勧められたから		0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	1.3	1.1
12. なんとなく		8.2	6.7	2.0	7.8	12.3	7.8	3.1	5.4
13. その他(具体的に: )		2.6	5.6	6.0	2.3	1.5	0.0	0.6	7.5
無回答		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

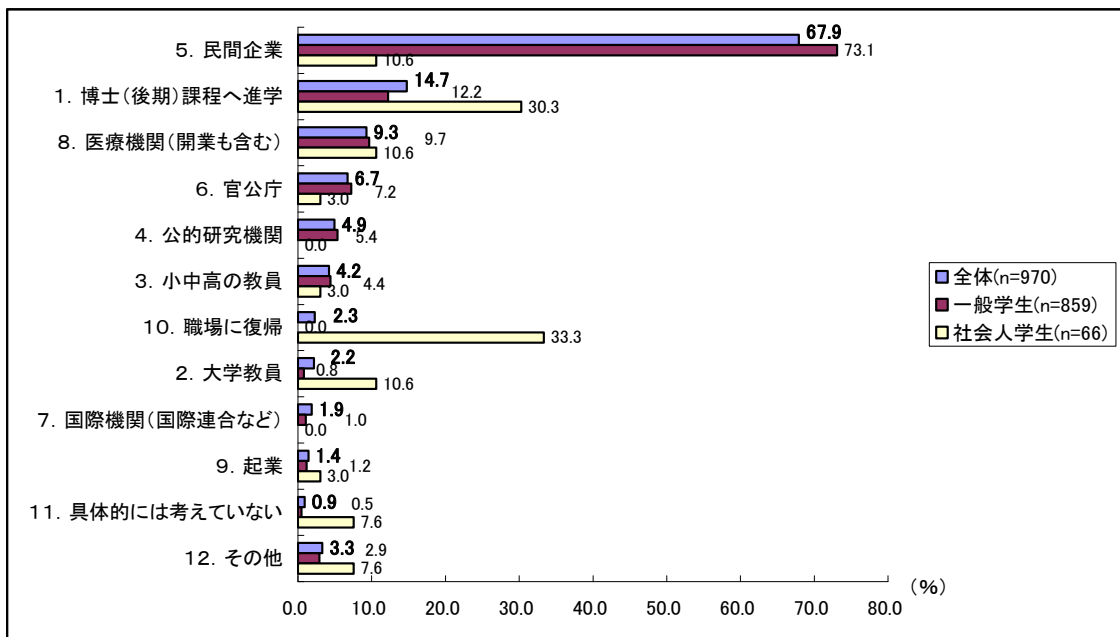
■ 全体+10%    ■ 全体-10%



問4. あなたが今の時点で、修士・博士（前期）課程修了後の進路として考えているものを教えてください。（当てはまるもの全てに○）

進路は「民間企業」が67.9%と圧倒的に多い。次いで「博士（後期）課程へ進学」が14.7%と多く、「大学教員」を目指す者は2.2%にとどまっている。

また社会人学生をみると、「職場に復帰」「博士（後期）課程へ進学」がそれぞれ30%を超えており多い。「大学教員」は10.8%と全体と比べて高くなっている。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 人文科学・その他の専攻では、「博士（後期）課程へ進学」が3割前後と多くみられる。
- ◇ 工学・農学では、「民間企業」が多く9割近くに及んでいる。
- ◇ 保健では、「医療機関」が5割と多く、「民間企業」は3割にとどまっている。

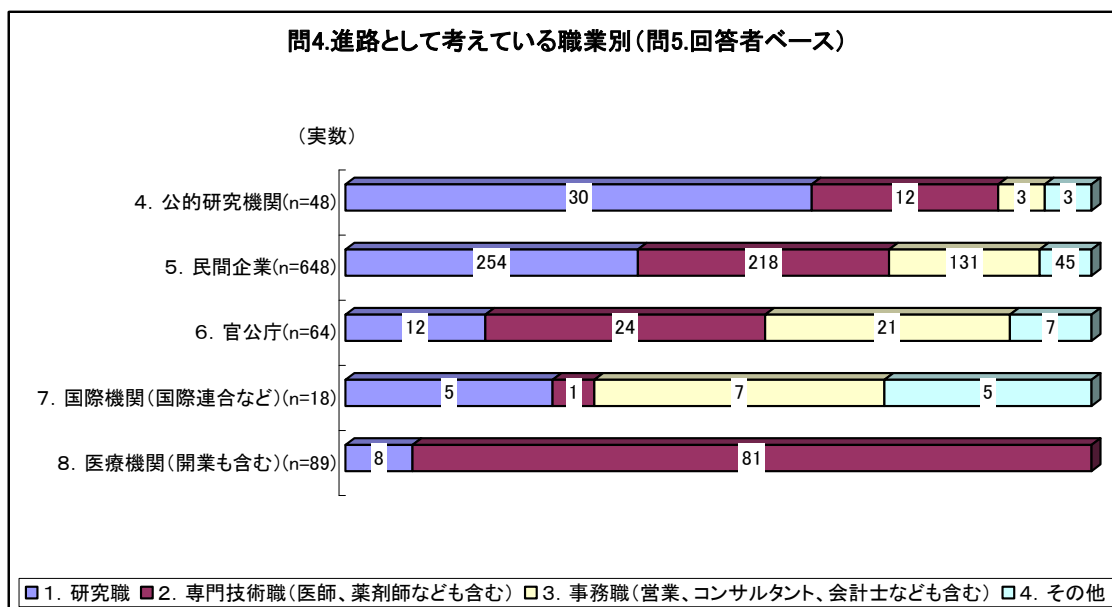
選択肢	専攻別	全体							
		n=	(970)	人文科学 (90)	社会科学 (50)	理学 (128)	工学 (398)	農学 (51)	保健 (160)
1. 博士(後期)課程へ進学		14.7	31.1	20.0	16.4	6.0	5.9	19.4	28.0
2. 大学教員		2.2	5.6	0.0	2.3	0.5	0.0	1.9	8.6
3. 小中高の教員		4.2	11.1	4.0	10.2	0.8	0.0	0.0	14.0
4. 公的研究機関		4.9	4.4	8.0	6.3	4.0	5.9	5.6	4.3
5. 民間企業		67.9	45.6	56.0	77.3	89.4	88.2	29.4	46.2
6. 官公庁		6.7	12.2	2.0	7.8	5.5	9.8	6.3	6.5
7. 国際機関(国際連合など)		1.9	4.4	6.0	0.0	1.0	0.0	0.6	6.5
8. 医療機関(開業も含む)		9.3	1.1	0.0	1.6	0.0	0.0	51.9	4.3
9. 起業		1.4	1.1	8.0	0.0	1.0	2.0	0.6	3.2
10. 職場に復帰		2.3	5.6	6.0	0.8	0.3	0.0	2.5	8.6
11. 具体的には考えていない		0.9	3.3	2.0	0.0	0.8	0.0	1.3	0.0
12. その他		3.3	4.4	12.0	0.0	1.5	3.9	6.3	4.3
無回答		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

■ 全体+10%    ■ 全体-10%

(問4. で「4～8」のいずれかに回答した方)

問5. 今の時点で進路として主に考えている職種は何ですか。(〇は1つ)

職種は、公的研究機関では「研究職」が多い一方で、医療機関では多くが「専門技術職」と回答している。また、民間企業では「研究職」がやや多いが「専門技術職」との差は大きくはなく、「事務職」も約2割存在する。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 人文科学・社会科学・その他の専攻では、「事務職」が高く、特に人文科学・社会科学では7割を超えている。
- ◇ 理学・農学では、「研究職」が約4割と多い。
- ◇ 保健では、「専門技術職」が約7割と多い。

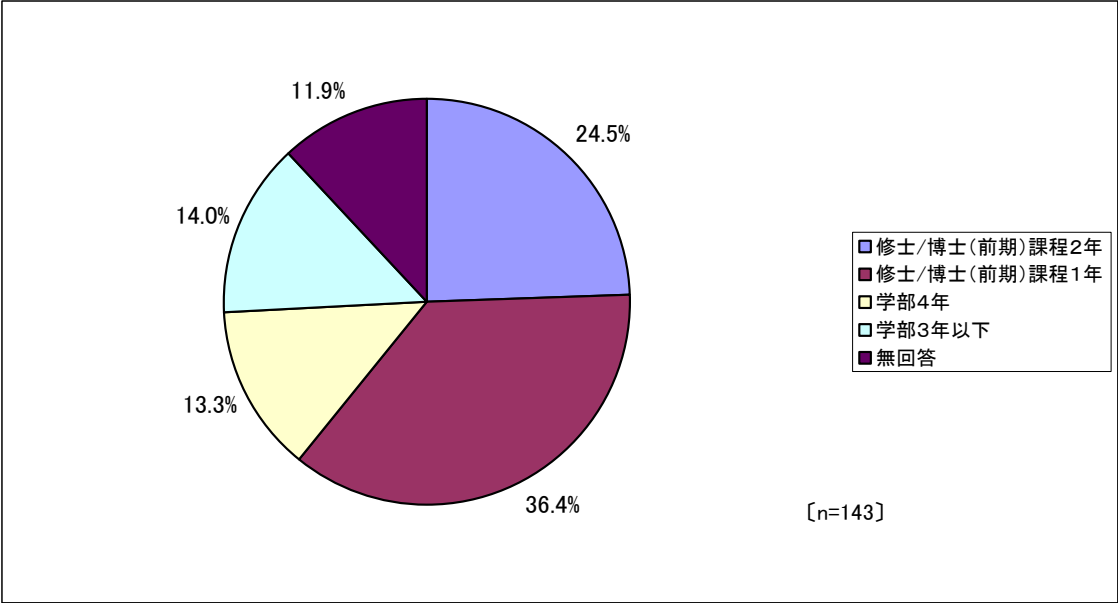
(%)

専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
n=	(777)	(48)	(32)	(104)	(364)	(48)	(126)	(55)
1. 研究職	34.1	6.3	6.3	44.2	42.0	47.9	22.2	18.2
2. 専門技術職(医師、薬剤師なども含む)	39.0	8.3	3.1	24.0	43.4	10.4	72.2	34.5
3. 事務職(営業、コンサルタント、会計士なども含む)	18.5	70.8	81.3	14.4	8.8	25.0	4.8	34.5
4. その他	6.7	12.5	9.4	13.5	4.4	16.7	0.0	9.1
無回答	1.7	2.1	0.0	3.8	1.4	0.0	0.8	3.6

全体+10%   
  全体-10%

(問4. で「1. 博士(後期)課程へ進学」と回答した方)  
 問6. あなたが、博士(後期)課程への進学を決意したのはいつ頃ですか。(○は1つ)

進学決意時期として最も多いのは「修士/博士(前期)課程1年」で、36.4%である。次いで「学部(計)」が27.3%と多く、比較的早い時期から進学を考えている様子がうかがえる。



<専攻別>

- ◇ 工学・保健では、「修士/博士(前期)課程1年」が多い。
- ◇ 人文科学・理学・その他の専攻では、「修士/博士(前期)課程2年」で進学を決意した者が少なからず存在する。

(実数)

選択肢 \ 専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
n=	(143)	(28)	(10)	(21)	(24)	(3)	(31)	(26)
修士/博士(前期)課程2年	35 (24.5%)	8	1	7	4	1	5	9
修士/博士(前期)課程1年	52 (36.4%)	9	4	6	10	0	17	6
学部4年	19 (13.3%)	6	1	4	3	0	3	2
学部3年以下	20 (14.0%)	2	3	4	4	0	0	7
無回答	17 (11.9%)	3	1	0	3	2	6	2

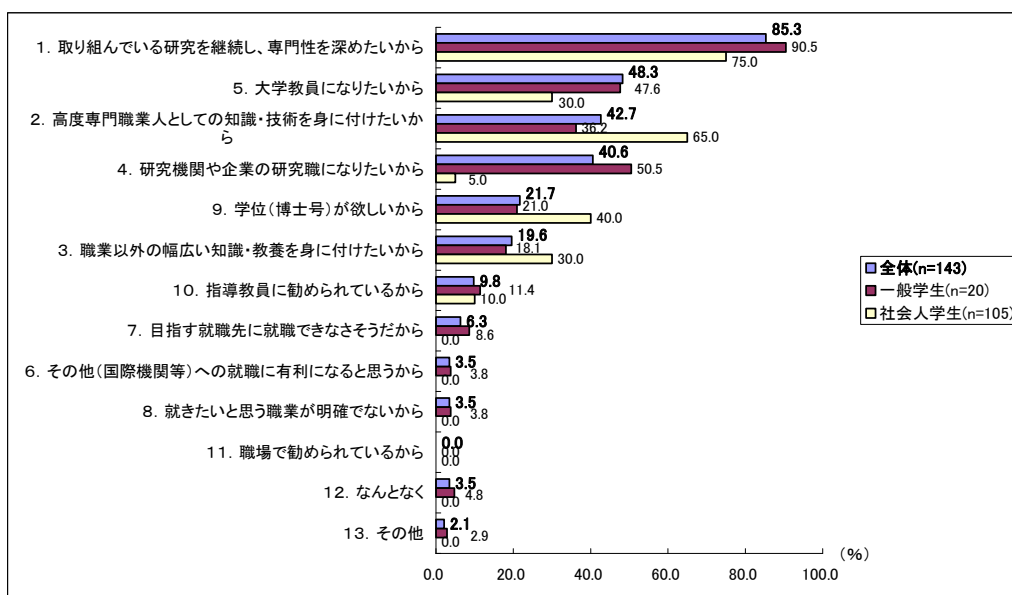
(問4. で「1. 博士(後期)課程へ進学」と回答した方)

問6-1. あなたが、博士(後期)課程に進学したい理由を教えてください。

(当てはまるもの全てに○)

進学理由としては「専門性を深めたい」が85.3%と最も多い。次いで「大学教員になりたい」が48.3%と多く、半数近くが挙げている。「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」「研究機関・企業の研究職に就きたい」も約4割を占めている。

また、一般学生では「専門性を深めたい」に次いで「研究機関・企業の研究職に就きたい」が多く、社会人学生では「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」が多い。



<専攻別>

◇ 社会科学では、ほぼ全員が「大学教員になりたい」と回答している。

選択肢	専攻別	(実数)							
		全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(143)	(28)	(10)	(21)	(24)	(3)	(31)	(26)
1. 取り組んでいる研究を継続し、専門性を深めたいから		122 (85.3%)	26	9	19	19	3	23	23
2. 高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたいから		61 (42.7%)	9	2	8	15	1	16	10
3. 職業以外の幅広い知識・教養を身に付けたいから		28 (19.6%)	3	1	3	7	0	9	5
4. 研究機関や企業の研究職になりたいから		58 (40.6%)	3	5	12	14	1	13	10
5. 大学教員になりたいから		69 (48.3%)	13	9	10	6	1	16	14
6. その他(国際機関等)への就職に有利になると思うから		5 (3.5%)	0	2	0	1	0	1	1
7. 修士・博士(前期)課程修了では目指す就職先に就職できなさそうだから		9 (21.7%)	1	0	2	2	0	3	1
8. 修士・博士(前期)課程修了後に就きたいと思う職業が明確でないから		5 (3.5%)	1	0	1	1	0	2	0
9. 学位(博士号)が欲しいから		31 (21.7%)	3	3	3	8	1	8	5
10. 指導教員に勧められているから		14 (9.8%)	3	0	1	1	0	8	1
11. 職場で勧められているから		0 (0.0%)	0	0	0	0	0	0	0
12. なんとなく		5 (3.5%)	0	0	1	0	0	1	3
13. その他(具体的に: )		3 (2.1%)	1	0	0	0	0	1	1
無回答		2 (1.4%)	0	0	0	2	0	0	0

(問4. で「1. 博士(後期)課程へ進学」と回答した方)

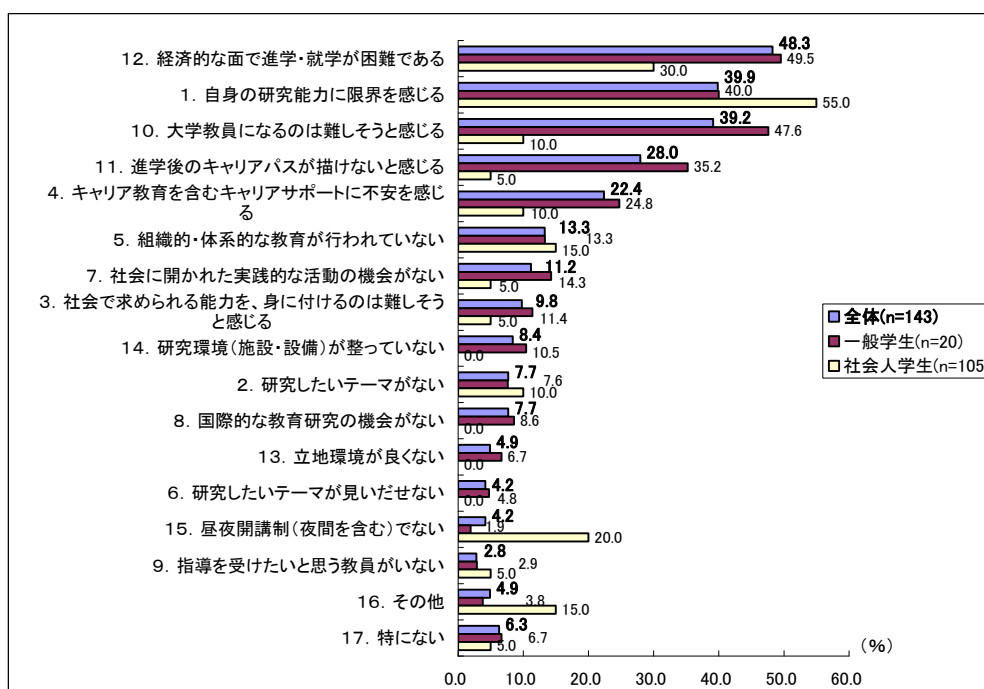
問6-2. 今後、博士(後期)課程への進学において障壁となりそうなことはありますか。

(当てはまるもの全てに○)

進学の障壁としては、「経済的な面」が48.3%と半数近くが回答している。また、「大学教員になるのは難しそう」「キャリアパスが描けない」「キャリアサポートに不安を感じる」といった修了後の進路に不安を感じる項目が上位に上がっている。

一般学生では、「経済的な面」と「大学教員になるのは難しそう」が多く、それぞれ半数近くを占めている。

社会人学生では、「自身の研究能力に限界を感じる」が最も多く、半数を超えている。また、「昼夜開講制でない」を挙げる者が20.0%存在する。



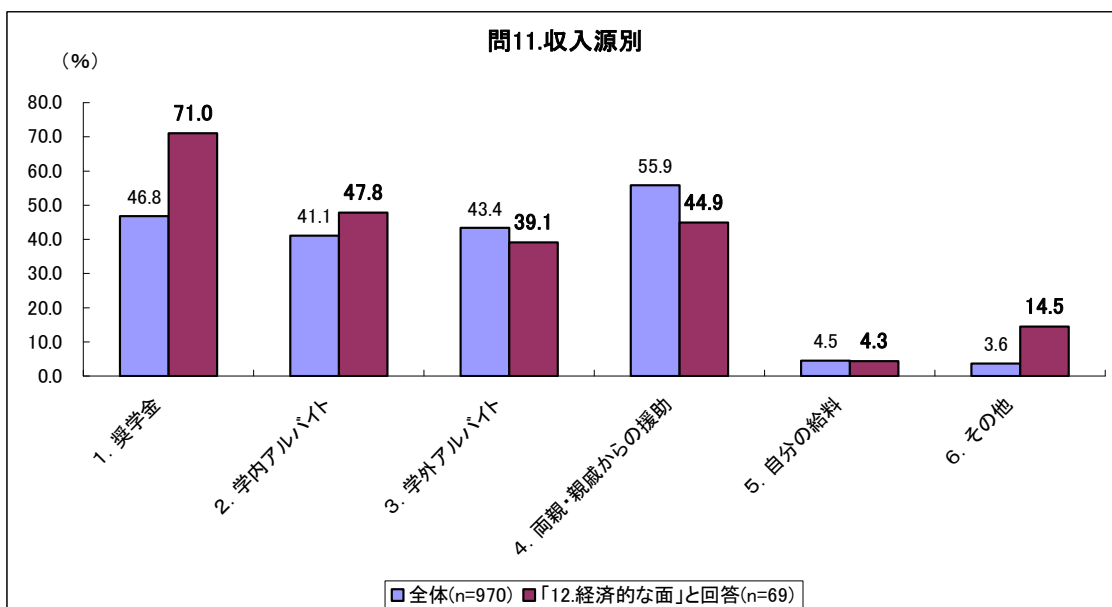
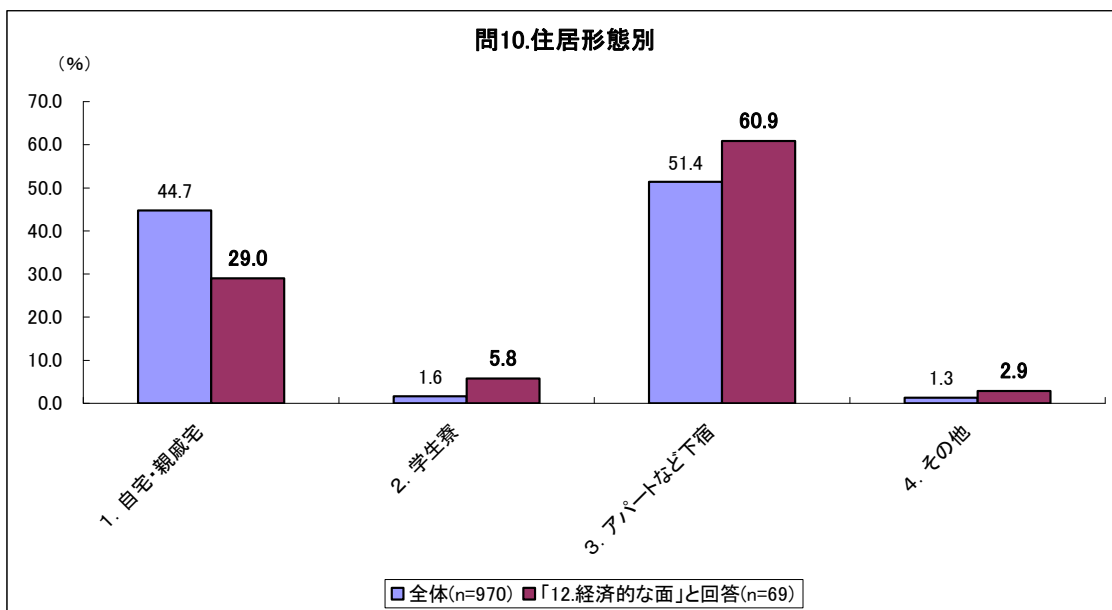
<専攻別>

- ◇ 人文科学・社会科学・理学・その他では、「大学教員になるのは難しそう」が多い。
- ◇ 理学・保健・その他では、「自身の研究能力に限界を感じる」と多い。

選択肢	専攻別	(実数)							
		全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(143)	(28)	(10)	(21)	(24)	(3)	(31)	(26)
1. 自身の研究能力に限界を感じる		57 (39.9%)	6	3	9	7	1	17	14
2. 研究したいテーマがない		11 (7.7%)	0	0	4	2	0	3	2
3. 社会で求められる能力(業務遂行能力、コミュニケーション力、協働性、マネジメント能力等)を、博士(後期)課程で身に付けるのは難しそうと感じること		14 (9.8%)	2	0	4	1	0	3	4
4. 博士(後期)課程でのキャリア教育を含むキャリアサポートに不安を感じる		32 (22.4%)	6	2	5	4	0	6	9
5. コースワーク(講義、演習)が充実しておらず、組織的・体系的な教育が行われていない		19 (13.3%)	4	2	2	1	0	5	5
6. 教育研究の内容が限定されており、研究したいテーマが見いだせない		6 (4.2%)	2	0	0	2	0	1	1
7. 企業等へのインターンシップや企業等との共同研究などの社会に開かれた実践的な活動の機会がない		16 (11.2%)	1	0	5	2	0	3	5
8. 海外の大学への留学や国際学会等への参加等の国際的な教育研究の機会がない		11 (7.7%)	3	1	0	2	0	1	4
9. 指導を受けたいと思う教員がいない		4 (2.8%)	1	0	0	1	0	0	2
10. 大学教員になるのは難しそうと感じること		56 (39.2%)	14	5	12	3	0	8	14
11. 民間企業等への就職も含め、進学後のキャリアパスが描けないと感じること		40 (28.0%)	6	1	6	5	2	10	10
12. 経済的な面で進学・就学が困難である		69 (48.3%)	15	7	9	9	1	18	10
13. 立地環境が良くない		7 (4.9%)	1	0	1	1	0	1	3
14. 研究環境(施設・設備)が整っていない		12 (8.4%)	3	0	2	0	0	2	5
15. 昼夜開講制(夜間を含む)でない		6 (4.2%)	2	0	1	0	0	1	2
16. その他(具体的に: )		7 (4.9%)	1	0	0	1	0	3	2
17. 特になし		9 (6.3%)	2	0	2	3	1	0	1
無回答		2 (1.4%)	0	0	0	2	0	0	0

■ 「12. 経済的な面」回答者（69名）の属性

- ◇ 住居形態別にみると、「自宅・親戚宅」は2割台にとどまっており、全体と比べ「アパートなど下宿」が多い。
- ◇ 収入源別では、全体としては最も多い「両親・親戚からの援助」が半数を割っており、「奨学金」が約7割と多くなっている。



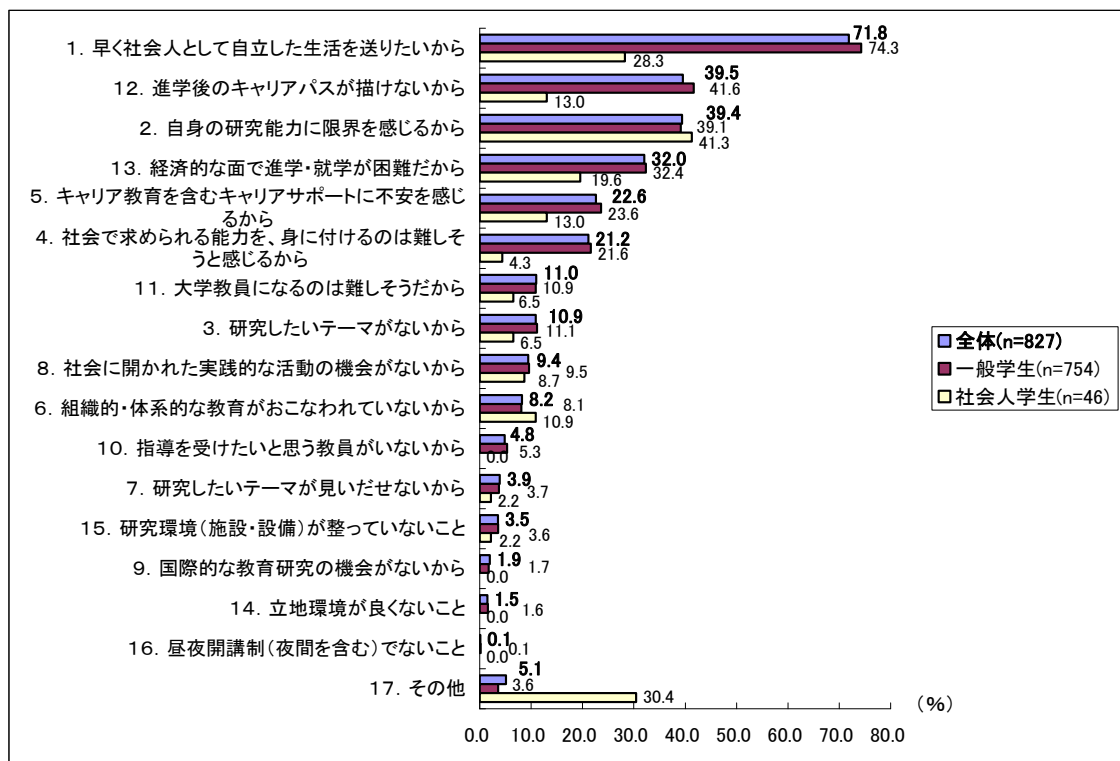
(問4で「1. 博士(後期)課程へ進学」と回答しなかった方)

問7. 博士(後期)課程への進学を考えていない理由は何ですか。

(当てはまるもの全てに○)

進学を考えていない理由としては、「社会人として自立した生活を送りたい」が最も多く、71.8%を占めている。次いで「キャリアパスが描けない」が39.5%、「自身の研究能力に限界を感じる」が39.4%、「経済的な面」が32.0%となっている。

社会人学生をみると、「自身の研究能力に限界を感じる」が41.3%と最も多い。また、「その他」が30.4%となっているが、内容としては、修了後は職場復帰をすることになっており最初から博士課程への進学は考えていなかったという回答がほとんどであった。





<専攻別>※全体と比較して特徴がみられるもの

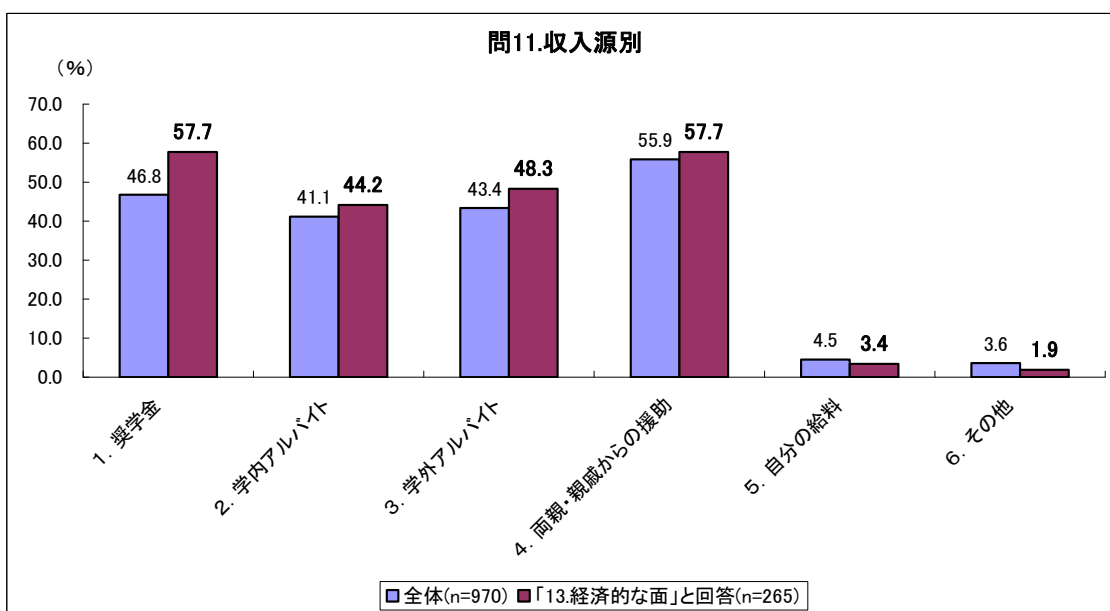
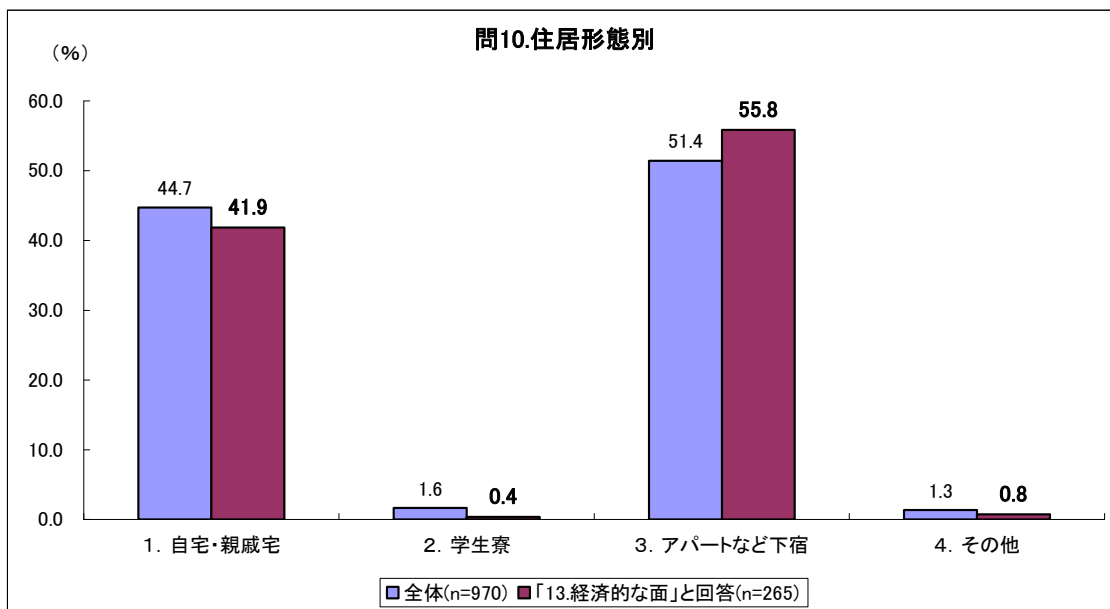
- ◇ 人文科学では、「大学教員になるのは難しそう」が多い。
- ◇ 理学では、「自身の研究能力に限界を感じる」「キャリアパスが描けない」が約5割と多く、「大学教員になるのは難しそう」も多くみられる。
- ◇ 農学では、「キャリアパスが描けない」が約6割を占めており多い。
- ◇ 保健では、「キャリアパスが描けない」は他専攻よりも少ない。

選択肢	専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(827)	(62)	(40)	(107)	(374)	(48)	(129)	(67)
1. 早く社会人として自立した生活を送りたいから		71.8	54.8	60.0	71.0	76.5	81.3	75.2	56.7
2. 自身の研究能力に限界を感じるから		39.4	48.4	35.0	57.0	38.8	22.9	25.6	47.8
3. 研究したいテーマがないから		10.9	8.1	7.5	15.0	11.5	8.3	8.5	11.9
4. 社会で求められる能力(業務遂行能力、コミュニケーション力、協調性等)を、博士(後期)課程で身に付けるのは難しそうと感じるから		21.2	19.4	17.5	23.4	21.7	20.8	20.2	20.9
5. 博士(後期)課程でのキャリア教育を含むキャリアサポートに不安を感じるから		22.6	21.0	12.5	21.5	22.2	29.2	21.7	31.3
6. コースワーク(講義、演習)が充実しておらず、組織的・体系的な教育が行われていないから		8.2	8.1	10.0	6.5	6.4	12.5	10.1	13.4
7. 教育研究の内容が限定されており、研究したいテーマが見いだせないから		3.9	3.2	5.0	5.6	3.5	4.2	3.1	4.5
8. 企業等へのインターンシップや企業等との共同研究などの社会に開かれた実践的な活動の機会がないから		9.4	9.7	12.5	11.2	8.0	8.3	8.5	14.9
9. 海外の大学への留学や国際学会等への参加などの国際的な教育研究の機会がないから		1.9	1.6	2.5	1.9	2.4	0.0	0.8	3.0
10. 指導を受けたいと思う教員がいないから		4.8	3.2	2.5	1.9	5.9	2.1	6.2	6.0
11. 大学教員になるのは難しそうだから		11.0	21.0	17.5	24.3	7.5	8.3	3.9	11.9
12. 民間企業等への就職も含め、進学後のキャリアパスが描けないから		39.5	40.3	32.5	53.3	39.8	60.4	23.3	35.8
13. 経済的な面で進学・就学が困難だから		32.0	40.3	22.5	30.8	31.8	33.3	29.5	37.3
14. 立地環境が良くないこと		1.5	3.2	2.5	0.0	1.3	2.1	2.3	0.0
15. 研究環境(施設・設備)が整っていないこと		3.5	4.8	5.0	3.7	3.2	4.2	3.9	1.5
16. 昼夜開講制(夜間を含む)でないこと		0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0
17. その他(具体的に: )		5.1	17.7	10.0	2.8	1.9	0.0	4.7	16.4
無回答		5.7	8.1	7.5	5.6	5.9	2.1	5.4	4.5

■ 全体+10%    □ 全体-10%

■ 「13. 経済的な面」回答者（265名）の属性

- ◇ 住居形態別にみると、全体と比べて「アパートなど下宿」が多い。
- ◇ 収入源別では、「奨学金」が半数を超えており高く、「両親・親戚からの援助」と同率となっている。



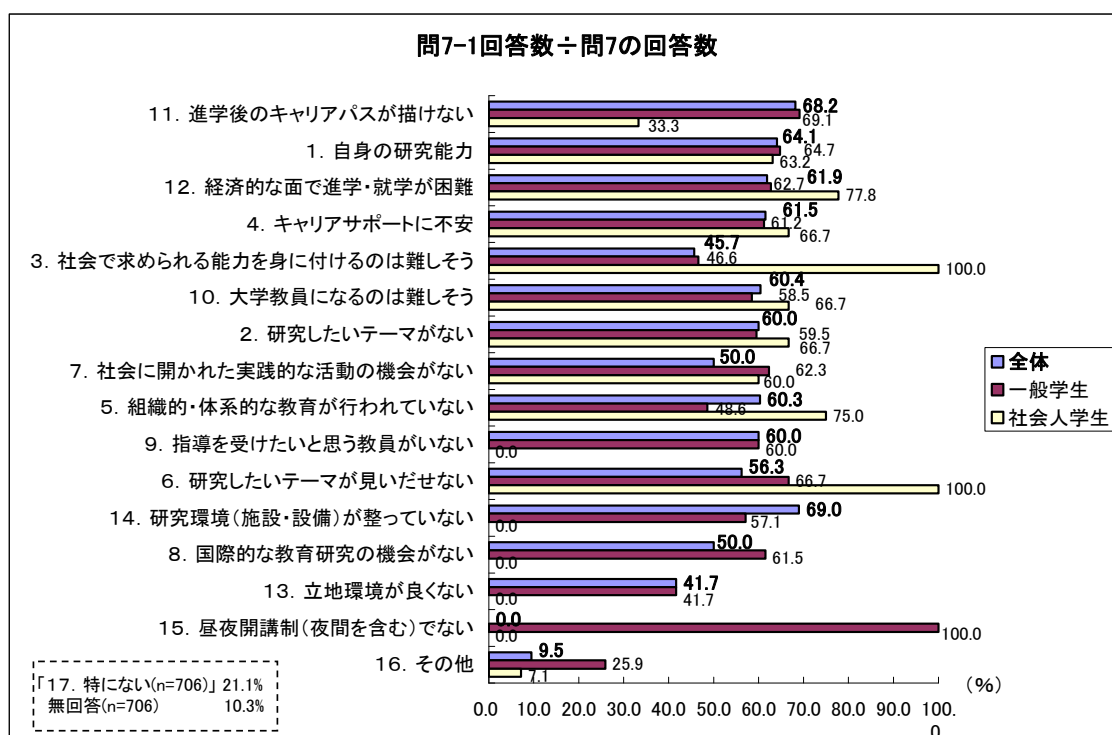
(問7で「2～17」のいずれかに回答した方)

問7-1. 問7で回答した選択肢の中で、この点がクリアできれば博士(後期)課程への進学を考え直すといったことはありますか。(当てはまるもの全てに○)

クリアできれば進学を考え直す点としては、どの項目もほぼ同じ割合であり、項目間における差はほとんどみられない。ただし、「社会で求められる能力を身に付けるのは難しそう」「立地環境」は半数を切っており、他の項目に比べると低めである。

また、「特になし」が21.1%と、進学意向が全くみられない者も少なからず存在している。

社会人学生では、「社会で求められる能力を身に付けるのは難しそう」「研究したいテーマが見出せない」を、全員が回答している。また、「経済的な面」「組織・体系的な教育が行われていない」が70%を超え、他の項目よりも多く挙げられている。

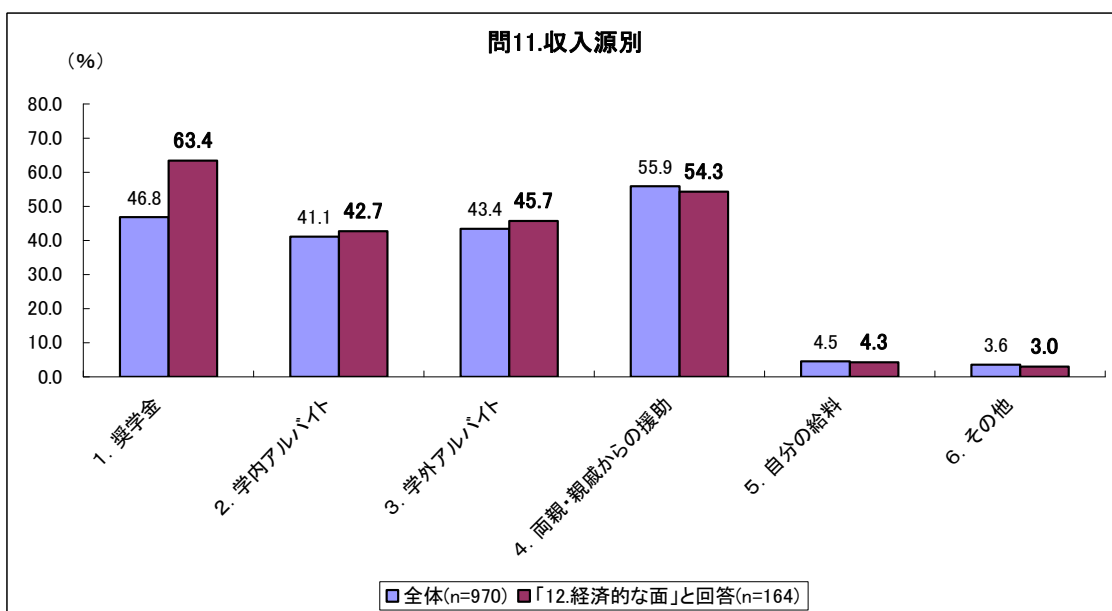
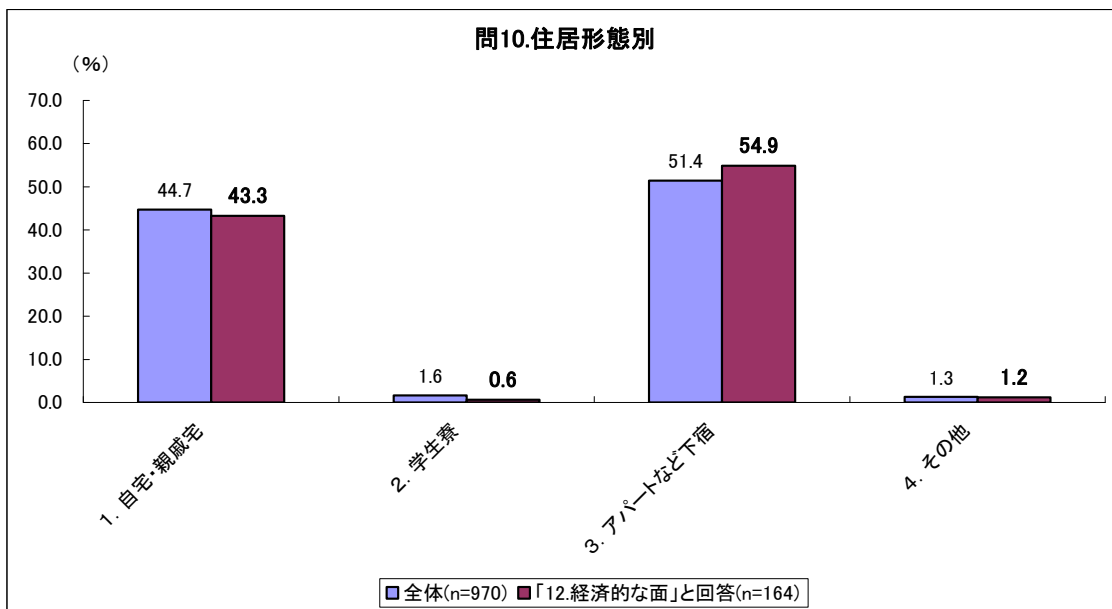


【参考】n数一覧表

	選択肢番号(グラフ上から順に)															
	11	1	12	4	3	10	2	7	5	9	6	14	8	13	15	16
全体	(327)	(326)	(265)	(187)	(175)	(91)	(90)	(78)	(68)	(40)	(32)	(29)	(16)	(12)	(1)	(42)
一般学生	(314)	(295)	(244)	(178)	(163)	(82)	(84)	(72)	(61)	(40)	(28)	(27)	(13)	(12)	(1)	(27)
社会人学生	(6)	(19)	(9)	(6)	(2)	(3)	(3)	(4)	(5)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(0)	(14)

■ 「12. 経済的な面」回答者（164名）の属性

- ◇ 住居形態別にみると、全体と比べ「アパートなど下宿」がやや多い。
- ◇ 収入源別では、「奨学金」が63.4%と、全体では最も高い「両親・親戚からの援助」よりも高くなっている。



(3) 博士（後期）課程在籍者のアンケート調査結果

1) 回答者属性

①全体（上段：実数／下段：％）

<性別>(n=549)

男性	女性	無回答
387	159	3
70.5%	29.0%	0.5%

<年齢>(n=549)

29歳以下	30-34歳	35-39歳	40-49歳	50歳以上	無回答
321	135	52	15	19	7
58.5%	24.6%	9.5%	2.7%	3.5%	1.3%

<在籍課程>(n=549)

博士後期課程	医歯獣医学の博士課程	5年一貫性の博士課程	無回答
385	164	0	0
70.1%	29.9%	0.0%	0.0%

<在籍年数>(n=549)

1年	2年	3年	4年	5年以上	無回答
178	154	148	50	18	1
32.4%	28.1%	27.0%	9.1%	3.3%	0.2%

学位取得見込みあり	学位取得見込みなし	無回答
134	53	29
62.0%	24.5%	13.4%

<学生種別>(n=549)

社会人学生	留学生	一般学生	無回答
139	54	347	9
25.3%	9.8%	63.2%	1.6%

<学位取得見込み>(n=216)

<採択の状況>(n=549)

特別研究員	21世紀COE	グローバルCOE	採択されていない	無回答
71	47	101	371	17
12.9%	8.6%	18.4%	67.6%	3.1%

<出身大学>(n=549)

同じ大学	他大学(国立)	他大学(公立)	他大学(私立)	外国の大学	その他	無回答
296	101	13	79	56	2	2
53.9%	18.4%	2.4%	14.4%	10.2%	0.4%	0.4%

## ②専攻別（全体と比較して特徴がみられるもの）

※農学は、n数が少ないため割愛

### ◇ 人文科学

性別は、「女性」が49.0%と他の専攻と比べると多く、男女比はほぼ半々となっている。在籍年数は、「2年」が少なく、「3年」が37.3%と多い。出身大学は、「同じ大学」が「他大学（私立）」と同率の31.4%であり、他大学出身者の占める割合が高い。採択の状況では、「どれにも採択されていない」が86.3%と多くなっている。

### ◇ 社会科学

学生種別は、「一般学生」の割合がそれほど多くなく、「留学生」が25.0%と比較的多い。そのため、年齢は「30-34歳」が多く「29歳以下」と同数となっている。採択の状況をみると、「採択されていない」が多い。学位取得については、「取得見込なし」が半数を占めている。

### ◇ 理学

性別は、「男性」が86.6%と多い。学生種別では、「一般学生」が91.0%を占めており、年齢は「29歳以下」の年齢の低い者が多くなっている。在籍年数は、「1年」が少なく、「2年」が38.8%と多い。出身大学は、「同じ大学」が68.7%と多い。

### ◇ 工学

性別は、「男性」が87.9%と多い。学生種別では、「社会人学生」が少なく「一般学生」の割合が多くなっている。そのため年齢は「29歳以下」が77.3%と多い。出身大学では、「同じ大学」が72.3%と多い。採択の状況では、「グローバルCOE」取得が29.1%と高く、「どれにも採択されていない」が57.4%と低い。学位については、「取得見込あり」が76.9%と他の専攻と比べると高くなっている。

### ◇ 保健

性別は、「女性」が39.0%とやや多い。学生種別では「社会人学生」が51.8%と約半数を占めており、年齢は「30-34歳」が39.0%と最も多く、「35-39歳」も20.7%存在する。

### ◇ その他の専攻

出身大学をみると、「同じ大学」が37.2%と低く、他大学出身者が多くなっている。採択の状況では、「どれにも採択されていない」が52.3%と他の専攻と比べると低い。学位は、「取得見込あり」が40.6%と半数を割っており低い。

<専攻別にみた回答者の属性>

(%)

	n=	性別		年齢					在籍課程		在籍年数				
		男性	女性	29歳以下	30-34歳	35-39歳	40-49歳	50歳以上	博士後期課程	医歯獣医学の博士課程	1年	2年	3年	4年	5年以上
全体	(549)	70.5	29.0	58.5	24.6	9.5	2.7	3.5	70.1	29.9	32.4	28.1	27.0	9.1	3.3
人文科学	(51)	51.0	49.0	56.9	17.6	11.8	5.9	7.8	100.0	0.0	33.3	17.6	37.3	2.0	9.8
社会科学	(24)	66.7	33.3	41.7	41.7	0.0	4.2	8.3	100.0	0.0	29.2	20.8	25.0	16.7	8.3
理学	(67)	86.6	13.4	91.0	4.5	4.5	0.0	0.0	100.0	0.0	20.9	38.8	32.8	6.0	1.5
工学	(141)	87.9	11.3	77.3	15.6	1.4	1.4	2.8	100.0	0.0	34.0	29.1	29.8	5.7	1.4
農学	(16)	75.0	25.0	50.0	43.8	6.3	0.0	0.0	100.0	0.0	31.3	6.3	31.3	25.0	6.3
保健	(164)	60.4	39.0	34.8	39.0	20.7	2.4	2.4	0.0	100.0	36.6	27.4	18.9	15.2	1.2
その他	(86)	60.5	38.4	54.7	23.3	7.0	5.8	5.8	100.0	0.0	31.4	31.4	26.7	4.7	5.8

■ 全体+10%    □ 全体-10%

(%)

	n=	学生種別			出身大学						採択の状況				(最終学年在籍者のみ) 学位取得見込み		
		社会人学生	留学生	一般学生	同じ大学	他大学(国立)	他大学(公立)	他大学(私立)	外国の大学	その他	特別研究員	21世紀COE	グローバルCOE	採択されていない	n=	学位取得見込みあり	学位取得見込みなし
全体	(549)	25.3	9.8	63.2	53.9	18.4	2.4	14.4	10.2	0.4	12.9	8.6	18.4	67.6	(216)	62.0	24.5
人文科学	(51)	23.5	11.8	64.7	31.4	15.7	3.9	31.4	17.6	0.0	9.8	0.0	3.9	86.3	(25)	60.0	36.0
社会科学	(24)	25.0	25.0	50.0	45.8	25.0	0.0	12.5	16.7	0.0	0.0	12.5	16.7	79.2	(12)	41.7	50.0
理学	(67)	4.5	1.5	91.0	68.7	16.4	4.5	7.5	3.0	0.0	10.4	9.0	11.9	74.6	(27)	66.7	33.3
工学	(141)	8.5	11.3	78.0	72.3	9.2	0.0	7.8	9.2	0.7	19.1	12.1	29.1	57.4	(52)	76.9	17.3
農学	(16)	25.0	6.3	68.8	56.3	12.5	0.0	18.8	12.5	0.0	12.5	0.0	25.0	68.8	(10)	90.0	0.0
保健	(164)	51.8	5.5	42.1	48.8	26.8	2.4	15.2	6.7	0.0	6.7	6.7	14.0	73.8	(58)	58.6	3.4
その他	(86)	19.8	17.4	59.3	37.2	19.8	4.7	18.6	17.4	1.2	22.1	11.6	22.1	52.3	(32)	40.6	56.3

■ 全体+10%    □ 全体-10%

## 2) 調査結果の概要

### ①全体

#### ア) 進学理由

進学理由（問 4）では「研究を継続し専門性を深めたい」、大学を選んだ理由（問 5）では「研究したいテーマに取り組むことができる」と回答する者が約 7 割を占め最も多いことから、研究を第一の目的に考え進学する様子がかがえる。また、「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」と回答する者も多くみられる。さらに大学を選んだ理由（問 5）では、「研究したいテーマに取り組むことができる」に次いで、「指導を受けたいと思う教員がいたから」が約半数と多く、研究内容とそれを指導できる教員の有無が大学選定の大きな要素となっていることが分かる。

一般学生では、進学理由（問 4）は、「専門性を深めたい」に次いで、「研究機関・企業の研究職」や「大学教員」といった職業に就くために進学する者が多く、社会人学生では「学位が欲しかったから」と回答する者が多い。

#### イ) 進学の障壁

進学の障壁（問 6）としては「自身の研究能力」や「経済的な面」が多く、一般学生では「大学教員になるのは難しそう」「キャリアパスが描けない」といった修了後の進路に関連する項目が多く挙げられている。また、社会人学生では「仕事との両立が難しい」といった意見もみられた。

#### ウ) 博士課程の課題

不満や問題に感じていること（問 7）としては「自身の研究能力に限界を感じる」が最も多く、具体的に不足しているもの（問 8）として「語学力」「幅広い分野の知識」が多く回答されていることから、博士課程においても専門的知識だけでなくそれ以外の知識も学生は必要としていることが分かる。一般学生では「大学教員になるのは難しそう」や「キャリアパスが描けない」といった就職に関連する不満・問題（問 7）が多く挙げられていた。

大学への要望（問 9）としては「経済的支援の充実」に加え、「大学教員ポストの拡充」「キャリアサポート」が多く、企業への要望（問 16）としては「採用増加」が多かった。

就職先決定の有無（問 10）は、就職が「決まっていない」が約 5 割、一般学生のみでは約 6 割と約半数が就職が決まっていないという結果であった。就職先が決まっている者でも、博士課程卒での就職を「不利に感じた」（問 14）と回答する者の方が多いことから、博士課程のあり方も含めて今後教育・就職支援等の再検討をしていくことが求められていると言えよう。



## ②専攻別

※農学は、n 数が少ないため割愛

### ◇ 人文科学

進学理由（問 4）は「専門性を深めたい」「大学教員になりたい」が多く挙げられている。

進学の障壁（問 6）としては、「大学教員になるのは難しそう」が最も多い。

就職先は、就職が決まっている者（問 11）については「民間企業」の「研究職」が多く、就職が決まっていない者（問 17）の希望する就職先としては「大学教員」が多く挙げられている。

大学への要望（問 9）としては「大学教員ポストの拡充」が最も多く、企業への要望（問 16）としては「博士課程修了者の採用増加」と全員が回答している。

### ◇ 社会科学

進学理由（問 4）は、「専門性を深めたい」が最も多く、「大学教員になりたい」者も半数を占めている。

進学の障壁（問 6）として最も多いのは「自身の研究能力に限界を感じた」であるが、次いで「組織的・体系的な教育が行われていない」「キャリアサポートに不安」「大学教員になるのは難しそう」が多く挙げられている。

就職先は、就職が決まっている者（問 11）では「大学教員」が半数を占めている。就職先が決まっていない者（問 17）でも希望の就職先として「大学教員」を挙げる者が多い。

進学後の不満・問題（問 7）としては、「組織的・体系的な教育が行われていない」「キャリアサポートに不安」が多い。また、大学への要望（問 9）としては「大学教員ポストの拡充」、企業への要望（問 16）としては「博士課程修了者の採用増加」が多く挙げられている。

### ◇ 理学

進学理由（問 4）は、「専門性を深めたい」が最も多く、次いで「研究機関・企業の研究職に就きたい」が半数以上を占め多く挙げられている。

進学の障壁（問 6）としては、「大学教員になるのは難しそう」「キャリアパスが描けない」という回答が多い。

就職先は、就職が決まっている者（問 11）では「民間企業」が多く、就職が決まっていない者（問 17）の希望する就職先としては「民間企業」「公的研究機関」

の「研究職」が多く挙げられている。

進学後の不満・問題（問 7）としては、「自身の研究能力に限界を感じる」に加えて「大学教員になるのは難しそう」「キャリアパスが描けない」という回答が多い。また、大学への要望（問 9）としては「大学教員ポストの拡充」が多く、企業への要望（問 16）としては「博士課程修了者の採用増加」が多く挙げられている。

#### ◇ 工学

進学理由（問 4）は、「専門性を深めたい」が最も多い。

進学の障壁（問 6）としては「キャリアパスが描けない」という回答が最も多い。

就職先としては、就職が決まっている者（問 11）では「民間企業」の「研究職」が多く、就職が決まっていない者（問 17）の希望する就職先としては「大学教員」や「民間企業」「公的研究機関」の「研究職」が多い。また、就職の際のルートとしては「自由応募」の他に「教授推薦」や「学校推薦」という回答もみられることから、様々なルートを通じて就職活動を行っている様子が見られる。

大学への要望（問 9）は、「経済的支援の充実」が最も多く、次いで「キャリアサポート」を望む声が多く挙がっている。また、企業への要望（問 16）としては最も多いのは「博士課程修了者の採用増加」である。

#### ◇ 保健

進学理由（問 4）としては「専門性を深めたい」と並んで「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」が多く挙げられている。

進学の障壁（問 6）としては、「自身の研究能力に限界を感じる」が最も多く、次いで「キャリアサポートに不安」が多い。

就職先は、就職が決まっている者（問 11）・決まっていない者（問 17）ともに、「医療機関」の「専門技術職」が多くなっている。また、就職が決まっている者の約半数が「教授推薦」となっており、進学後の不満や問題を感じていない者が多いのが特徴的である。

進学後の不満・問題（問 7）では、「自身の研究能力に限界を感じる」が最も多いが、次いで「特にない」が多く、他の専攻と比べてもその割合は高い。大学への要望（問 9）としては「経済的支援の充実」が最も多く、企業への要望（問 16）としては「奨学金の拠出」が最も多く挙げられている。

#### ◇ その他の専攻

進学理由（問 4）は、「専門性を深めたい」に加え、「大学教員になりたい」が約半数と多い。

進学の障壁（問 6）としては、「大学教員になるのは難しそう」が最も多く、次

いで「自身の研究能力に限界を感じる」が多い。

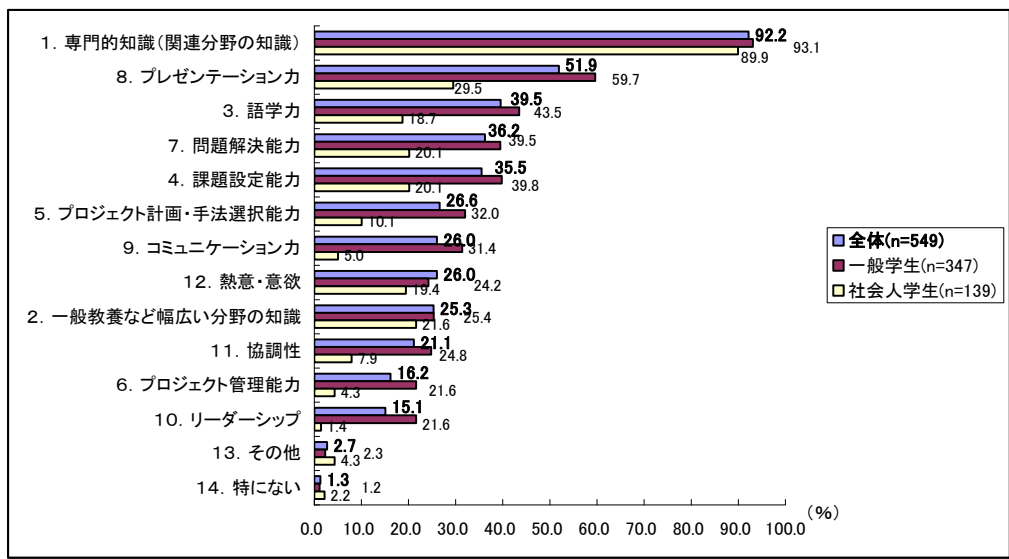
就職先は、就職が決まっている者（問 11）については「民間企業」の「事務職」が多く、「研究職」や「専門技術職」は全くみられない。就職が決まっていない者（問 17）の希望の就職先としては「大学教員」が最も多い。また、就職が「決まっていない」が 87.2%と全専攻の中では最も高くなっている。

進学後の不満・問題（問 7）は、「自身の研究能力に限界を感じる」に加え、「大学教員になるには難しそう」「経済的な面」が多く挙げられている。大学への要望（問 9）としては、「大学教員ポストの拡充」「経済的支援の充実」を挙げる者が多い。

### 3) 調査結果

問3. 博士（後期）課程での教育研究を通じて、向上したと思われる能力はありますか。  
（当てはまるもの全てに○）

向上した能力としては、「専門的知識」とほとんどの者が回答している。次いで「プレゼンテーション力」が多く、一般学生では59.7%と、半数以上が回答している。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 人文科学では、「幅広い分野の知識」が多く、半数近くが挙げている。また、「熱意・意欲」も多い。
- ◇ 理学では、「問題解決能力」「プレゼンテーション力」が多い。
- ◇ 工学では、「語学力」「問題解決能力」「プレゼンテーション力」が多く、それぞれ半数以上が回答している。
- ◇ 保健では、全ての項目において低くなっている。
- ◇ その他の専攻では、「幅広い分野の知識」が多い。

選択肢	専攻別	(%)							
		全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(549)	(51)	(24)	(67)	(141)	(16)	(164)	(86)
1. 専門的知識(関連分野の知識)		92.2	94.1	87.5	97.0	92.9	87.5	90.2	91.9
2. 一般教養など幅広い分野の知識		25.3	47.1	29.2	17.9	24.8	25.0	15.9	36.0
3. 語学力		39.5	41.2	50.0	38.8	51.8	56.3	23.8	43.0
4. 課題設定能力		35.5	41.2	29.2	32.8	44.0	31.3	27.4	38.4
5. プロジェクト計画・手法選択能力		26.6	31.4	20.8	25.4	32.6	50.0	18.9	26.7
6. プロジェクト管理能力		16.2	11.8	16.7	19.4	19.9	18.8	11.6	18.6
7. 問題解決能力		36.2	31.4	29.2	46.3	52.5	43.8	24.4	27.9
8. プレゼンテーション力		51.9	45.1	33.3	61.2	65.2	68.8	41.5	48.8
9. コミュニケーション力		26.0	27.5	25.0	32.8	34.0	37.5	12.8	30.2
10. リーダーシップ		15.1	13.7	8.3	17.9	21.3	31.3	9.8	12.8
11. 協調性		21.1	23.5	12.5	22.4	24.8	18.8	17.7	22.1
12. 熱意・意欲		26.0	39.2	20.8	34.3	24.8	25.0	18.9	29.1
13. その他		2.7	2.0	0.0	3.0	2.8	6.3	3.7	1.2
14. 特にない		1.3	0.0	8.3	1.5	0.7	0.0	1.8	0.0
無回答		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

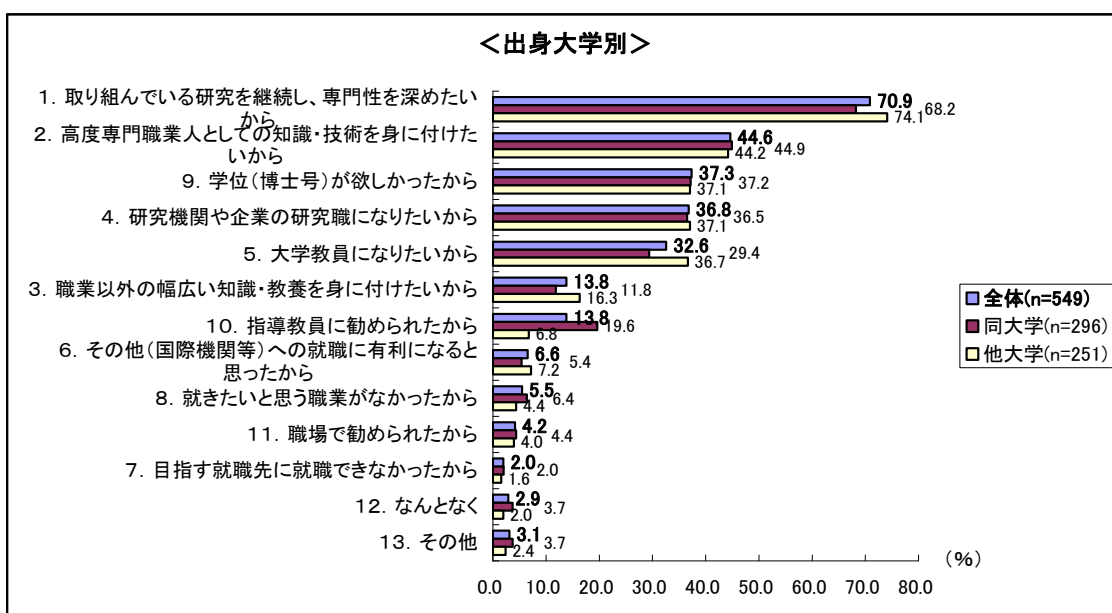
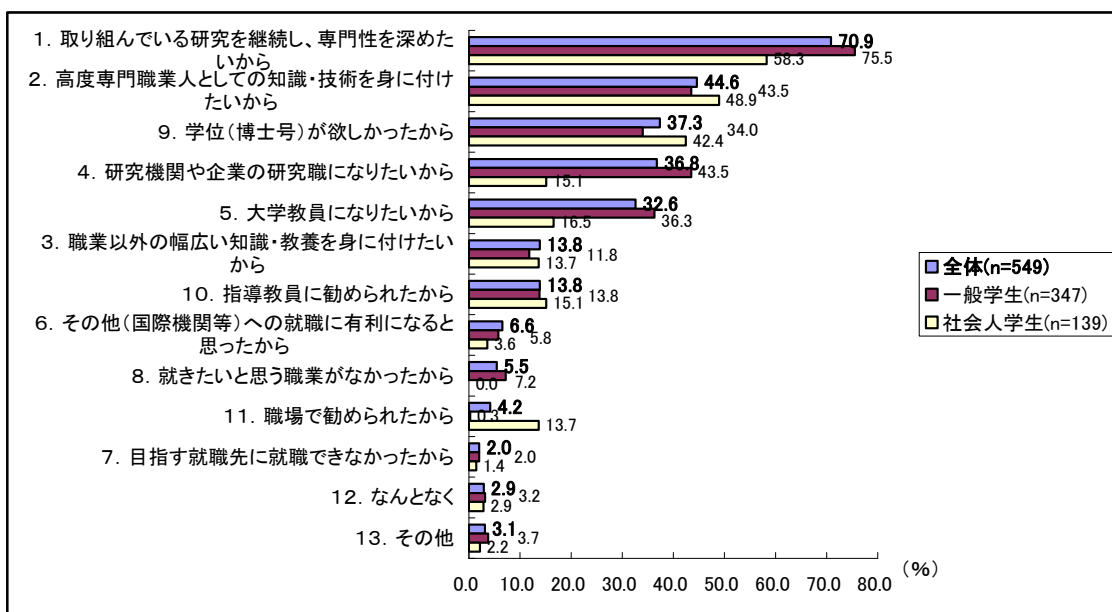
■ 全体+10%    ■ 全体-10%

問4. あなたが、博士（後期）課程に進学した理由を教えてください。

（当てはまるもの全てに○）

進学理由として最も多いのは「専門性を深めたい」で70.9%であり、次いで「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」「学位が欲しかった」が多い。また、一般学生では「研究機関や企業の研究職に就きたい」「大学教員になりたい」といった希望の職に就くために進学する者が目立つ。

出身大学別にみると、同大学出身者では「指導教員に勧められたから」が全体と比較して多いのに対し、他大学出身者では「専門性を深めたい」「大学教員になりたい」「幅広い知識・教養を身につけたい」といった理由が多い。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 人文科学では、「専門性を深めたい」が90.2%と多くが回答している。また、「大学教員になりたい」「幅広い知識・教養を身に付けたい」が多い。
- ◇ 理学では、「専門性を深めたい」「研究機関・企業の研究職に就きたい」が多い。
- ◇ 保健では、「高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたい」が約半数を占めており多い。その一方で、「研究機関・企業の研究職に就きたい」「大学教員になりたい」は少ない。
- ◇ その他の専攻では、「大学教員になりたい」が「専門性を深めたい」に次いで多く、半数を占めている。

(%)

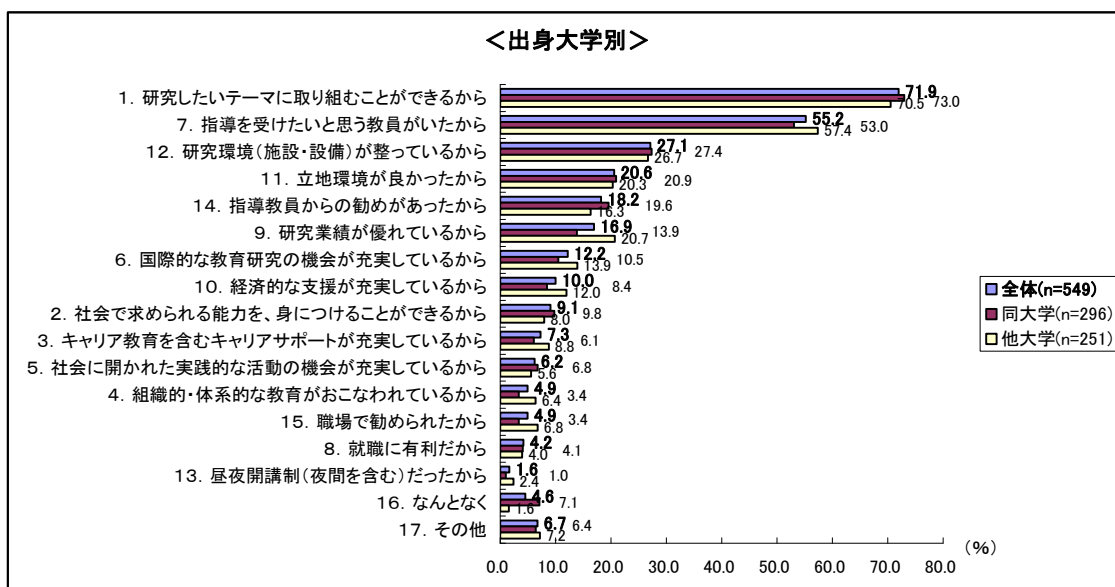
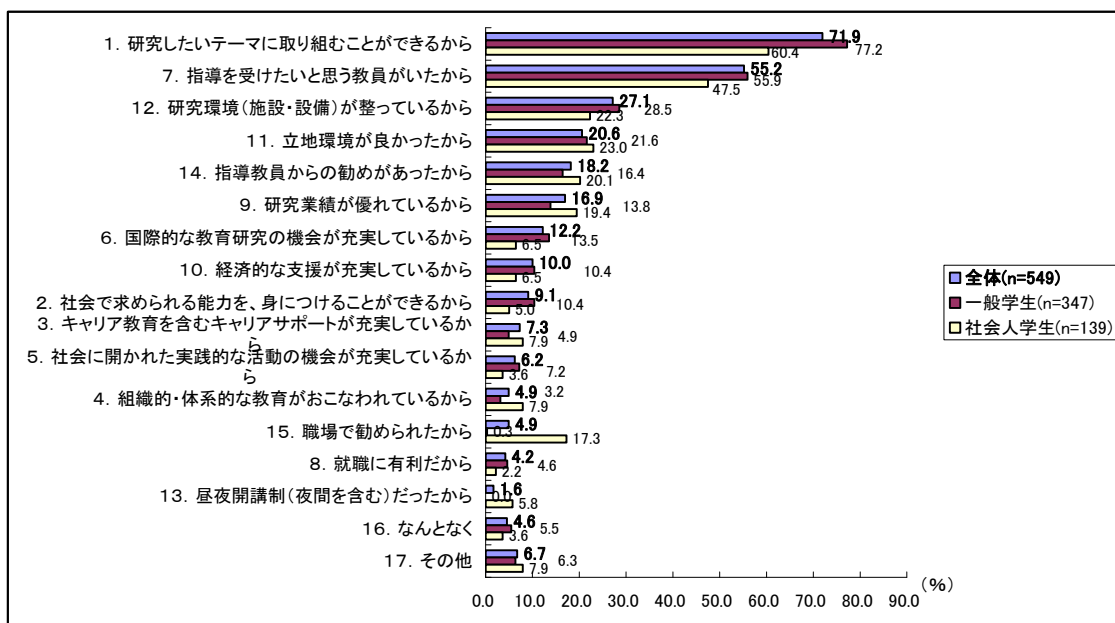
専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他	
選択肢	n=	(549)	(51)	(24)	(67)	(141)	(16)	(164)	(86)
1. 取り組んでいる研究を継続し、専門性を深めたいから	70.9	90.2	66.7	82.1	73.8	68.8	56.1	75.6	
2. 高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたいから	44.6	27.5	25.0	43.3	48.9	68.8	51.8	36.0	
3. 職業以外の幅広い知識・教養を身に付けたいから	13.8	27.5	20.8	11.9	9.2	18.8	11.6	16.3	
4. 研究機関や企業の研究職になりたいから	36.8	35.3	29.2	55.2	46.1	50.0	19.5	40.7	
5. 大学教員になりたいから	32.6	47.1	50.0	29.9	32.6	37.5	17.1	50.0	
6. その他(国際機関等)への就職に有利になると思ったから	6.6	3.9	4.2	1.5	7.8	6.3	6.1	11.6	
7. 修士課程在学中に目指す就職先に就職できなかったから	2.0	2.0	0.0	6.0	2.1	6.3	0.6	1.2	
8. 修士課程修了後に就きたいと思う職業がなかったから	5.5	5.9	8.3	10.4	7.1	18.8	0.0	5.8	
9. 学位(博士号)が欲しかったから	37.3	39.2	20.8	26.9	41.1	43.8	39.0	38.4	
10. 指導教員に勧められたから	13.8	13.7	8.3	7.5	22.0	18.8	14.6	4.7	
11. 職場で勧められたから	4.2	0.0	0.0	0.0	1.4	12.5	10.4	2.3	
12. なんとなく	2.9	0.0	0.0	6.0	5.7	6.3	1.8	0.0	
13. その他(具体的に:)	3.1	0.0	4.2	4.5	2.1	0.0	4.3	3.5	
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

■全体+10%    ■全体-10%

問5. 博士（後期）課程への進学にあたり、現在の大学を選んだ理由を教えてください。  
 (当てはまるもの全てに○)

現在の大学を選んだ理由は、「研究したいテーマに取り組むことができる」が71.9%と最も多く、「指導を受けたい教員がいたから」が55.2%、「研究環境が整っているから」が27.1%と続いている。

出身大学別にみると、他大学出身者では、「指導を受けたい教員がいたから」「研究業績が優れているから」と回答する者が全体と比べると多くなっている。



<専攻別>※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 人文科学・その他の専攻では、「指導を受けたい教員がいたから」が多い。
- ◇ 工学では、「研究したいテーマに取り組むことができる」「研究環境が整っている」が多い。

選択肢	専攻別								
	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他	
	n=	(549)	(51)	(24)	(67)	(141)	(16)	(164)	(86)
1. 研究したいテーマに取り組むことができるから	71.9	76.5	66.7	80.6	84.4	68.8	54.9	76.7	
2. 社会で求められる能力(業務遂行能力、コミュニケーション力、協調性、マネジメント能力等)を、身につけることができるから	9.1	2.0	8.3	6.0	9.9	25.0	7.9	14.0	
3. 博士課程でのキャリア教育を含むキャリアサポートが充実しているから	7.3	3.9	8.3	3.0	8.5	0.0	8.5	9.3	
4. コースワーク(講義・演習)が充実しており、組織的・体系的な教育が行われているから	4.9	5.9	4.2	0.0	5.0	0.0	7.3	4.7	
5. 企業等へのインターンシップや企業等との共同研究などの社会に開かれた実践的な活動の機会が充実しているから	6.2	3.9	8.3	13.4	9.2	6.3	1.2	5.8	
6. 海外の大学への留学や国際学会等への参加などの国際的な教育研究の機会が充実しているから	12.2	5.9	16.7	4.5	21.3	12.5	6.7	16.3	
7. 指導を受けたいと思う教員がいたから	55.2	72.5	66.7	59.7	63.8	43.8	34.1	66.3	
8. 就職に有利だから	4.2	7.8	4.2	0.0	6.4	0.0	5.5	0.0	
9. 研究業績が優れているから	16.9	13.7	12.5	7.5	19.9	18.8	20.1	16.3	
10. 経済的な支援が充実しているから	10.0	5.9	8.3	1.5	15.6	6.3	9.8	11.6	
11. 立地環境が良かったから	20.6	23.5	20.8	26.9	21.3	18.8	18.9	16.3	
12. 研究環境(施設・設備)が整っているから	27.1	17.6	20.8	29.9	39.7	6.3	22.6	24.4	
13. 昼夜開講制(夜間を含む)だったから	1.6	2.0	8.3	0.0	0.7	0.0	1.2	3.5	
14. 指導教員からの勧めがあったから	18.2	9.8	16.7	13.4	24.8	25.0	20.7	10.5	
15. 職場で勧められたから	4.9	2.0	0.0	0.0	2.8	12.5	11.6	1.2	
16. なんとなく	4.6	0.0	8.3	4.5	4.3	6.3	7.3	1.2	
17. その他	6.7	0.0	8.3	7.5	2.8	12.5	12.2	4.7	
無回答	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	

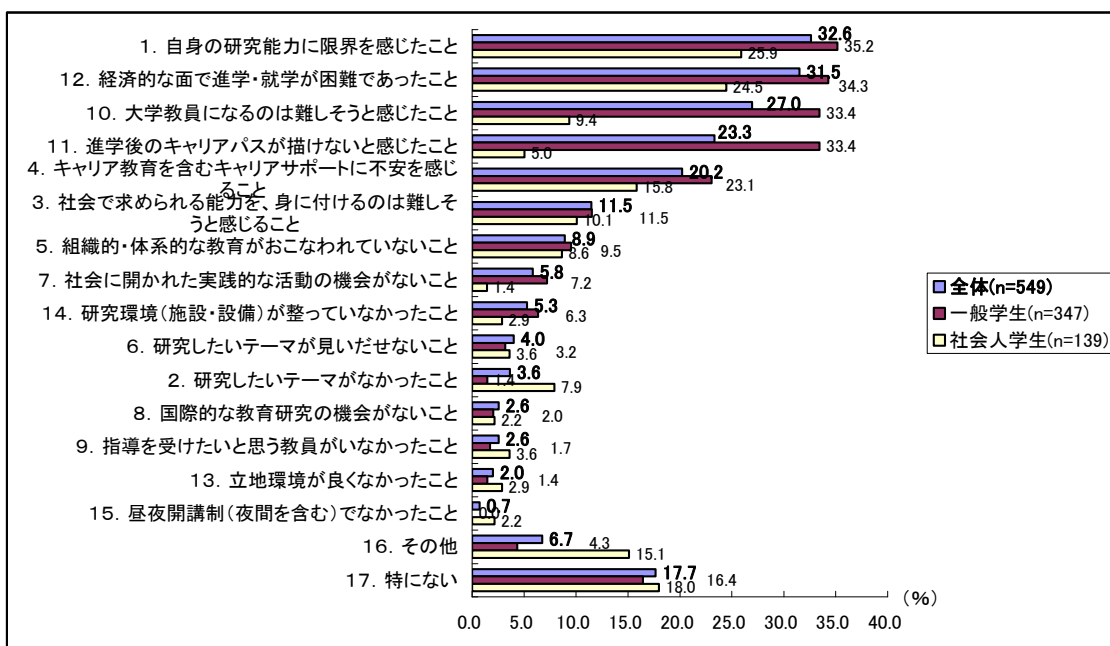
■全体+10% □全体-10%



問6. 博士（後期）課程への進学を考える上で、障壁になったことはありますか。

（当てはまるもの全てに○）

進学を考える上での障壁としては、「自身の研究能力に限界を感じた」「経済的な面」が多い。また、一般学生では上記に加え、「大学教員になるのは難しそう」「キャリアパスが描けない」が多く挙げられている。社会人学生では、「その他」が15.1%とやや多いが、その内容としてはほとんどが仕事との両立が難しいという回答であり、女性では家事や育児との両立が難しいという意見もみられた。



<専攻別>※全体と比較して特徴がみられるもの

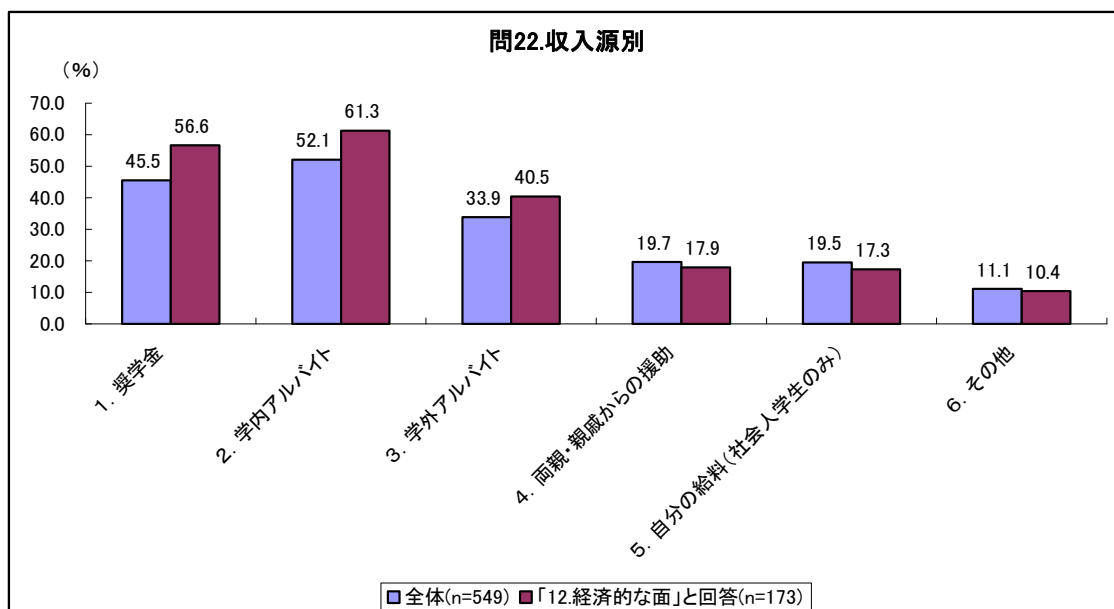
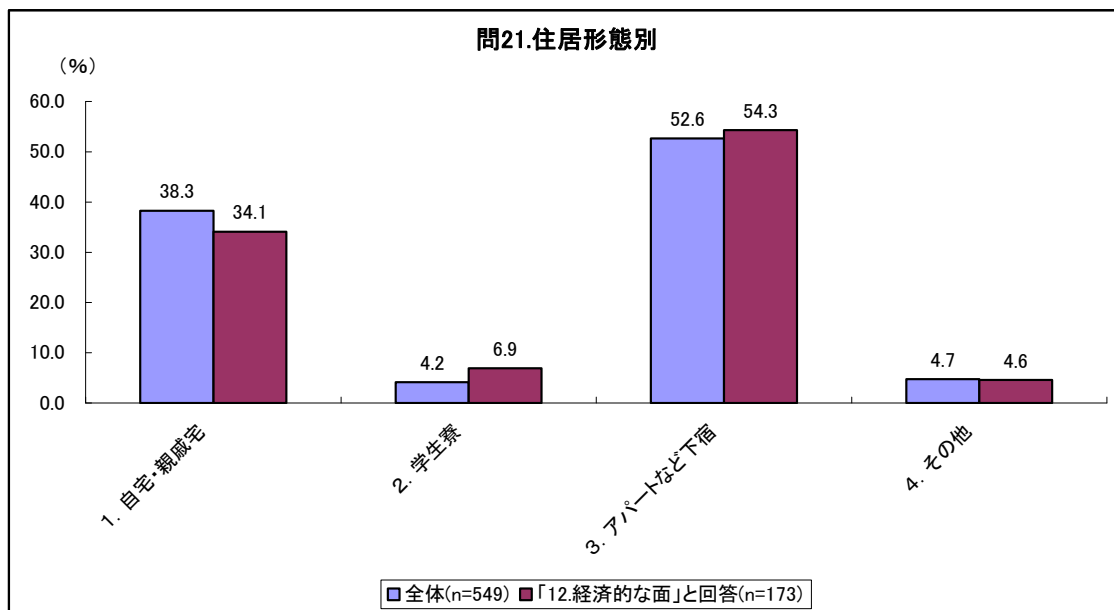
- ◇ 人文科学・その他の専攻では、「大学教員になるのは難しそう」が全体よりも高く、進学の際壁として最も回答が多くなっている。
- ◇ 社会科学では、「組織的・体系的な教育が行われていない」「キャリアサポートに不安」が多い。
- ◇ 理学では、「自身の研究能力に限界を感じる」に加えて、「大学教員になるのは難しそう」「キャリアパスが描けない」と回答する者が40%を超え多い。
- ◇ 工学では、「キャリアパスが描けない」が全体よりも高く、最も多い回答となっている。

選択肢	(%)								
	専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(549)	(51)	(24)	(67)	(141)	(16)	(164)	(86)
1. 自身の研究能力に限界を感じたこと		32.6	37.3	37.5	40.3	31.2	50.0	25.6	34.9
2. 研究したいテーマがなかったこと		3.6	0.0	8.3	0.0	1.4	6.3	7.3	3.5
3. 社会で求められる能力(業務遂行能力、コミュニケーション力、協調性、マネジメント能力等)を、博士(後期)課程で身に付けるのは難しそうと感じること		11.5	7.8	12.5	11.9	14.9	18.8	9.1	10.5
4. 博士(後期)課程でのキャリア教育を含むキャリアサポートに不安を感じる事		20.2	27.5	33.3	22.4	24.8	37.5	12.2	15.1
5. コースワーク(講義、演習)が充実しておらず、組織的・体系的な教育が行われていないこと		8.9	9.8	25.0	4.5	7.8	18.8	8.5	8.1
6. 教育研究の内容が限定されており、研究したいテーマが見いだせないこと		4.0	2.0	12.5	3.0	1.4	0.0	5.5	5.8
7. 企業等へのインターンシップや企業等との共同研究などの社会に開かれた実践的な活動の機会がないこと		5.8	11.8	8.3	4.5	8.5	6.3	1.8	5.8
8. 海外の大学への留学や国際学会等への参加などの国際的な教育研究の機会がないこと		2.6	7.8	8.3	4.5	0.7	0.0	1.2	2.3
9. 指導を受けたいと思う教員がいなかったこと		2.6	2.0	4.2	0.0	3.5	6.3	3.0	1.2
10. 大学教員になるのは難しそうと感じたこと		27.0	43.1	33.3	41.8	27.7	31.3	8.5	37.2
11. 民間企業等への就職を含め、進学後のキャリアパスが描けないと感じたこと		23.3	31.4	12.5	41.8	33.3	31.3	3.7	26.7
12. 経済的な面で進学・就学が困難であったこと		31.5	39.2	25.0	32.8	32.6	31.3	26.8	34.9
13. 立地環境が良くなかったこと		2.0	2.0	4.2	0.0	1.4	0.0	1.2	5.8
14. 研究環境(施設・設備)が整っていないかったこと		5.3	3.9	12.5	1.5	3.5	18.8	5.5	7.0
15. 昼夜開講制(夜間を含む)でなかったこと		0.7	2.0	4.2	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0
16. その他(具体的に: )		6.7	5.9	4.2	1.5	4.3	6.3	13.4	3.5
17. 特になし		17.7	9.8	16.7	14.9	17.7	12.5	25.0	11.6
無回答		1.1	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	2.4	1.2

■全体+10%    ■全体-10%

■ 「12. 経済的な面」回答者（173名）の属性

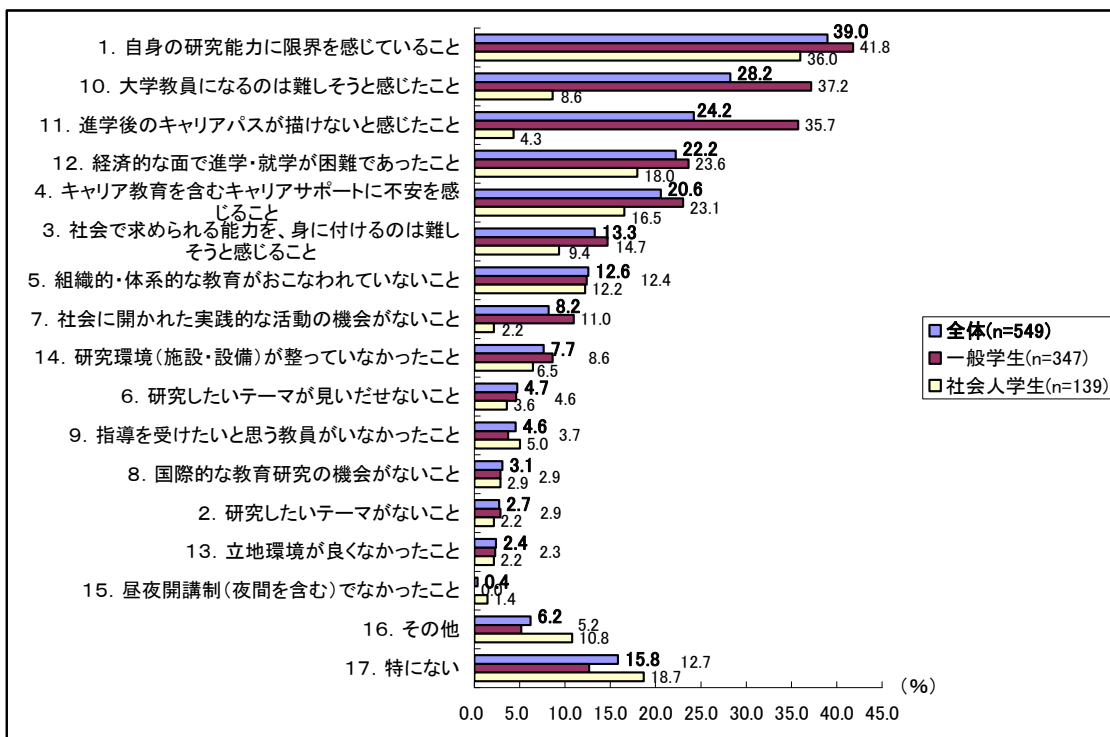
- ◇ 住居形態別にみると、全体と比べ「アパートなどの下宿」や「学生寮」の割合がやや多い。
- ◇ 収入源別にみると、「奨学金」「学内アルバイト」「学外アルバイト」を収入源としている者が全体よりも多い。



問7. 博士（後期）課程へ進学後、不満や問題に感じていることはありますか。

（当てはまるもの全てに○）

不満や問題に感じていることは、「自身の研究能力に限界を感じる」が39.0%と最も多い。さらに、「大学教員になるのは難しそう」「キャリアパスが描けない」が一般学生において多い一方で、社会人学生では10%にも達していないという結果である。また、社会人学生では「特にない」が18.7%と全体よりも多い。



<専攻別>※全体と比較して特徴がみられるもの

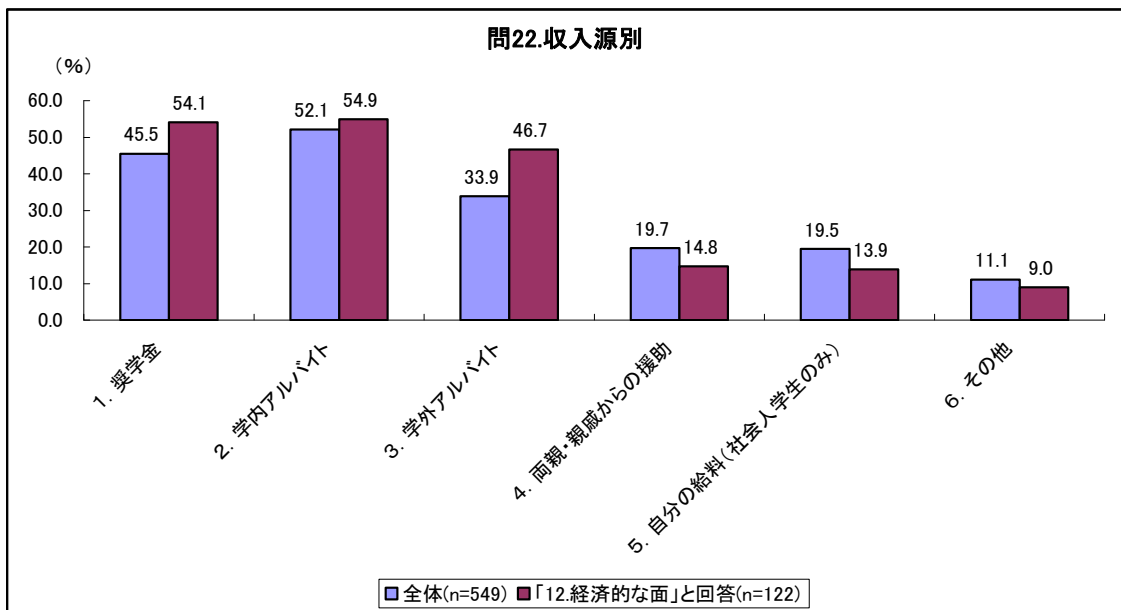
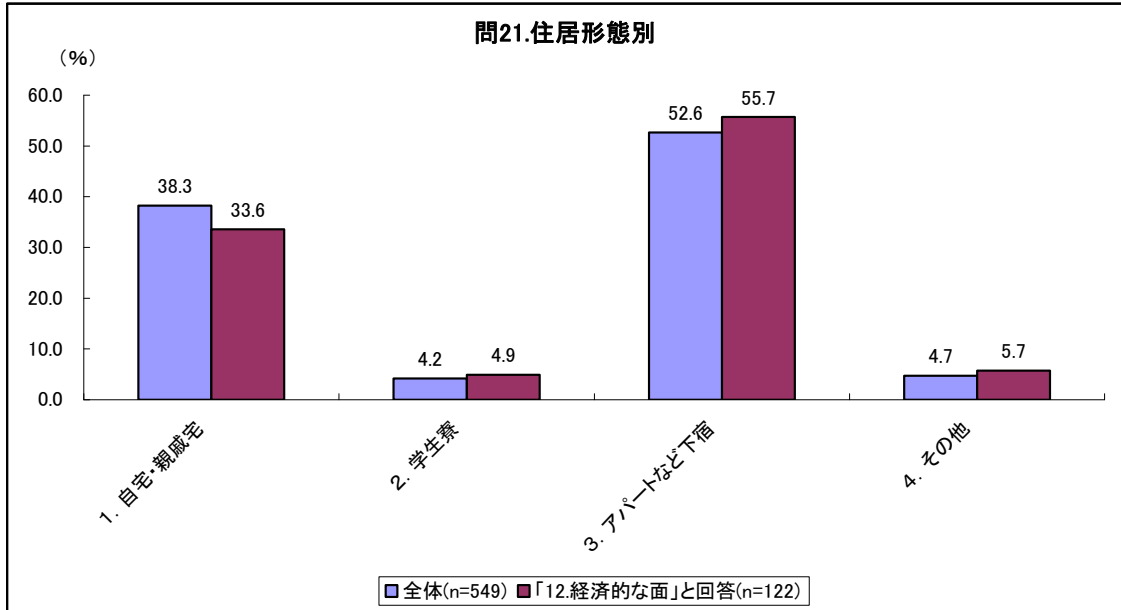
- ◇ 人文科学では、「経済的な面」が39.2%と最も多い回答となっている。
- ◇ 社会科学では、「組織的・体系的な教育が行われていない」「キャリアサポートに不安」が多い。
- ◇ 理学では、「大学教員になるのは難しそう」「キャリアパスが描けない」が多い。
- ◇ 保健では、「特にない」が26.2%と多くなっている。
- ◇ その他の専攻では、「大学教員になるのは難しそう」「経済的な面」が多い。

選択肢	専攻別	(%)							
		全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(549)	(51)	(24)	(67)	(141)	(16)	(164)	(86)
1. 自身の研究能力に限界を感じていること		39.0	37.3	33.3	47.8	37.6	62.5	34.8	40.7
2. 研究したいテーマがないこと		2.7	0.0	8.3	0.0	0.7	6.3	5.5	2.3
3. 社会で求められる能力(業務遂行能力、コミュニケーション力、協調性、マネジメント能力等)を、博士(後期)課程で身に付けるのは難しそうと感じること		13.3	9.8	12.5	17.9	14.9	18.8	12.8	9.3
4. 博士(後期)課程でのキャリア教育を含むキャリアサポートに不安を感じる事		20.6	27.5	33.3	19.4	21.3	37.5	14.0	22.1
5. コースワーク(講義、演習)が充実しておらず、組織的・体系的な教育が行われていないこと		12.6	3.9	37.5	7.5	11.3	31.3	12.2	14.0
6. 教育研究の内容が限定されており、研究したいテーマが見いだせないこと		4.7	5.9	8.3	4.5	2.1	12.5	7.9	0.0
7. 企業等へのインターンシップや企業等との共同研究などの社会に開かれた実践的な活動の機会がないこと		8.2	11.8	12.5	9.0	11.3	12.5	3.7	7.0
8. 海外の大学への留学や国際学会等への参加などの国際的な教育研究の機会がないこと		3.1	3.9	8.3	3.0	2.8	0.0	2.4	3.5
9. 指導を受けたいと思う教員がいなかったこと		4.6	5.9	4.2	0.0	2.1	12.5	7.9	3.5
10. 大学教員になるのは難しそうと感じたこと		28.2	35.3	33.3	43.3	30.5	37.5	10.4	39.5
11. 民間企業等への就職を含め、進学後のキャリアパスが描けないと感じたこと		24.2	23.5	12.5	41.8	32.6	37.5	9.1	26.7
12. 経済的な面で進学・就学が困難であったこと		22.2	39.2	29.2	14.9	16.3	25.0	18.3	32.6
13. 立地環境が良くなかったこと		2.4	2.0	4.2	1.5	2.1	0.0	1.2	5.8
14. 研究環境(施設・設備)が整っていなかったこと		7.7	5.9	16.7	4.5	5.7	37.5	6.7	8.1
15. 昼夜開講制(夜間を含む)でなかったこと		0.4	3.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
16. その他(具体的に:)		6.2	7.8	4.2	3.0	3.5	0.0	9.1	8.1
17. 特にない		15.8	3.9	12.5	9.0	18.4	6.3	26.2	7.0
無回答		2.4	3.9	0.0	0.0	3.5	0.0	3.0	1.2

■全体+10%    ■全体-10%

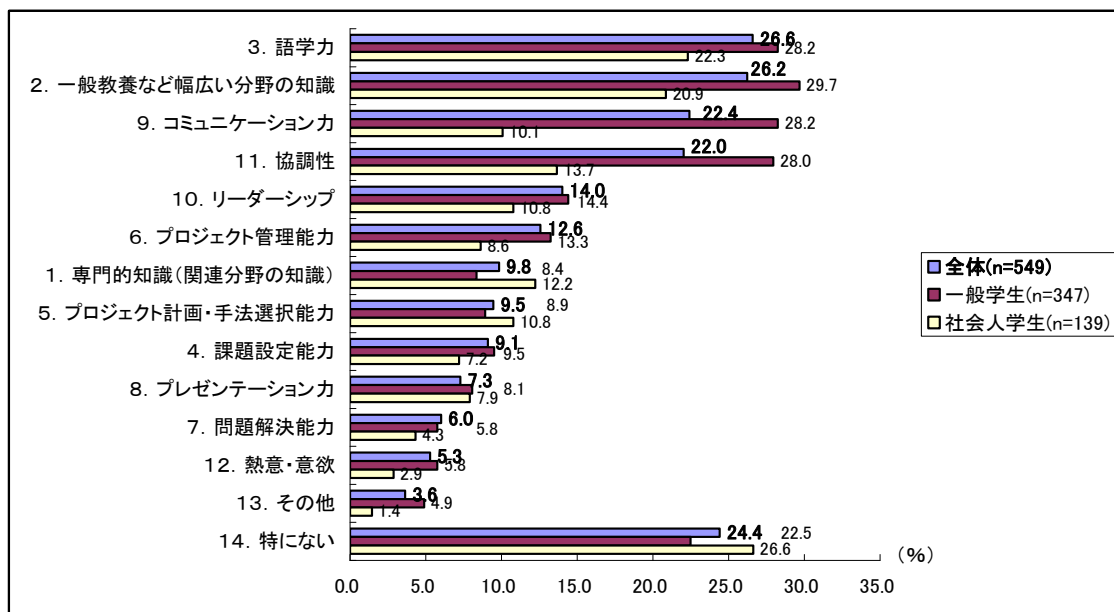
■ 「12. 経済的な面」回答者（122名）の属性

- ◇ 住居形態別にみると、全体と比べて「自宅・親戚宅」の割合が低く、「アパートなどの下宿」割合が高い。
- ◇ 収入源別にみると、「学内アルバイト」に加え「奨学金」の割合が高く、また「学外アルバイト」と回答する者も全体と比べると多い。



問8. 博士（後期）課程修了者について、不足していると思われるものはありますか。  
 （当てはまるもの全てに○）

不足しているものは、「語学力」「幅広い分野の知識」が多く、一般学生ではそれに加え「コミュニケーション力」「協調性」が多い。また、「特にない」が全体で 24.4%存在している。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

◇ 理学では、「幅広い分野の知識」が 40.3%と高く、不足している点として最も多く挙げられている。

(%)

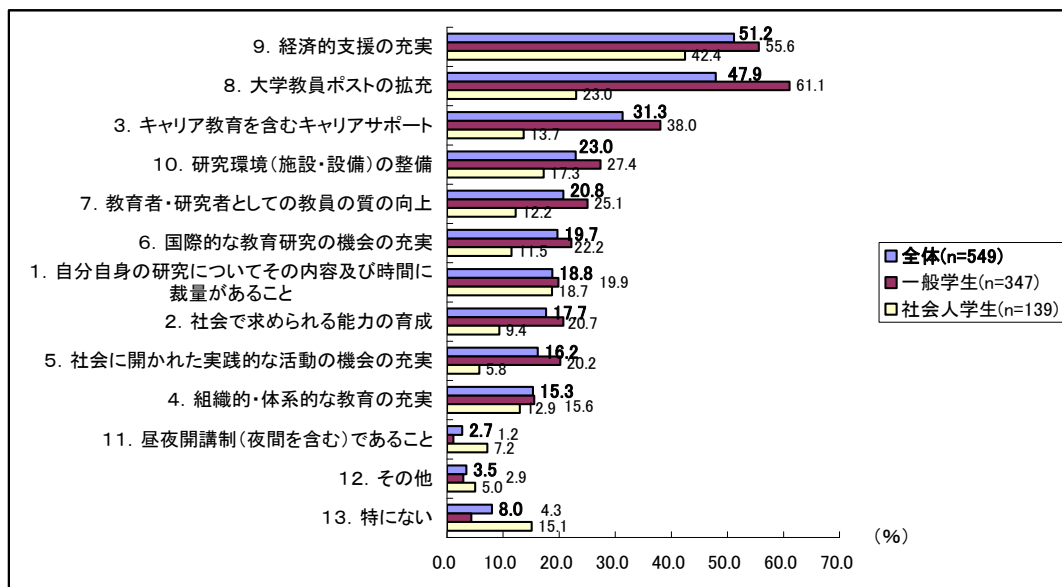
選択肢	専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(549)	(51)	(24)	(67)	(141)	(16)	(164)	(86)
1. 専門的知識(関連分野の知識)		9.8	9.8	20.8	7.5	9.2	18.8	10.4	7.0
2. 一般教養など幅広い分野の知識		26.2	21.6	25.0	40.3	32.6	43.8	17.1	22.1
3. 語学力		26.6	27.5	25.0	25.4	27.0	43.8	26.2	24.4
4. 課題設定能力		9.1	3.9	12.5	4.5	7.8	25.0	12.8	7.0
5. プロジェクト計画・手法選択能力		9.5	5.9	20.8	6.0	6.4	18.8	11.0	11.6
6. プロジェクト管理能力		12.6	15.7	16.7	10.4	12.1	18.8	8.5	18.6
7. 問題解決能力		6.0	7.8	8.3	6.0	5.0	12.5	5.5	5.8
8. プレゼンテーション力		7.3	9.8	12.5	13.4	5.7	0.0	7.3	3.5
9. コミュニケーション力		22.4	11.8	25.0	23.9	30.5	31.3	15.2	25.6
10. リーダーシップ		14.0	13.7	20.8	11.9	15.6	12.5	13.4	12.8
11. 協調性		22.0	23.5	33.3	23.9	29.1	25.0	13.4	20.9
12. 熱意・意欲		5.3	3.9	8.3	3.0	4.3	6.3	7.9	3.5
13. その他		3.6	5.9	8.3	4.5	5.0	0.0	1.2	3.5
14. 特にない		24.4	25.5	12.5	31.3	21.3	12.5	26.8	24.4
無回答		8.9	7.8	8.3	6.0	5.0	6.3	14.6	8.1

■ 全体+10%    ■ 全体-10%

問9. 教育や就職支援等について、大学に望むことはありますか。

(当てはまるもの全てに○)

大学に望むこととして最も多いのは「経済的支援の充実」である。ただし一般学生で見ると、「大学教員ポストの拡充」が61.1%と最も多く、「キャリアサポート」も38.0%と、修了後のキャリアに関連する項目が目立つ。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 人文科学・理学・その他の専攻では、「大学教員ポストの拡充」が多い。さらに、人文科学では、「研究環境の整備」が多い。
- ◇ 工学では、「キャリアサポート」が多い。
- ◇ 社会科学では、「組織的・体系的な教育の充実」「教育環境の整備」が多い。

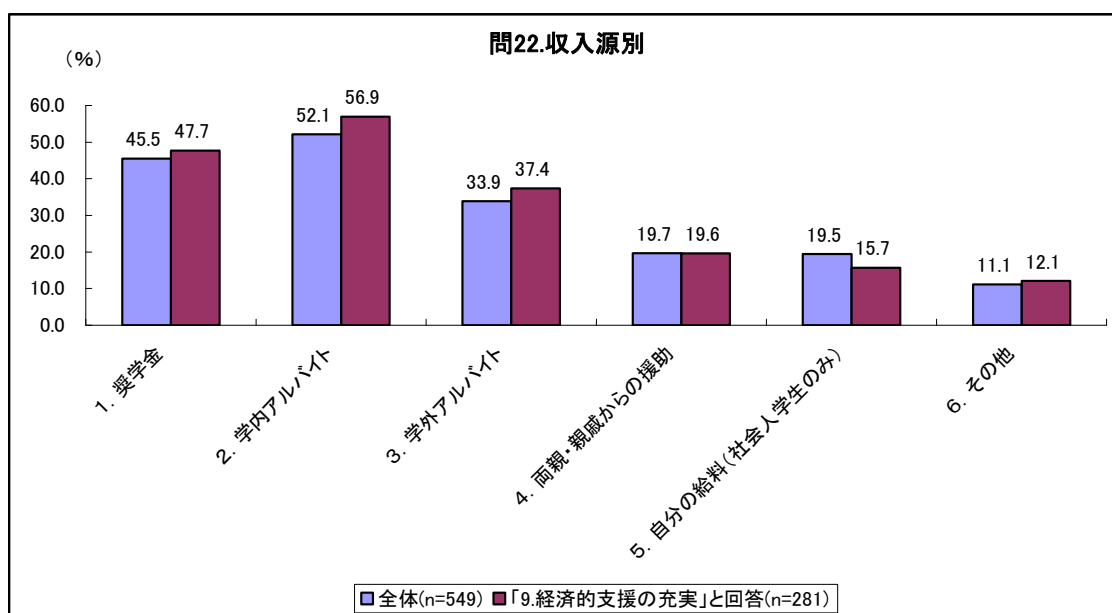
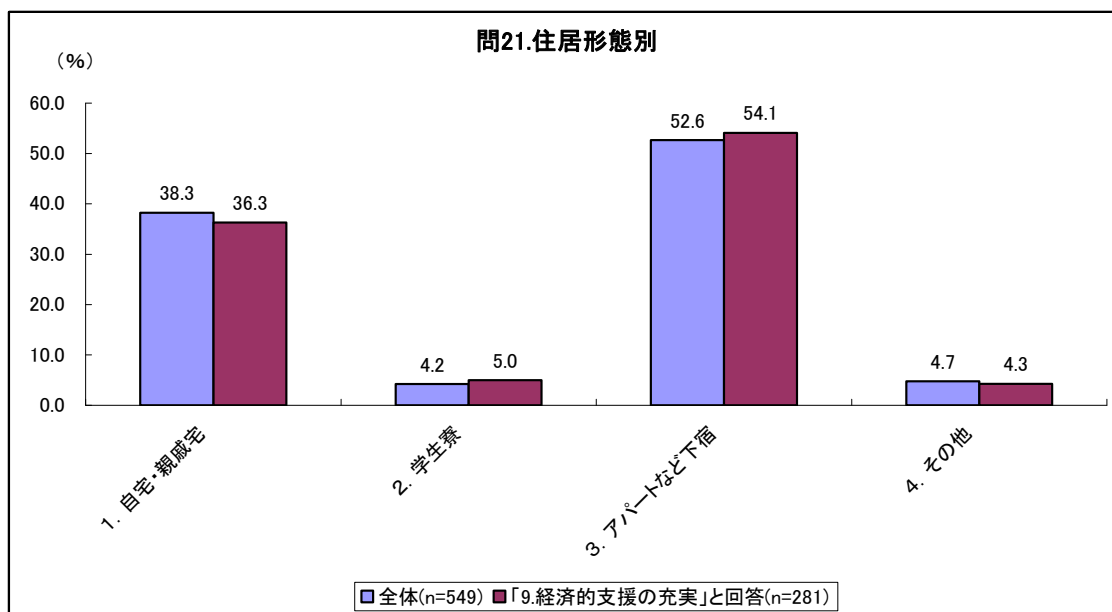
選択肢	専攻別 (%)							
	全体 n=(549)	人文科学 (51)	社会科学 (24)	理学 (67)	工学 (141)	農学 (16)	保健 (164)	その他 (86)
1. 自分自身の研究についてその内容及び時間に裁量があること	18.8	19.6	16.7	9.0	17.0	18.8	26.2	15.1
2. 社会で求められる能力(業務遂行能力、コミュニケーション力、協調性、マネジメント能力等)の育成	17.7	11.8	20.8	26.9	21.3	18.8	13.4	15.1
3. 博士(後期)課程でのキャリア教育を含むキャリアサポート	31.3	37.3	37.5	32.8	41.1	43.8	17.7	32.6
4. コースワーク(講義、演習)を含めた組織的・体系的な教育の充実	15.3	11.8	25.0	6.0	14.9	31.3	14.6	20.9
5. 企業等へのインターンシップや企業等との共同研究などの社会に開かれた実践的な活動の機会の充実	16.2	17.6	16.7	14.9	25.5	18.8	8.5	15.1
6. 海外の大学への留学や国際学会等への参加などの国際的な教育研究の機会の充実	19.7	27.5	20.8	20.9	23.4	31.3	13.4	17.4
7. 教育者・研究者としての教員の質の向上	20.8	17.6	16.7	11.9	20.6	37.5	23.8	22.1
8. 大学教員ポストの拡充	47.9	64.7	62.5	70.1	44.7	43.8	25.0	66.3
9. 経済的支援の充実	51.2	52.9	41.7	41.8	55.3	56.3	47.0	60.5
10. 研究環境(施設・設備)の整備	23.0	33.3	45.8	17.9	19.9	31.3	20.7	22.1
11. 昼夜開講制(夜間を含む)であること	2.7	5.9	8.3	0.0	0.0	0.0	5.5	1.2
12. その他(具体的に: )	3.5	5.9	0.0	4.5	2.1	0.0	4.3	3.5
13. 特にない	8.0	3.9	16.7	6.0	7.8	0.0	10.4	7.0
無回答	0.7	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	1.2	0.0

■ 全体+10%    ■ 全体-10%



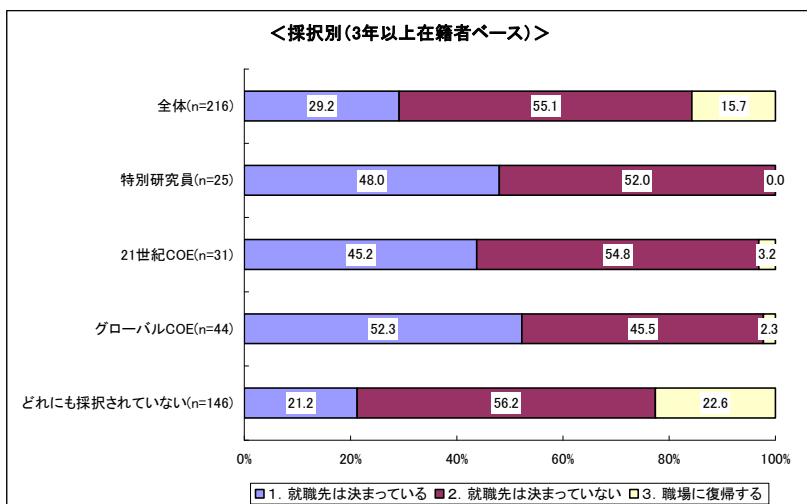
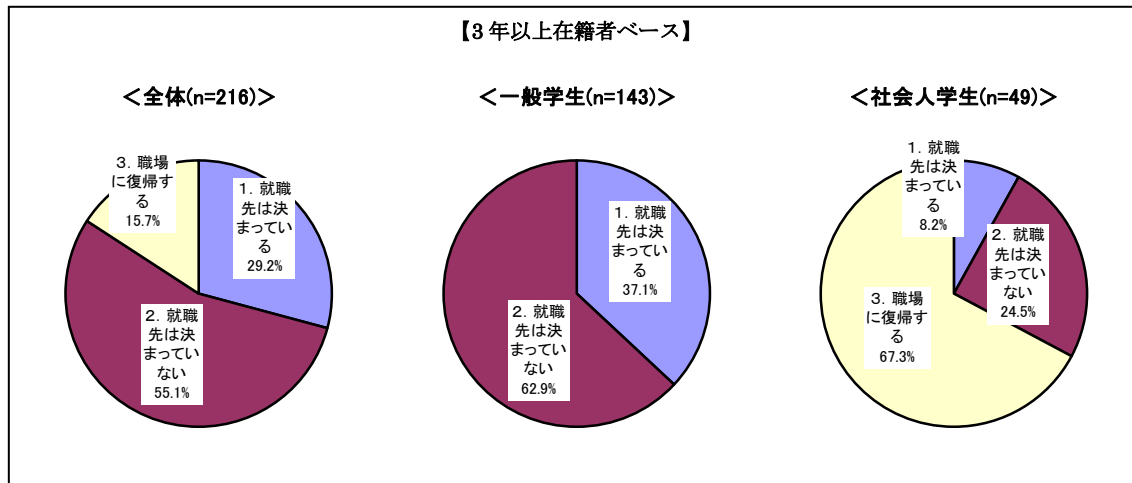
■ 「9. 経済的支援の充実」回答者（281名）の属性

- ◇ 住居形態別では、ほとんど差はみられない。
- ◇ 収入源別では、「奨学金」「学内アルバイト」「学外アルバイト」がそれぞれ全体よりも多くなっている。



問10. 現在、博士（後期）課程修了後の就職先は決まっていますか。（○は1つ）

就職先について「決まっていない」が55.1%と高く、一般学生だけでみるとその割合は62.9%にも及んでいる。社会人学生については、67.3%が「職場復帰する」と回答している。採択別にみると、採択されている方が「就職先は決まっている」割合が高くなっている。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 人文科学・その他の専攻では、「就職先は決まっていない」が70%を超えており、他の専攻よりも多い。
- ◇ 工学では、「就職先は決まっている」が半数を超えており多い。
- ◇ 保健では、「職場復帰」が41.4%と多い。

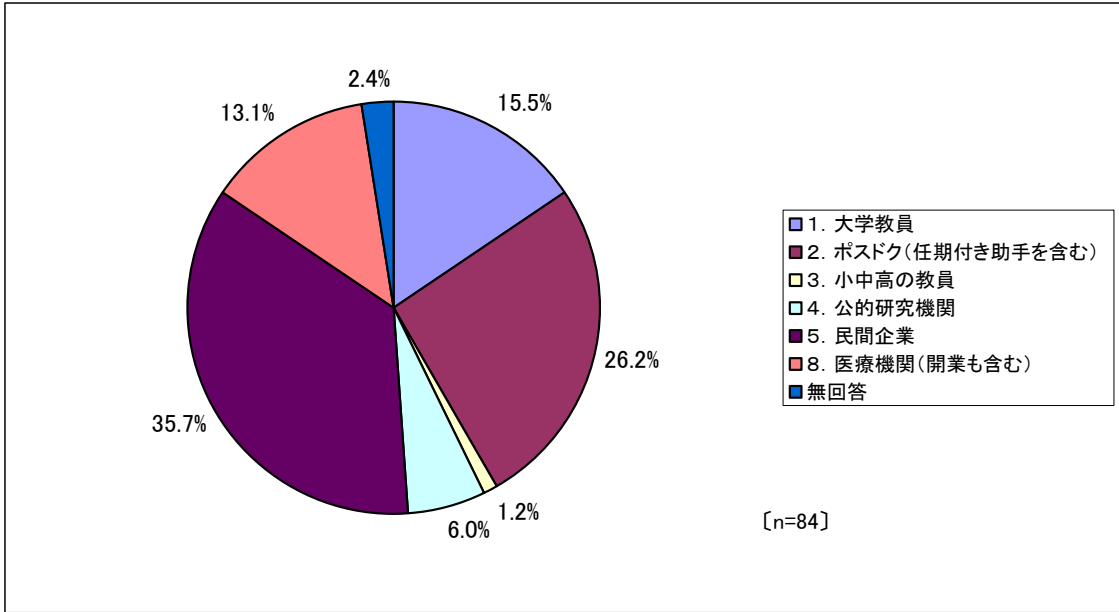
**【3年以上在籍者ベース】** (%)

専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他	
選択肢	n=	(216)	(25)	(12)	(27)	(52)	(10)	(59)	(32)
1. 就職先は決まっている	29.2	16.0	25.0	33.3	51.9	10.0	27.6	9.4	
2. 就職先は決まっていない	55.1	72.0	75.0	63.0	44.2	70.0	31.0	84.4	
3. 職場に復帰する	15.7	12.0	0.0	3.7	3.8	20.0	41.4	6.3	
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

■ 全体+10%    ■ 全体-10%

(問10. で「1. 就職先は決まっている」と回答した方)  
 問11. 就職先をお教えてください。(○は1つ)

就職先としては、「民間企業」が最も多く 35.7%である。次いで「ポストク」が 26.2%、「大学教員」が 15.5%と続いている。



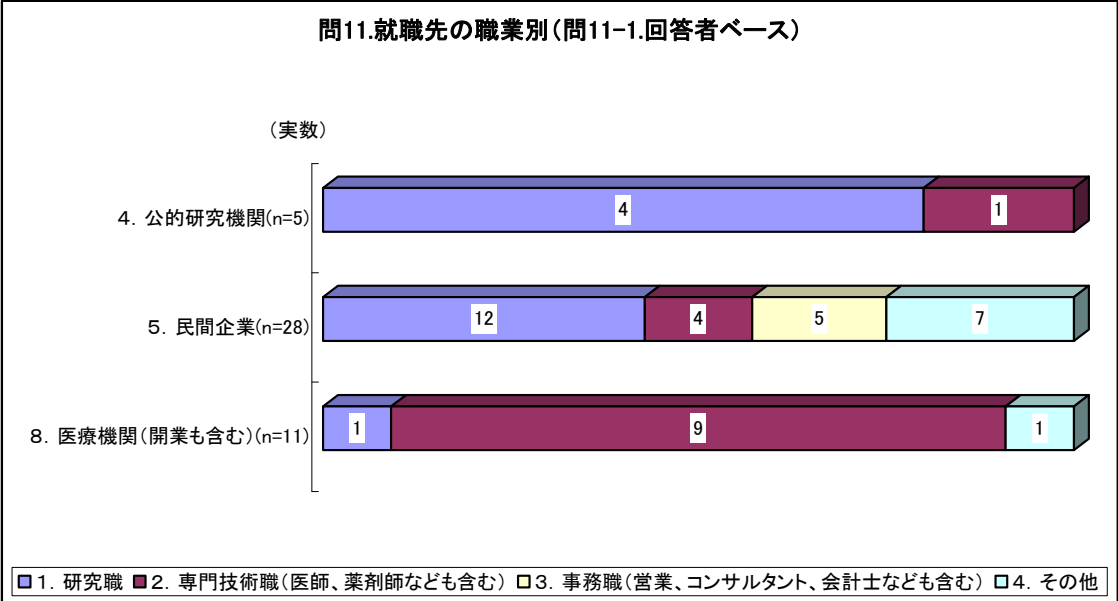
<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 人文科学・理学・工学・その他の専攻では、「民間企業」が多い。
- ◇ 社会科学では、「大学教員」と半数が回答している。
- ◇ 保健では、「医療機関」が半数近くを占めており多い。

専攻別 選択肢	(実数)							
	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
n=	(84)	(5)	(6)	(10)	(34)	(1)	(23)	(5)
1. 大学教員	13 (15.5%)	1	3	0	5	0	4	0
2. ポストク(任期付き助手を含む)	22 (26.2%)	0	1	3	10	0	7	1
3. 小中高の教員	1 (1.2%)	0	0	1	0	0	0	0
4. 公的研究機関	5 (6.0%)	0	1	0	3	1	0	0
5. 民間企業	30 (35.7%)	3	1	5	16	0	1	4
6. 官公庁	0 (0.0%)	0	0	0	0	0	0	0
7. 国際機関(国際連合など)	0 (0.0%)	0	0	0	0	0	0	0
8. 医療機関(開業も含む)	11 (13.1%)	0	0	1	0	0	10	0
9. 起業	0 (0.0%)	0	0	0	0	0	0	0
10. その他(具体的に: )	0 (0.0%)	0	0	0	0	0	0	0
無回答	2 (2.4%)	1	0	0	0	0	1	0

(問11. で「4～8」のいずれかに回答した方)  
 問11-1. 問11で回答した職業の職種は何ですか。(○は1つ)

職種は、公的研究機関では「研究職」が多く、医療機関では「専門技術職」が多い。民間企業では「研究職」が約半数と最も多く、それ以外では「専門技術職」と「事務職」が半々となっている。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 工学では、「研究職」が多い。
- ◇ 保健では、「専門技術職」が多い。

(実数)

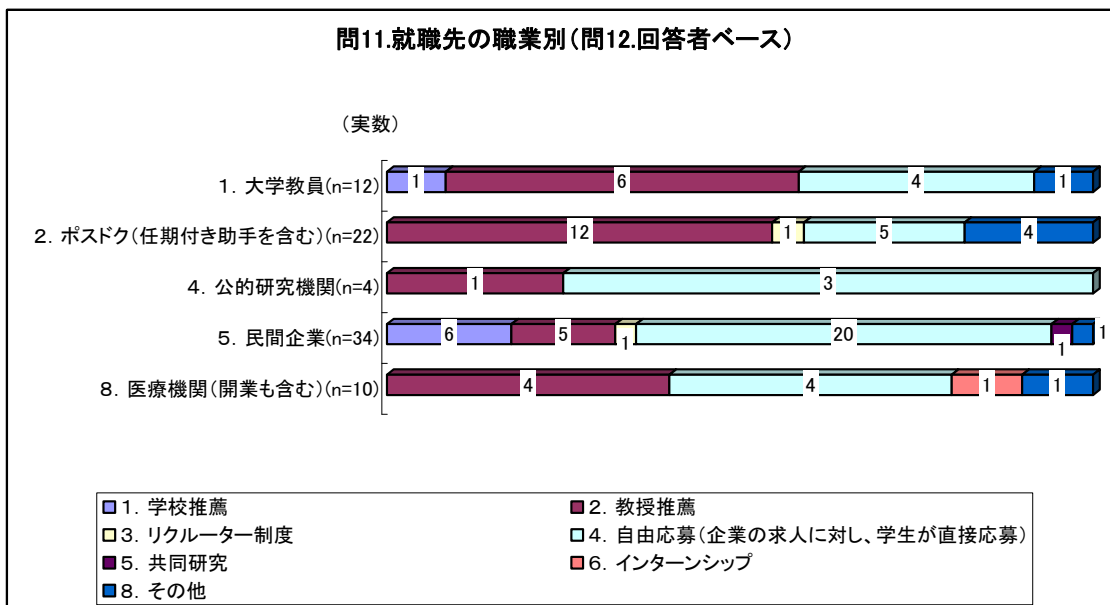
専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
n=	(46)	(3)	(2)	(6)	(19)	(1)	(11)	(4)
1. 研究職	17 (37.0%)	1	1	2	10	1	2	0
2. 専門技術職(医師、薬剤師なども含む)	14 (30.4%)	0	0	3	3	0	8	0
3. 事務職(営業、コンサルタント、会計士なども含む)	5 (10.9%)	2	0	0	1	0	0	2
4. その他	8 (17.4%)	0	1	1	3	0	1	2
無回答	2 (4.3%)	0	0	0	2	0	0	0

(問10. で「1. 就職先は決まっている」と回答した方)

問12. 問11で回答した職業は、どのようなルートを通して決まりましたか。

(当てはまるもの全てに○)

就職活動した際のルートは、全体的としては「教授推薦」と「自由応募」が多い。ただし、民間企業でみると、「自由応募」の割合が高くなっている。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

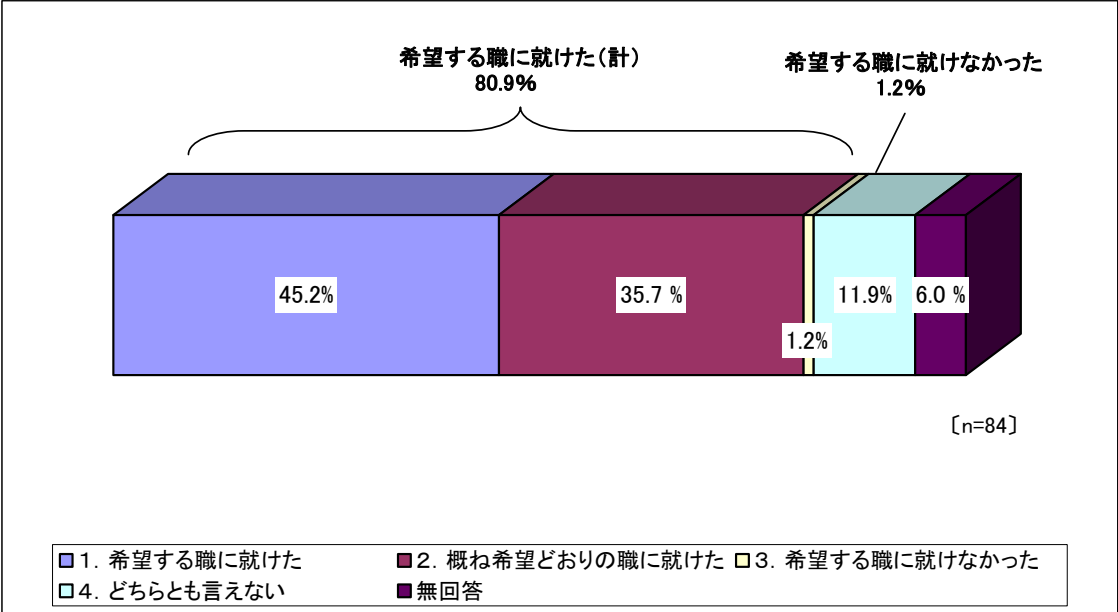
- ◇ 人文科学・理学・その他の専攻では、「自由応募」が多い。
- ◇ 社会科学では、「教授推薦」が半数を占めている。
- ◇ 工学では、「自由応募」「教授推薦」に加え、「学校推薦」も2割近く存在する。
- ◇ 保健では、「教授推薦」が約半数を占め、最も多いルートとなっている。

(実数)

専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他	
選択肢	n=	(84)	(5)	(6)	(10)	(34)	(1)	(23)	(5)
1. 学校推薦	7	0	1	0	6	0	0	0	
	(8.3%)								
2. 教授推薦	28	1	3	1	11	0	12	0	
	(33.3%)								
3. リクルーター制度	2	0	0	0	1	0	1	0	
	(2.4%)								
4. 自由応募(企業の求人に対し、学生が直接応募)	38	3	1	8	15	1	5	5	
	(45.2%)								
5. 共同研究	1	0	0	0	1	0	0	0	
	(1.2%)								
6. インターンシップ	1	0	0	0	0	0	1	0	
	(1.2%)								
7. 企業奨学金	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(0.0%)								
8. その他(具体的に: )	7	0	0	1	4	0	2	0	
	(8.3%)								
無回答	8	1	1	0	2	0	4	0	
	(9.5%)								

(問10. で「1. 就職先は決まっている」と回答した方)  
 問13. 就職先は、希望した職でしたか。(〇は1つ)

「希望する職に就けた」が45.2%、「概ね希望通り」と合わせると希望の職に就けたと感じている者は、80.9%である。一方で、「希望する職に就けなかった」は1.2%とほとんどみられない。

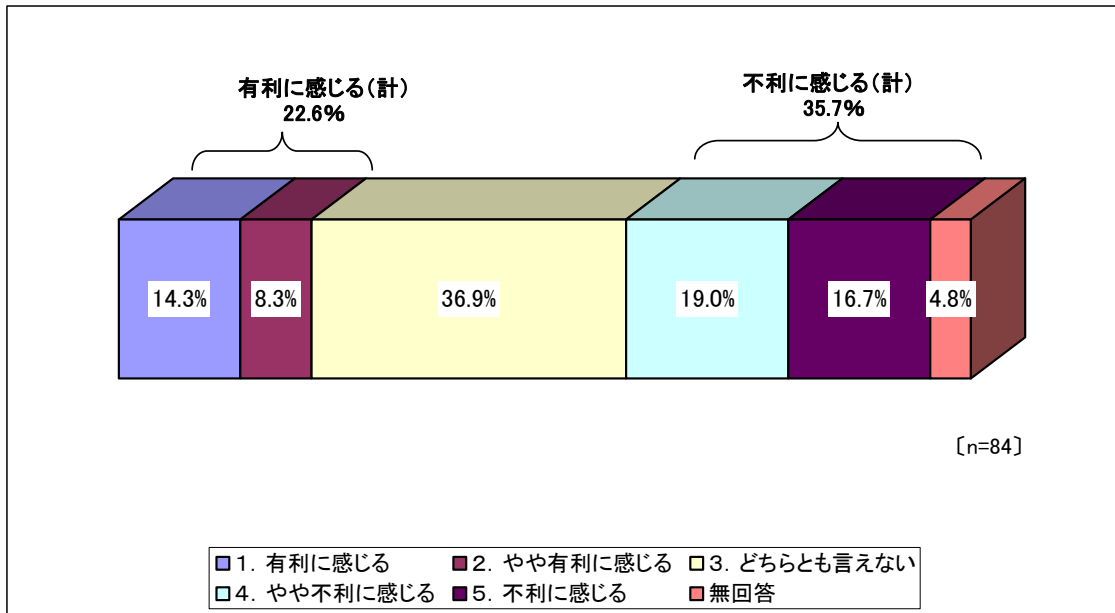


<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの  
 ◇ 理学では、「どちらとも言えない」が半数近くと多い。

		(実数)							
選択肢	専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(84)	(5)	(6)	(10)	(34)	(1)	(23)	(5)
	希望する職に就けた(計)	68 (80.9%)	5	3	6	30	1	19	4
	1. 希望する職に就けた	38 (45.2%)	4	1	3	16	1	11	2
	2. 概ね希望通りの職に就けた	30 (35.7%)	1	2	3	14	0	8	2
	3. 希望する職に就けなかった	1 (1.2%)	0	0	0	0	0	1	0
	4. どちらとも言えない	10 (11.9%)	0	1	4	2	0	2	1
	無回答	5 (6.0%)	0	2	0	2	0	1	0

(問10. で「1. 就職先は決まっている」と回答した方)  
 問14. 博士(後期)課程卒での就職は、学部卒または修士・博士(前期)課程修了と比べて、有利または不利どちらに感じますか。(〇は1つ)

博士課程卒での就職については、「有利に感じる」より「不利に感じる」者の方が多い。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 理学・工学では、「不利に感じる」者が半数を超えており多い。
- ◇ 保健では、「不利に感じる」より「有利に感じる」者の方が多い。

(実数)

専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
n=	(84)	(5)	(6)	(10)	(34)	(1)	(23)	(5)
有利に感じる(計)	19 (22.6%)	2	3	2	3	0	9	0
1. 有利に感じる	12 (14.3%)	2	2	1	1	0	6	0
2. やや有利に感じる	7 (8.3%)	0	1	1	2	0	3	0
3. どちらとも言えない	31 (36.9%)	1	1	2	14	0	11	2
不利に感じる(計)	30 (35.7%)	2	1	6	15	1	2	3
4. やや不利に感じる	16 (19.0%)	2	0	3	6	1	2	2
5. 不利に感じる	14 (16.7%)	0	1	3	9	0	0	1
無回答	4 (4.8%)	0	1	0	2	0	1	0

(問10. で「1. 就職先は決まっている」と回答した方)

問14-1. 問14で回答した理由を、空欄内にご記入ください。

博士課程卒での就職を「有利に感じる」者は、大学教員などの希望する職に就くことができるまたはできたからという理由が多い。

「不利に感じる」者は、博士（後期）課程修了者対象の求人がないまたはあっても数が少ないという回答や、企業が求める専門性が細分化しておりマッチングが難しく、就職先が限定されてしまうといった回答が多くみられた。また、博士（後期）課程まで進学したことにより年齢が高くなってしまい、他の学位取得者と年齢がかけ離れていることから中途採用として扱われるといった回答や公務員等を受ける際年齢制限に引っかかるといった回答もみられた。

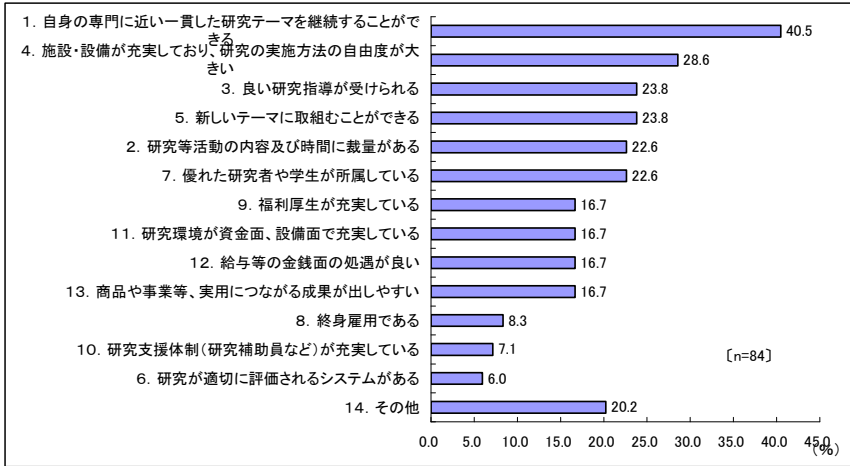
「どちらとも言えない」者は、希望する職種や企業により採用実績等が異なることから、一概には言えないという意見が多かった。

問14-1.自由回答の内容(問14の回答別)	回答数
<b>「1. 有利に感じる」</b>	
希望する職に就くことができる／できた	6
専門的知識を身に付けることができた	3
<b>「2. やや有利に感じる」</b>	
希望する職に就くことができる／できた	4
その他	2
<b>「3. どちらとも言えない」</b>	
希望する職種・企業による	6
就職先が限定される／企業が求める専門性とのマッチングが難しい	3
医師には博士号は必ずしも必要ではない／臨床医としての経験年数が遅れる	3
本人次第	3
専攻分野による	2
その他	3
<b>「4. やや不利に感じる」</b>	
就職先が限定される／企業が求める専門性とのマッチングが難しい	5
年齢制限がある／中途採用となる	4
博士(後期)課程修了者の求人がない／少ない	3
博士(後期)課程修了者が評価されない	2
／偏見がある(プライドが高い、頭が堅い等)	
その他	2
<b>「5. 不利に感じる」</b>	
博士(後期)課程修了者の求人がない／少ない	4
就職先が限定される／企業が求める専門性とのマッチングが難しい	3
博士(後期)課程修了者が評価されない	3
／偏見がある(プライドが高い、頭が堅い等)	
年齢制限がある／中途採用となる	2
その他	1



(問10. で「1. 就職先は決まっている」と回答した方)  
 問15. 就職先を選ぶに当たり、重視した事項をお教えてください。  
 (当てはまるもの全てに○)

就職先選定時に重視した点としては、「研究テーマを継続することができる」が40.5%と最も多い。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 理学では、「金銭面の処遇」「福利厚生が充実」が多い。
- ◇ 工学では、「研究の実施方法の自由度が大きい」「新しいテーマに取り組むことができる」「研究環境が資金・設備面で充実」といった、研究内容や研究環境に関する項目が多い。
- ◇ 保健では、「良い研究指導が受けられる」が多い。
- ◇ その他の専攻では、「新しいテーマに取り組むことができる」「実用につながる成果が出しやすい」が多い。

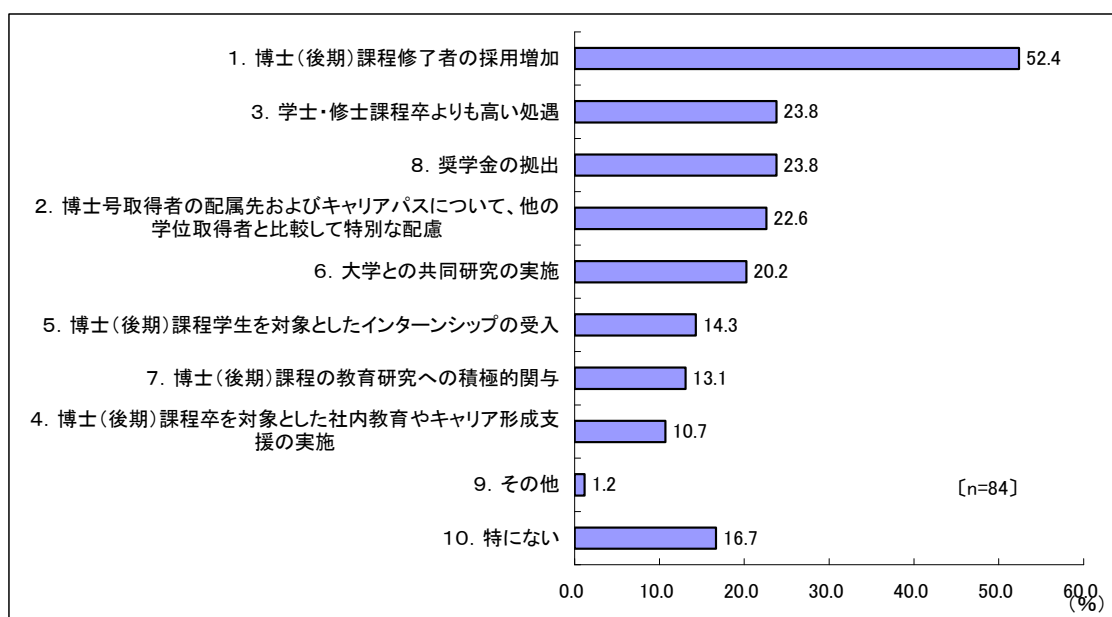
(実数)

専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
n=	(84)	(5)	(6)	(10)	(34)	(1)	(23)	(5)
1. 自身の専門に近い一貫した研究テーマを継続することができる	34 (40.5%)	2	3	1	14	0	13	1
2. 研究等活動の内容及び時間に裁量がある	19 (22.6%)	1	2	0	10	0	5	1
3. 良い研究指導が受けられる	20 (23.8%)	1	2	1	7	0	8	1
4. 施設・設備が充実しており、研究の実施方法の自由度が大きい	24 (28.6%)	1	0	2	14	0	6	1
5. 新しいテーマに取り組むことができる	20 (23.8%)	0	0	2	12	0	3	3
6. 研究が適切に評価されるシステムがある	5 (6.0%)	0	1	0	3	0	1	0
7. 優れた研究者や学生が所属している	19 (22.6%)	1	2	0	8	1	6	1
8. 終身雇用である	7 (8.3%)	0	0	2	3	1	1	0
9. 福利厚生が充実している	14 (16.7%)	1	0	3	6	0	3	1
10. 研究支援体制(研究補助員など)が充実している	6 (7.1%)	0	1	0	3	0	1	1
11. 研究環境が資金面、設備面で充実している	14 (16.7%)	0	0	1	9	1	3	0
12. 給与等の金銭面の処遇が良い	14 (16.7%)	0	0	4	3	1	4	2
13. 商品や事業等、実用につながる成果が出しやすい	14 (16.7%)	1	0	0	6	1	2	4
14. その他	17 (20.2%)	2	1	3	6	0	4	1
無回答	7 (8.3%)	0	2	1	2	0	2	0

(問10. で「1. 就職先は決まっている」と回答した方)

問16. 就職等に関して、企業に望むことをお教えてください。(当てはまるもの全てに○)

企業に望むこととしては、「採用増加」が最も多く約半数が回答している。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

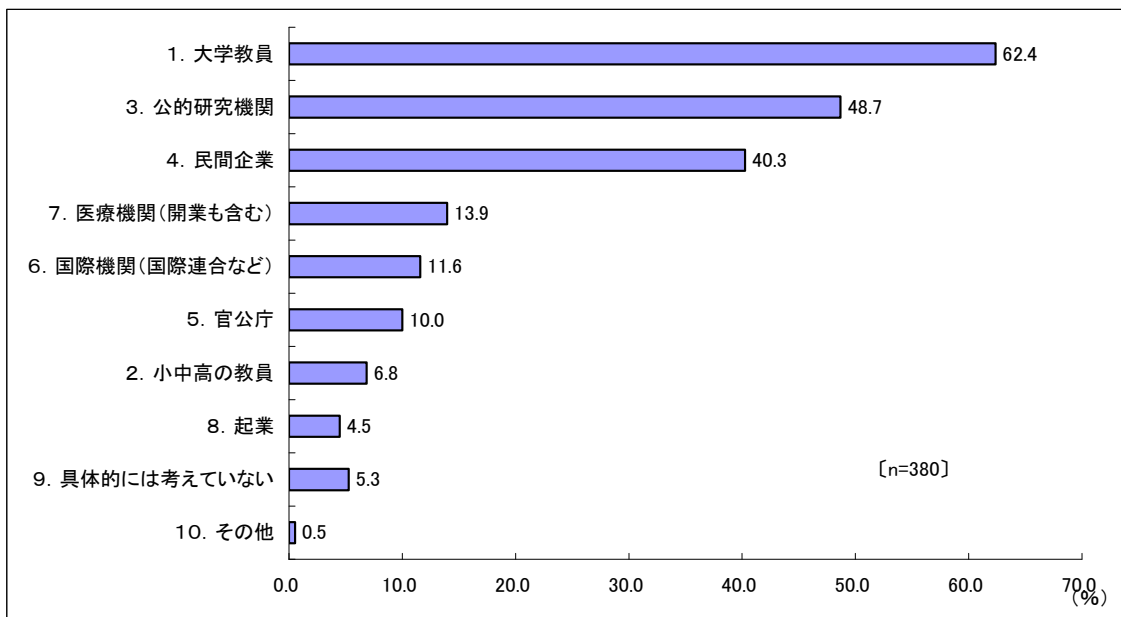
◇ 人文科学・理学では、ほぼ全員が「採用増加」と回答している。

(実数)

選択肢	専攻別							
	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n= (84)	(5)	(6)	(10)	(34)	(1)	(23)	(5)
1. 博士(後期)課程修了者の採用増加	44 (52.4%)	5	3	8	20	1	5	2
2. 博士号取得者の配属先およびキャリアパスについて、他の学位取得者と比較して特別な配慮	19 (22.6%)	0	1	5	10	0	2	1
3. 学士・修士課程卒よりも高い処遇	20 (23.8%)	1	2	3	8	1	4	1
4. 博士(後期)課程卒を対象とした社内教育やキャリア形成支援の実施	9 (10.7%)	0	0	1	8	0	0	0
5. 博士(後期)課程学生を対象としたインターンシップの受入	12 (14.3%)	0	0	2	6	1	3	0
6. 大学との共同研究の実施	17 (20.2%)	0	2	0	7	0	6	2
7. 博士(後期)課程の教育研究への積極的関与	11 (13.1%)	1	2	1	3	0	2	2
8. 奨学金の抛出	20 (23.8%)	2	3	1	6	0	8	0
9. その他(具体的に: )	1 (1.2%)	0	0	0	0	0	0	1
10. 特にない	14 (16.7%)	0	1	0	6	0	6	1
無回答	5 (6.0%)	0	1	0	2	0	2	0

(問10. で「2. 就職先は決まっていない」と回答した方)  
 問17. あなたが今の時点で、博士(後期)課程修了後の就職先として考えているものを教えてください。(当てはまるもの全てに○)

就職先として考えているものとしては、「大学教員」が62.4%と最も多く、「公的研究機関」が48.7%、「民間企業」が40.3%と続いている。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 人文科学・社会科学・その他の専攻では、「大学教員」が70%を超えており多い。
- ◇ 理学・工学では、「公的研究機関」「民間企業」が多い。
- ◇ 保健では、「医療機関」が多い。

(%)

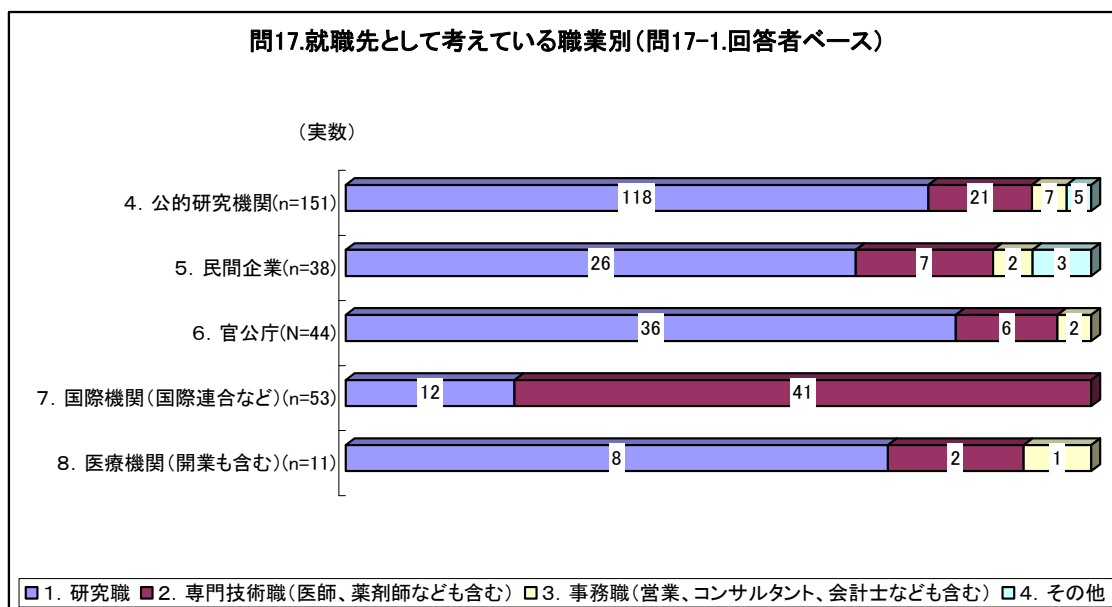
専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
n=	(380)	(39)	(18)	(55)	(97)	(12)	(84)	(75)
1. 大学教員	62.4	71.8	72.2	58.2	63.9	41.7	48.8	74.7
2. 小中高の教員	6.8	7.7	0.0	14.5	10.3	0.0	1.2	5.3
3. 公的研究機関	48.7	46.2	38.9	63.6	60.8	58.3	28.6	46.7
4. 民間企業	40.3	23.1	33.3	69.1	58.8	33.3	21.4	28.0
5. 官公庁	10.0	7.7	16.7	16.4	8.2	33.3	7.1	6.7
6. 国際機関(国際連合など)	11.6	15.4	16.7	9.1	13.4	0.0	8.3	13.3
7. 医療機関(開業も含む)	13.9	12.8	5.6	0.0	0.0	16.7	50.0	4.0
8. 起業	4.5	0.0	5.6	1.8	9.3	8.3	2.4	4.0
9. 具体的には考えていない	5.3	10.3	5.6	1.8	5.2	8.3	8.3	1.3
10. その他(具体的に: )	0.5	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0
無回答	4.2	2.6	5.6	0.0	3.1	8.3	4.8	8.0

全体+10%    
  全体-10%

(問17. で「3～7」のいずれかに回答した方)

問17-1. 今の時点で主に考えている職種は何ですか。(○は1つ)

主に考えている職種は、国際機関では「専門技術職」が多いが、それ以外では「研究職」が多い。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

◇ 理学・工学では、「研究職」が80%を超えており多い。社会科学でも無回答を除くと多くが「研究職」と回答している。

◇ 保健では、「専門技術職」が48.8%と最も多い。

(%)

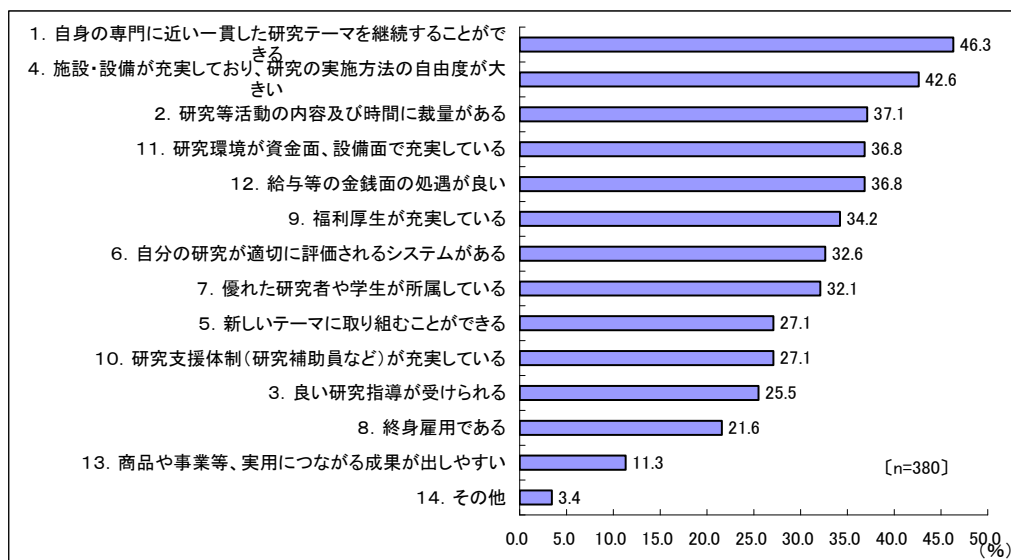
専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
選択肢	n=	(25)	(14)	(49)	(83)	(10)	(80)	(48)
1. 研究職	65.7	68.0	64.3	85.7	80.7	70.0	31.3	75.0
2. 専門技術職(医師、薬剤師なども含む)	20.4	20.0	0.0	2.0	14.5	20.0	48.8	8.3
3. 事務職(営業、コンサルタント、会計士なども含む)	2.6	4.0	7.1	2.0	0.0	0.0	0.0	10.4
4. その他	1.9	4.0	0.0	8.2	0.0	10.0	0.0	0.0
無回答	9.4	4.0	28.6	2.0	4.8	0.0	20.0	6.2

■ 全体+10%    ■ 全体-10%

(問10. で「2. 就職先は決まっていない」と回答した方)

問18. 博士(後期)課程修了後の就職先を選択するに当たって、重視する事項をお教えてください。(当てはまるもの全てに○)

就職先選定時に重視する事項としては、「研究テーマを継続」「研究の実施方法の自由度が大きい」「研究等活動の内容・時間に裁量がある」といった研究に関連する項目が多く挙げられている。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 人文科学では、全体と比べるとどの項目も高くなっており、他の専攻よりも重視点を多く挙げている。
- ◇ 理学では、「終身雇用」であるが多い。
- ◇ 工学では、「新しいテーマに取り組むことができる」が多い。
- ◇ その他の専攻では、「研究テーマを継続」が多い。

(%)

選択肢	専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(380)	(39)	(18)	(55)	(97)	(12)	(84)	(75)
1. 自身の専門に近い一貫した研究テーマを継続することができる	46.3	76.9	72.2	38.2	29.9	33.3	39.3	61.3	
2. 研究等活動の内容及び時間に裁量がある	37.1	56.4	44.4	34.5	34.0	25.0	29.8	41.3	
3. 良い研究指導が受けられる	25.5	33.3	5.6	34.5	21.6	33.3	26.2	22.7	
4. 施設・設備が充実しており、研究の実施方法の自由度が大きい	42.6	56.4	27.8	49.1	47.4	50.0	28.6	42.7	
5. 新しいテーマに取り組むことができる	27.1	35.9	27.8	32.7	37.1	16.7	14.3	21.3	
6. 自分の研究が適切に評価されるシステムがある	32.6	38.5	33.3	29.1	35.1	16.7	28.6	36.0	
7. 優れた研究者や学生が所属している	32.1	46.2	22.2	25.5	38.1	25.0	27.4	30.7	
8. 終身雇用である	21.6	25.6	22.2	34.5	22.7	16.7	11.9	20.0	
9. 福利厚生が充実している	34.2	41.0	27.8	34.5	43.3	41.7	29.8	24.0	
10. 研究支援体制(研究補助員など)が充実している	27.1	38.5	27.8	34.5	25.8	16.7	21.4	25.3	
11. 研究環境が資金面、設備面で充実している	36.8	51.3	38.9	40.0	35.1	33.3	29.8	37.3	
12. 給与等の金銭面の処遇が良い	36.8	46.2	38.9	30.9	38.1	58.3	34.5	33.3	
13. 商品や事業等、実用につながる成果が出しやすい	11.3	10.3	22.2	9.1	17.5	8.3	8.3	6.7	
14. その他	3.4	0.0	16.7	1.8	4.1	8.3	2.4	2.7	
無回答	15.5	7.7	11.1	5.5	19.6	0.0	27.4	12.0	

■ 全体+10%    ■ 全体-10%

(4) 博士（後期）課程修了者のアンケート調査結果

1) 回答者属性

①全体（上段：実数／下段：％）

<性別>(n=365)

男性	女性	無回答
275	87	3
75.3%	23.8%	0.8%

<年齢>(n=365)

29歳以下	30-34歳	35-39歳	40-49歳	50歳以上	無回答
79	157	71	32	22	4
21.6%	43.0%	19.5%	8.8%	6.0%	1.1%

<在籍課程>(n=365)

博士後期課程	医歯獣医学の博士課程	5年一貫性の博士課程	無回答
228	137	0	0
62.5%	37.5%	0.0%	0.0%

<修了年>(n=365)

2008年	2007年	2006年	2005年	2004年	2003年以前	無回答
87	131	79	35	24	7	2
23.8%	35.9%	21.6%	9.6%	6.6%	1.9%	0.5%

<学生種別>(n=365)

社会人学生	留学生	一般学生	無回答
101	6	256	2
27.7%	1.6%	70.1%	0.5%

<採択の状況>(n=365)

特別 研究員	21世紀 COE	グローバル COE	採択され ていない	無回答
61	89	33	219	10
16.7%	24.4%	9.0%	60.0%	2.7%

## ②専攻別（全体と比較して特徴がみられるもの）

※人文科学、社会科学、農学は、n数が少ないため割愛

### ◇ 理学

学生種別では「社会人学生」が 10.5%と少なく、「一般学生」が 87.7%と多い。そのため、年齢は、「29歳以下」が 42.1%と「30-34歳」と並んで多くなっている。採択の状況では、「採択されていない」が全専攻の中で最も低く、「21世紀 COE」が 42.1%、「特別研究員」が 35.1%と高い。

### ◇ 工学

学生種別では「社会人学生」が 14.9%と少なく、「一般学生」が 83.8%と多い。そのため、年齢は「29歳以下」が 43.2%と最も多くなっている。採択の状況では、「21世紀 COE」が 35.1%と理学ほどではないが高い。

### ◇ 保健

学生種別では、「社会人学生」が 44.5%と社会人学生の占める割合が高く、年齢をみると「29歳以下」が 2.9%とほとんどおらず、「35-39歳」が 36.5%と、他の専攻と比べると年齢が高くなっている。採択の状況では、「どれにも採択されていない」が 73.7%と多い。

### ◇ その他の専攻

年齢は、「40歳以上」が 26.6%と「29歳以下」とほぼ同数となっており、比較的年齢層が高い。

<専攻別にみた回答者の属性>

(%)

	n=	性別		年齢					在籍課程		学生種別		
		男性	女性	29歳以下	30-34歳	35-39歳	40-49歳	50歳以上	博士後期課程	医歯獣医学の博士課程	社会人学生	留学生	一般学生
全体	(365)	75.3	23.8	21.6	43.0	19.5	8.8	6.0	62.5	37.5	27.7	1.6	70.1
人文科学	(12)	50.0	50.0	0.0	66.7	16.7	8.3	8.3	100.0	0.0	16.7	0.0	75.0
社会科学	(18)	61.1	38.9	5.6	44.4	27.8	5.6	16.7	100.0	0.0	16.7	5.6	77.8
理学	(57)	84.2	15.8	42.1	42.1	5.3	5.3	3.5	100.0	0.0	10.5	1.8	87.7
工学	(74)	83.8	14.9	43.2	37.8	5.4	5.4	5.4	100.0	0.0	14.9	1.4	83.8
農学	(7)	71.4	28.6	28.6	42.9	28.6	0.0	0.0	100.0	0.0	14.3	14.3	71.4
保健	(137)	73.0	25.5	2.9	46.0	36.5	10.9	2.9	0.0	100.0	44.5	1.5	53.3
その他	(60)	71.7	28.3	26.7	38.3	8.3	13.3	13.3	100.0	0.0	28.3	0.0	71.7

■ 全体+10%    □ 全体-10%

(%)

	n=	修了年					採択の状況			
		2008年	2007年	2006年	2005年	2004年以前	特別 研究員	21世紀 COE	グローバル COE	採択され ていない
全体	(365)	23.8	35.9	21.6	9.6	8.5	16.7	24.4	9.0	60.0
人文科学	(12)	0.0	41.7	8.3	41.7	0.0	33.3	16.7	0.0	50.0
社会科学	(18)	44.4	22.2	16.7	11.1	5.6	11.1	11.1	0.0	77.8
理学	(57)	19.3	24.6	26.3	10.5	17.5	35.1	42.1	10.5	38.6
工学	(74)	25.7	40.5	14.9	8.1	10.8	24.3	35.1	12.2	44.6
農学	(7)	0.0	57.1	0.0	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0	85.7
保健	(137)	23.4	40.9	25.5	5.8	4.4	3.6	14.6	8.8	73.7
その他	(60)	28.3	30.0	23.3	13.3	5.0	18.3	26.7	10.0	61.7

■ 全体+10%    □ 全体-10%



## 2) 調査結果の概要

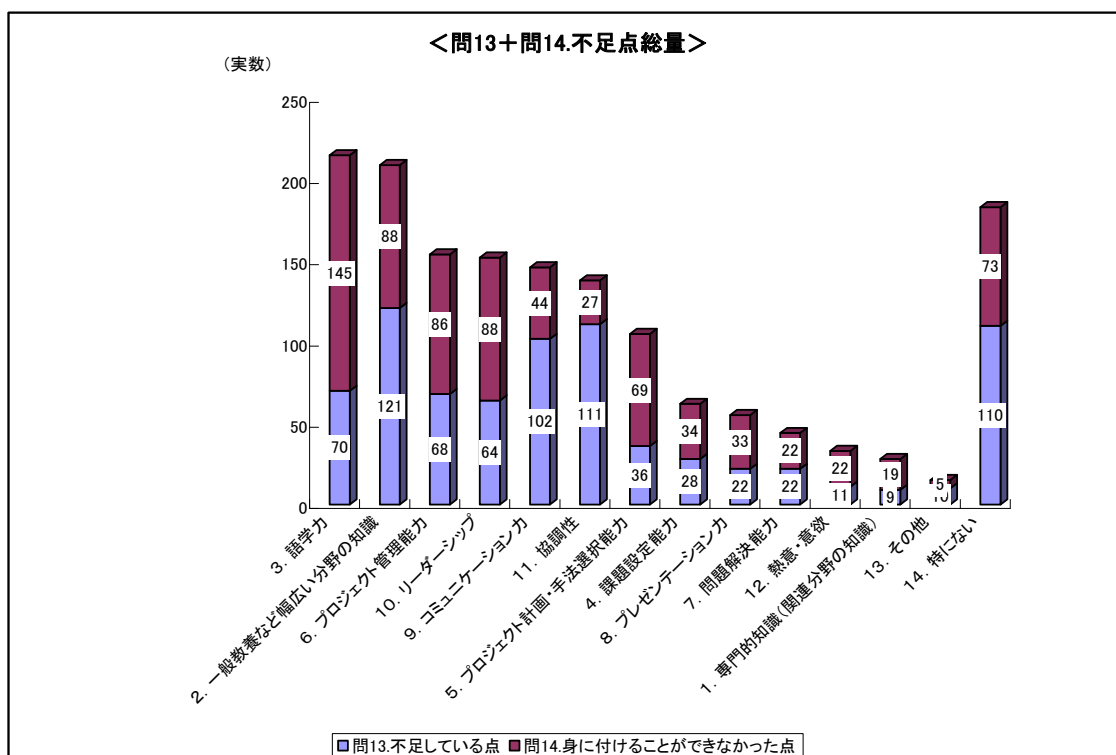
### ①全体

#### ア) 博士課程の課題

大学への要望（問 15）としては、半数以上が「大学教員ポストの拡充」と回答しており、「経済的支援の充実」「国際的な教育研究の機会の充実」も多く挙げられていた。

修了者の視点からみた不足点（問 13+問 14）としては、「語学力」や「幅広い分野の知識」が多い。また、語学力などの知識に次いで「プロジェクト管理能力」や「リーダーシップ」「コミュニケーション」「協調性」といった能力が上位に上がっており、活躍の幅や視野を広げるための知識に加え、知識を活かすための能力が不足していることがみてとれる。

博士課程卒での就職は、一般論（問 9）としては「不利に感じる」者の方が多い。また、企業への要望（問 12）として半数以上が「博士課程修了者の採用増加」を挙げる他、「学士・修士課程卒よりも高い処遇」「配属先・キャリアパスについて他の学位取得者と比較して特別な配慮」が多く、博士課程卒のメリットがあまり感じられていない様子がうかがえる。



## ②専攻別

※人文科学、社会科学、農学は、n 数が少ないため割愛

### ◇ 理学

博士課程において身に付けることができなかつた点(問 14)としては、「語学力」に加え「幅広い分野の知識」「リーダーシップ」が多く挙げられている。一般論として不足している点(問 13)としては「協調性」や「幅広い分野の知識」が多い。

博士課程卒での就職については、一般論(問 9)、自身の就職(問 10)ともに「不利に感じる」者が多く、他の専攻と比べてもその割合が高い。

大学への要望(問 15)としては、「大学教員ポストの拡充」「経済的支援の充実」が多い。企業への要望(問 12)としては、「博士課程修了者の採用増加」に加え「配属先・キャリアパスについて他の学位取得者と比較して特別な配慮」が多く挙げられている。

### ◇ 工学

博士課程において身に付けることができなかつた点(問 14)としては、「語学力」に次いで「幅広い分野の知識」が多く挙げられている。一般論として不足している点(問 13)は、「幅広い分野の知識」「協調性」が多い。

博士課程卒での就職を一般論(問 9)として「不利に感じる」者が理学ほどではないが約半数を占めており多い。ただし、自身の就職(問 10)については「有利に感じる」者の方が多くなっている。

大学への要望(問 15)としては、「大学教員ポストの拡充」「経済的支援の充実」が多い。企業への要望(問 12)としては、「採用増加」と回答する者が圧倒的に多い。

### ◇ 保健

博士課程において身に付けることができなかつた点(問 14)としては、「語学力」に次いで「リーダーシップ」が多い。一般論として不足している点(問 13)は、「特にない」が約 4 割を占め最も多い回答となっている。

博士課程卒での就職については、一般論(問 9)、自身の就職(問 10)ともに「不利に感じる」者はあまりおらず、「有利に感じる」者が多いのが特徴的である。また、就職活動のルートとしては「自由応募」が少なく「教授推薦」が多いことから、他の専攻よりも比較的就職先を見つけやすい状況にあるものと推測される。

大学への要望(問 15)としては、他の専攻のように半数を超える項目はなく、全般的に低い値となっている。その中で多かった回答としては「大学教員ポストの拡充」「経済的支援の充実」「国際的な教育研究機会の充実」である。企業への要望

(問 12) においても半数を超えた項目はなく、比較的多かったのは「学士・修士課程よりも高い処遇」「配属先・キャリアパスについて他の学位取得者と比較して特別な配慮」である。

◇ その他の専攻

博士課程において身に付けることができなかった点(問 14)としては、「語学力」に次いで「特にない」が多い。一般論として不足している点(問 13)としては、「コミュニケーション力」が最も多く挙げられている。

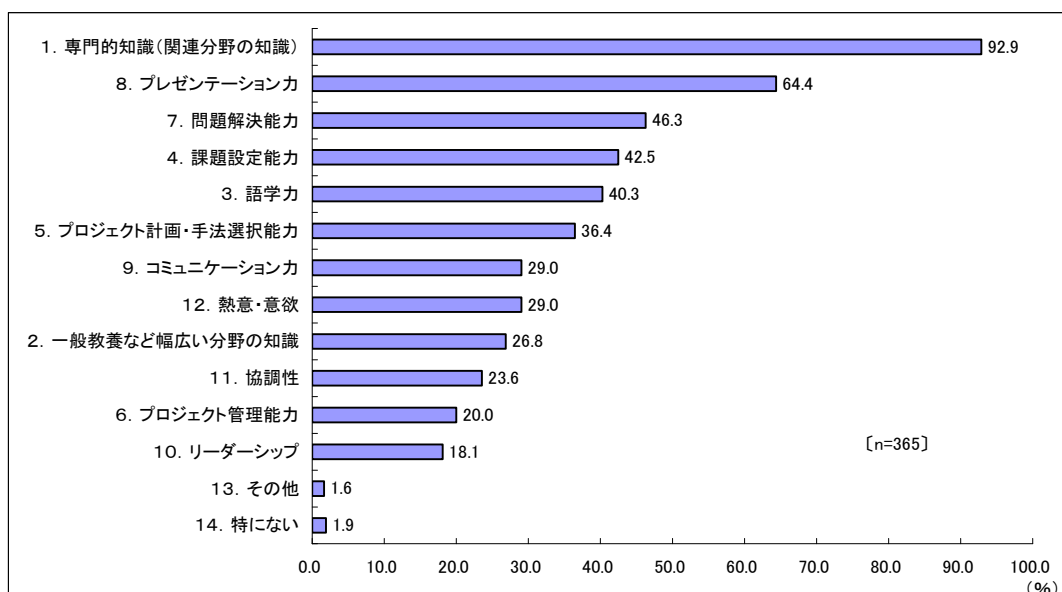
博士課程卒での就職について、一般論(問 9)として「不利に感じる」者が多い。ただし、自身の就職(問 10)については「有利に感じる」者が約半数を占め、不利よりも有利に感じる者の方が多い。

大学への要望(問 15)としては、「大学教員ポストの拡充」に加え、「経済的支援の充実」「国際的な教育研究の機会の充実」が多い。企業への要望(問 12)としては、「博士課程修了者の採用増加」が圧倒的に多い。

### 3) 調査結果

問3. 博士（後期）課程での教育研究を通じて、向上したと思われる能力はありますか。  
（当てはまるもの全てに○）

向上した能力は「専門的知識」が 92.9%と、ほとんどの者が挙げている。次いで「プレゼンテーション力」が多く 64.4%である。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 理学では、「プレゼンテーション力」が多い。
- ◇ その他の専攻では、「プロジェクト管理能力」「コミュニケーション力」「リーダーシップ」が多い。

選択肢	専攻別	(%)							
		全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(365)	(12)	(18)	(57)	(74)	(7)	(137)	(60)
1. 専門的知識(関連分野の知識)		92.9	100.0	100.0	94.7	95.9	85.7	89.8	91.7
2. 一般教養など幅広い分野の知識		26.8	50.0	55.6	14.0	25.7	42.9	22.6	35.0
3. 語学力		40.3	33.3	66.7	49.1	35.1	28.6	33.6	48.3
4. 課題設定能力		42.5	66.7	44.4	47.4	43.2	71.4	32.1	51.7
5. プロジェクト計画・手法選択能力		36.4	58.3	22.2	26.3	31.1	42.9	41.6	40.0
6. プロジェクト管理能力		20.0	33.3	33.3	14.0	18.9	28.6	13.1	35.0
7. 問題解決能力		46.3	50.0	33.3	50.9	51.4	71.4	40.9	48.3
8. プレゼンテーション力		64.4	58.3	50.0	78.9	67.6	71.4	54.7	73.3
9. コミュニケーション力		29.0	33.3	22.2	28.1	25.7	42.9	16.8	61.7
10. リーダーシップ		18.1	33.3	16.7	15.8	27.0	28.6	7.3	30.0
11. 協調性		23.6	25.0	38.9	19.3	25.7	28.6	19.0	30.0
12. 熱意・意欲		29.0	75.0	38.9	31.6	27.0	42.9	25.5	23.3
13. その他		1.6	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	2.2	1.7
14. 特にない		1.9	0.0	0.0	1.8	1.4	0.0	3.6	0.0
無回答		0.3	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0

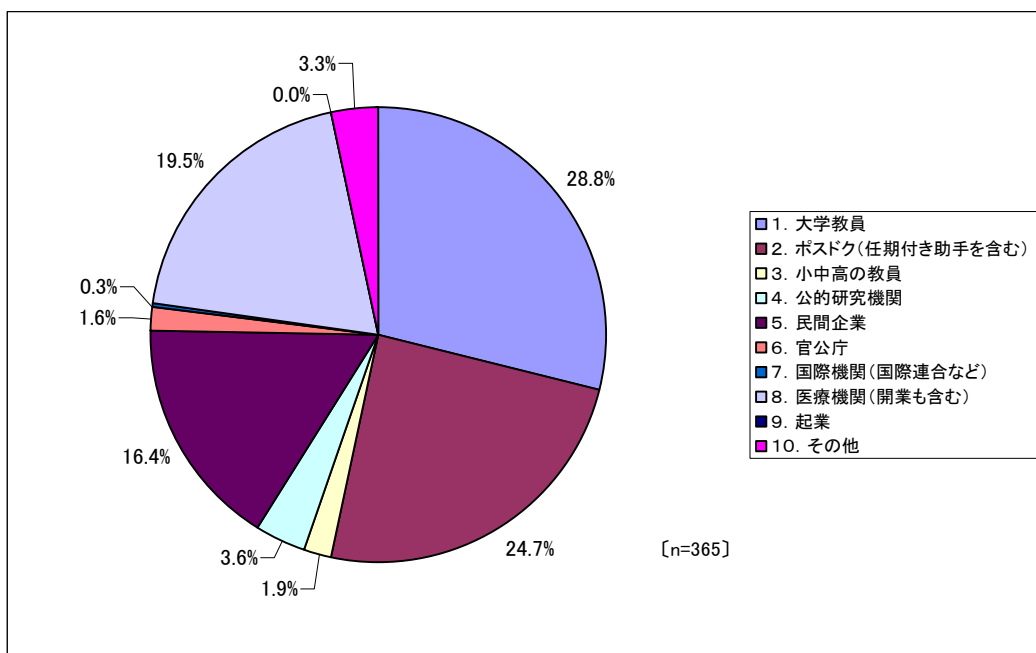
■ 全体+10%    ■ 全体-10%

【参考】

※修了者については、修了後の連絡先が判明している人が限られており、その中から協力依頼をしていることから、職業関連の項目については回答者の属性に偏りが生じている可能性がある。そのため、参考資料としてみる必要がある。

問4. あなたの現在の職業をお教えてください。(○は1つ)

現在の職業としては、「大学教員」が28.8%と最も多く、「ポスドク」が24.7%、「医療機関」が19.5%、「民間企業」が16.4%となっている。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 理学・工学では、「民間企業」が多い。
- ◇ 保健では、「医療機関」が約半数を占めており最も多い。
- ◇ その他の専攻では、「ポスドク」が36.7%と最も多い。

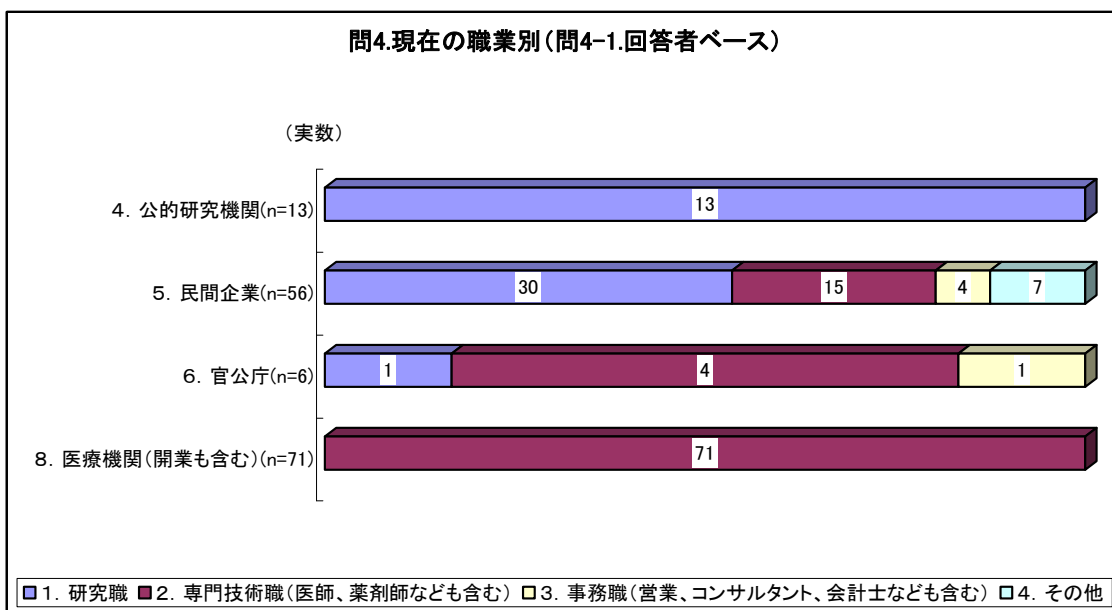
選択肢	専攻別	(%)							
		全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(365)	(12)	(18)	(57)	(74)	(7)	(137)	(60)
1. 大学教員		28.8	33.3	38.9	22.8	31.1	28.6	29.2	26.7
2. ポスドク(任期付き助手を含む)		24.7	33.3	33.3	33.3	32.4	42.9	8.8	36.7
3. 小中高の教員		1.9	8.3	0.0	7.0	1.4	0.0	0.0	1.7
4. 公的研究機関		3.6	0.0	5.6	5.3	2.7	14.3	3.6	1.7
5. 民間企業		16.4	16.7	5.6	29.8	31.1	14.3	2.2	21.7
6. 官公庁		1.6	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	3.3
7. 国際機関(国際連合など)		0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0
8. 医療機関(開業も含む)		19.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	51.8	0.0
9. 起業		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10. その他(具体的に: )		3.3	0.0	16.7	1.8	1.4	0.0	1.5	8.3
無回答		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

■ 全体+10%    ■ 全体-10%

【参考】

(問4. で「4～8」のいずれかに回答した方)  
 問4-1. 問4で回答した職業の職種は何ですか。(○は1つ)

現在の職業の職種は、公的研究機関では全員が「研究職」、医療機関では全員が「専門技術職」と回答している。民間企業では「研究職」が約半数を占め最も多く、それ以外では「専門技術職」は約2割となっており、「事務職」も僅かではあるが存在する。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 理学・工学・その他の専攻では、「研究職」が多い。
- ◇ 保健では、ほとんどが「専門技術職」である。

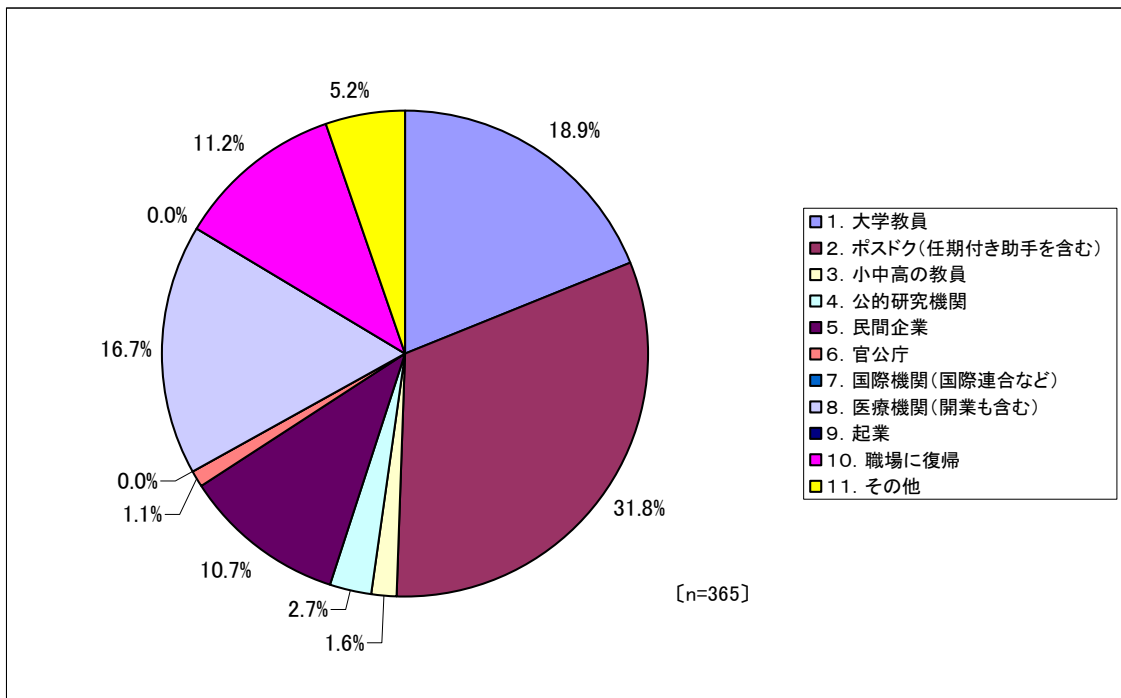
(実数)

専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
n=	(151)	(3)	(2)	(20)	(25)	(2)	(83)	(16)
1. 研究職	44 (29.1%)	0	1	12	15	1	6	9
2. 専門技術職(医師、薬剤師なども含む)	91 (60.3%)	1	0	4	6	0	75	5
3. 事務職(営業、コンサルタント、会計士なども含む)	5 (3.3%)	2	1	0	0	1	0	1
4. その他	7 (4.6%)	0	0	2	4	0	1	0
無回答	4 (2.6%)	0	0	2	0	0	1	1

【参考】

問5. あなたの博士（後期）課程修了直後の職業をお教えてください。（○は1つ）

修了直後の職業としては、「ポスドク」が31.8%と最も多く、次いで「大学教員」が18.9%、「医療機関」が16.7%、「民間企業」が10.7%となっている。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 理学・工学では、「ポスドク」「民間企業」が多い。
- ◇ 保健では、「医療機関」が最も多く、44.5%である。

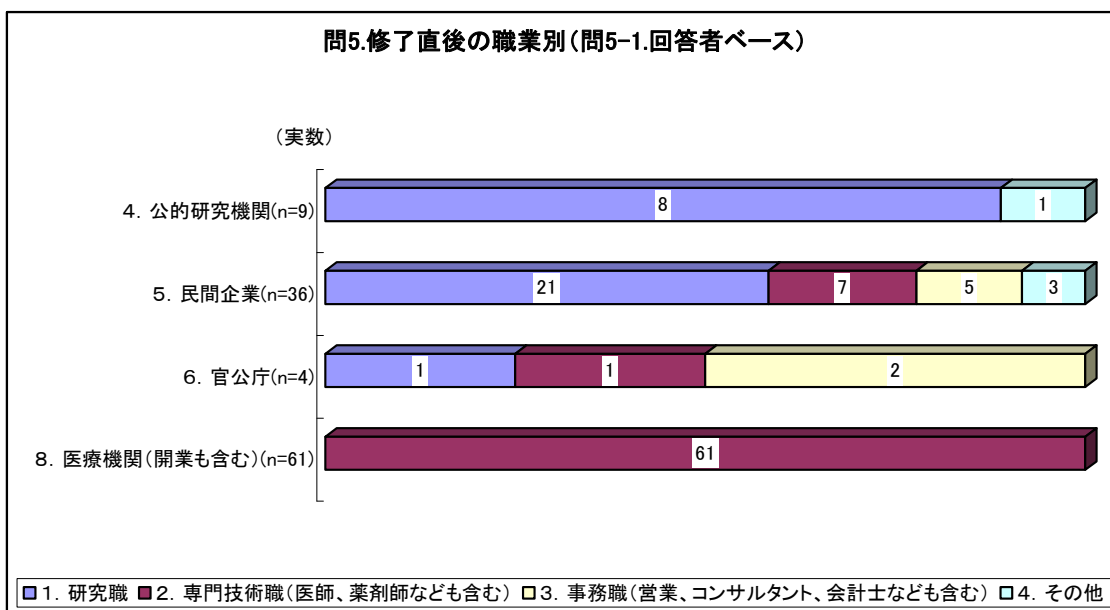
選択肢	専攻別	(%)							
		全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(365)	(12)	(18)	(57)	(74)	(7)	(137)	(60)
1. 大学教員		18.9	0.0	33.3	5.3	17.6	28.6	24.8	18.3
2. ポスドク(任期付き助手を含む)		31.8	58.3	27.8	52.6	43.2	42.9	11.7	38.3
3. 小中高の教員		1.6	8.3	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	1.7
4. 公的研究機関		2.7	0.0	0.0	5.3	2.7	0.0	2.9	1.7
5. 民間企業		10.7	16.7	11.1	21.1	23.0	14.3	1.5	5.0
6. 官公庁		1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	5.0
7. 国際機関(国際連合など)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8. 医療機関(開業も含む)		16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	44.5	0.0	0.0
9. 起業		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10. 職場に復帰		11.2	16.7	5.6	5.3	8.1	14.3	12.4	18.3
11. その他(具体的に: )		5.2	0.0	22.2	3.5	5.4	0.0	1.5	11.7
無回答		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

■ 全体+10%    ■ 全体-10%

【参考】

(問5. で「4～8」のいずれかに回答した方)  
 問5-1. 問5で回答した職業の職種は何ですか。(○は1つ)

修了直後の職業の職種は、公的研究機関ではほぼ全員が「研究職」、医療機関では全員が「専門技術職」と回答している。民間企業では、「研究職」が半数を超えており最も多く、それ以外は「専門技術職」と「事務職」が約半々ずつ存在する。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 理学・工学・その他の専攻では、「研究職」が多い。
- ◇ 保健では、ほとんどが「専門技術職」である。

(実数)

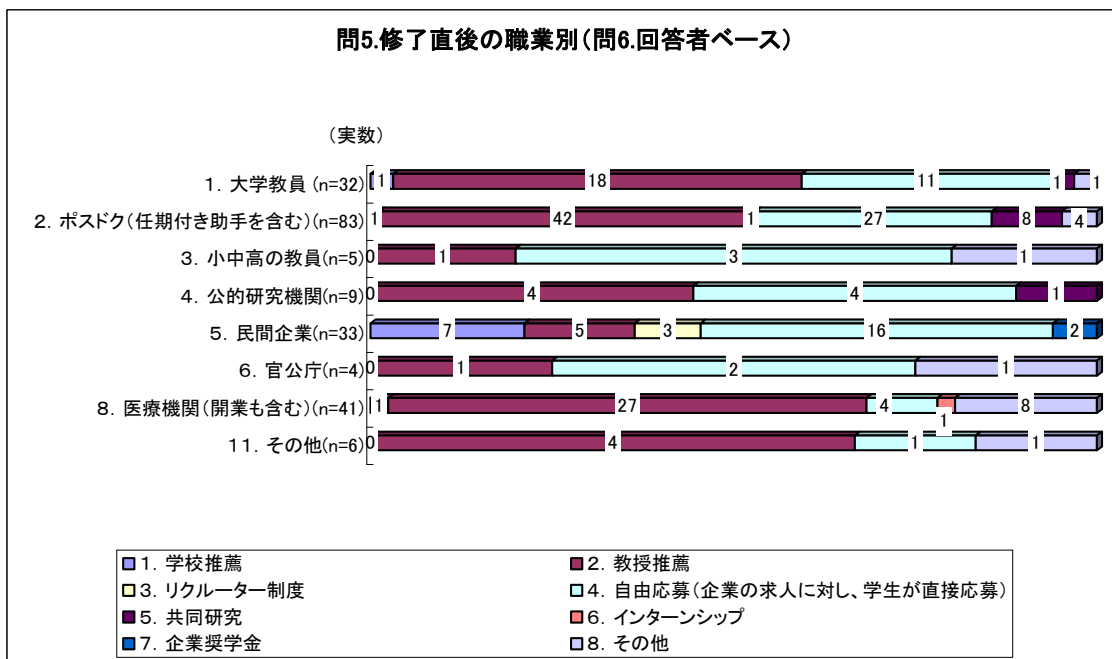
専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
n=	(114)	(2)	(2)	(15)	(19)	(1)	(68)	(7)
1. 研究職	30 (26.3%)	0	1	7	12	0	5	5
2. 専門技術職(医師、薬剤師なども含む)	69 (60.5%)	0	0	2	5	0	62	0
3. 事務職(営業、コンサルタント、会計士なども含む)	7 (6.1%)	0	1	2	1	1	0	2
4. その他	4 (3.5%)	0	0	3	1	0	0	0
無回答	4 (3.5%)	2	0	1	0	0	1	0



【参考】

(問5. で「10. 職場に復帰」と回答しなかった方)  
 問6. 問5で回答した職業は、どのようなルートを通して決まりましたか。  
 (当てはまるもの全てに○)

就職活動する際のルートとしては、「教授推薦」や「自由応募」が多い。医療機関では多くが「教授推薦」であるが、「学校推薦」も存在する。民間企業では「自由応募」が半数を占めており、それ以外では「学校推薦」や「教授推薦」が多い。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 理学では、「教授推薦」と合わせて「自由応募」が多い。
- ◇ 保健では、「自由応募」は少なく、「教授推薦」がルートとしては最も多い。

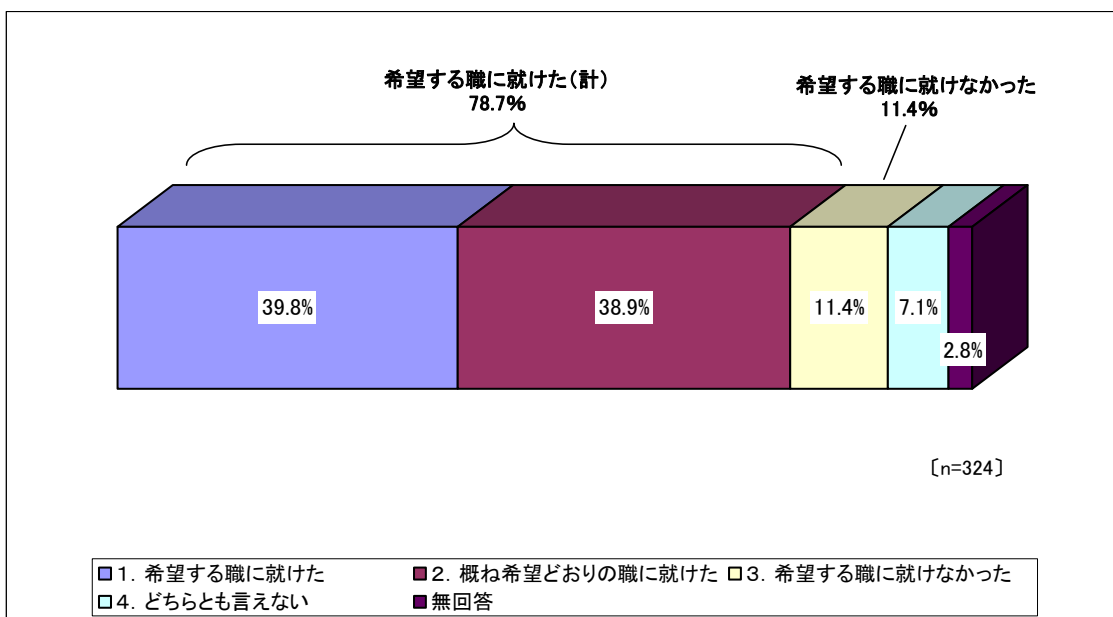
選択肢	専攻別	(%)							
		全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(324)	(10)	(17)	(54)	(68)	(6)	(120)	(49)
1. 学校推薦		3.1	0.0	0.0	3.7	7.4	0.0	0.8	4.1
2. 教授推薦		31.5	10.0	5.9	38.9	23.5	50.0	38.3	28.6
3. リクルーター制度		1.2	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	0.8	2.0
4. 自由応募(企業の求人に対し、学生が直接応募)		21.0	30.0	29.4	38.9	23.5	16.7	7.5	26.5
5. 共同研究		3.1	10.0	0.0	3.7	5.9	0.0	0.8	4.1
6. インターンシップ		0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0
7. 企業奨学金		0.6	0.0	0.0	1.9	1.5	0.0	0.0	0.0
8. その他(具体的に: )		4.9	0.0	11.8	3.7	1.5	0.0	7.5	4.1
無回答		39.8	50.0	52.9	24.1	44.1	33.3	44.2	34.7

■ 全体+10%    ■ 全体-10%

【参考】

(問5. で「10. 職場に復帰」と回答しなかった方)  
 問7. 現在、あなたは希望する職に就けましたか。(○は1つ)

現在の職業について、「希望する職に就けた」と回答する者は 39.8%であり、「概ね希望通り」と合わせると 78.7%となっている。一方、「希望する職に就けなかった」も 11.4%いる。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 理学・その他の専攻では、「希望する職に就けた」者が少ない。
- ◇ 保健では、「希望する職に就けた」が多く、「概ね希望通り」と合わせると約 90%が希望する職に就けたと回答している。

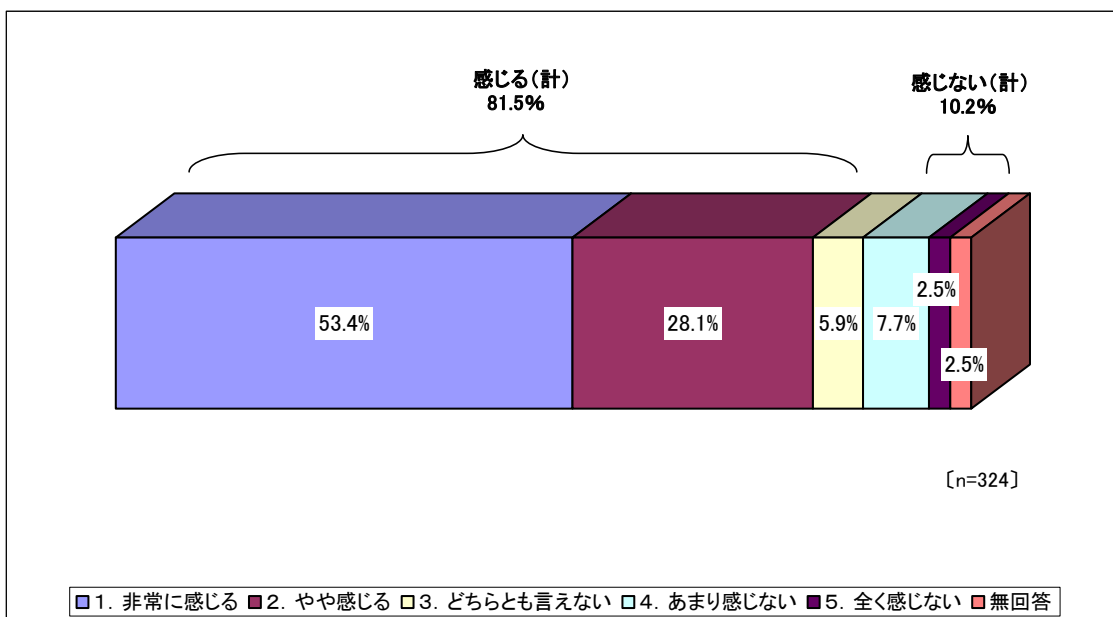
選択肢	専攻別	(%)							
		全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(324)	(10)	(17)	(54)	(68)	(6)	(120)	(49)
希望する職に就けた(計)		78.7	50.0	52.9	68.5	85.3	83.3	89.2	69.4
1. 希望する職に就けた		39.8	40.0	23.5	25.9	44.1	16.7	51.7	28.6
2. 概ね希望どおりの職に就けた		38.9	10.0	29.4	42.6	41.2	66.7	37.5	40.8
3. 希望する職に就けなかった		11.4	30.0	17.6	16.7	7.4	16.7	5.0	20.4
4. どちらとも言えない		7.1	20.0	29.4	11.1	5.9	0.0	1.7	8.2
無回答		2.8	0.0	0.0	3.7	1.5	0.0	4.2	2.0

全体+10%    全体-10%

【参考】

(問5. で「10. 職場に復帰」と回答しなかった方)  
 問8. 博士(後期)課程で学んだことは、現在の職において活かせていると感じますか。  
 (〇は1つ)

学んだことが現在の職に活かせていると「非常に感じる」者が53.4%、「やや感じる」と合わせると81.5%となっている。一方で、「感じない(計)」も10.2%存在する。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 工学では、活かせていると「非常に感じる」が66.2%と多い。
- ◇ 保健では、「非常に感じる」と強く感じる者が比較的少なく、「やや感じる」とほぼ同じ割合となっている。

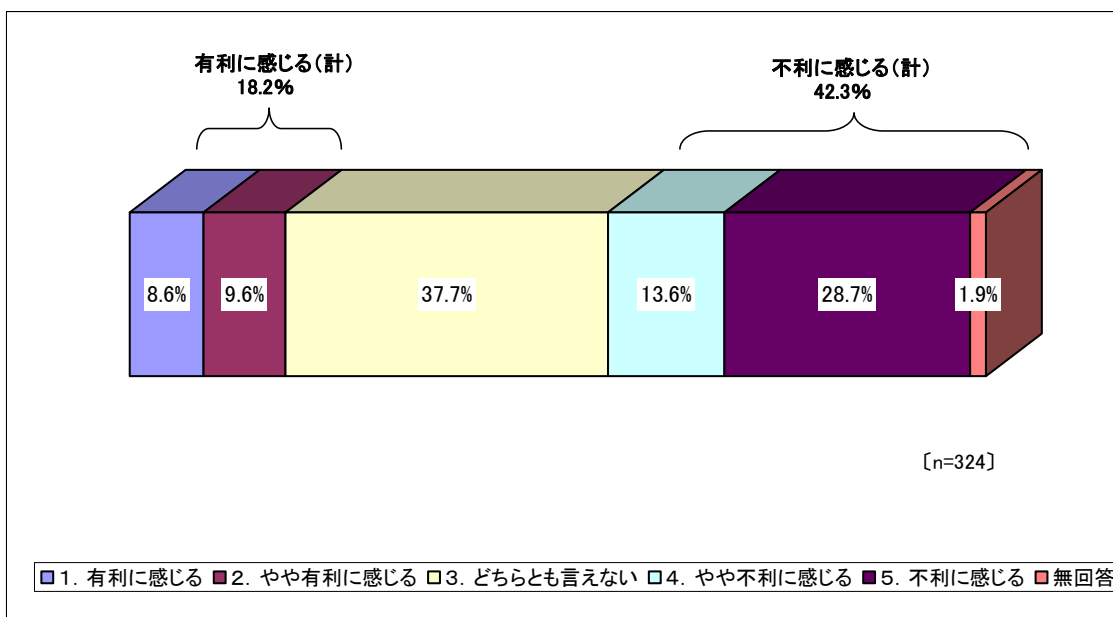
選択肢	専攻別	(%)							
		全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(324)	(10)	(17)	(54)	(68)	(6)	(120)	(49)
感じる(計)		81.5	80.0	76.5	79.6	85.3	83.3	79.2	85.7
1. 非常に感じる		53.4	40.0	58.8	61.1	66.2	50.0	41.7	57.1
2. やや感じる		28.1	40.0	17.6	18.5	19.1	33.3	37.5	28.6
3. どちらとも言えない		5.9	10.0	5.9	1.9	5.9	0.0	7.5	6.1
感じない(計)		10.2	10.0	17.6	16.7	7.4	16.7	10.0	4.1
4. あまり感じない		7.7	10.0	17.6	13.0	5.9	16.7	6.7	2.0
5. 全く感じない		2.5	0.0	0.0	3.7	1.5	0.0	3.3	2.0
無回答		2.5	0.0	0.0	1.9	1.5	0.0	3.3	4.1

■ 全体+10%    ■ 全体-10%

【参考】

(問5. で「10. 職場に復帰」と回答しなかった方)  
 問9. 博士(後期)課程卒での就職は、学部卒または修士・博士(前期)課程修了と比べて、一般論として有利または不利どちらに感じますか。(〇は1つ)

一般論として博士課程卒での就職を「有利に感じる」と回答した者は8.6%、「やや有利に感じる」と合わせると18.2%である。一方、「不利に感じる」は28.7%、「やや不利に感じる」と合わせると42.3%となっており、不利に感じる者の方が多くなっている。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 理学では、「不利に感じる」者が半数、「やや不利に感じる」と合わせると74.1%と、不利に感じる者が多い。
- ◇ 工学・その他の専攻では、「不利に感じる(計)」が半数を超えており多い。
- ◇ 保健では、「不利に感じる(計)」が1割と少なく、不利よりも有利に感じる者の方が多くなっている。

選択肢	専攻別	(%)							
		全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(324)	(10)	(17)	(54)	(68)	(6)	(120)	(49)
有利に感じる(計)		18.2	20.0	17.6	7.4	10.3	0.0	30.8	12.2
1. 有利に感じる		8.6	10.0	11.8	5.6	1.5	0.0	14.2	8.2
2. やや有利に感じる		9.6	10.0	5.9	1.9	8.8	0.0	16.7	4.1
3. どちらとも言えない		37.7	10.0	29.4	18.5	32.4	33.3	55.8	30.6
不利に感じる(計)		42.3	70.0	47.1	74.1	55.9	66.7	10.0	57.1
4. やや不利に感じる		13.6	10.0	0.0	24.1	20.6	0.0	5.0	20.4
5. 不利に感じる		28.7	60.0	47.1	50.0	35.3	66.7	5.0	36.7
無回答		1.9	0.0	5.9	0.0	1.5	0.0	3.3	0.0

全体+10%    
  全体-10%

(問5. で「10. 職場に復帰」と回答しなかった方)

問9-1. 問9で回答した理由を、空欄内にご記入ください。

一般論として博士課程卒での就職を「有利に感じる」者は、大学教員等の研究職に就く場合には博士課程卒が必須の条件となるため有利という回答が多かった。また、博士課程卒は他の学位取得者と比べると給与や職位などで優遇されるという回答もみられた。

「不利に感じる」者は、年齢が高いことにより新卒者とは扱われず中途採用になったり、公務員等では年齢制限に引っかかるという回答が多かった。また、博士課程修了者の求人がないまたは少ないや博士課程まで進学すると就職できる職種や企業が限られるという回答も多くみられた。さらには、博士課程修了者は専門性が高すぎて企業はそこまでのレベルの専門性を必要としていないや、プライドが高いイメージがある、頭が堅くて柔軟性がない等の博士課程修了者に対する偏見を企業側が持っているという回答も少なからずみられた。

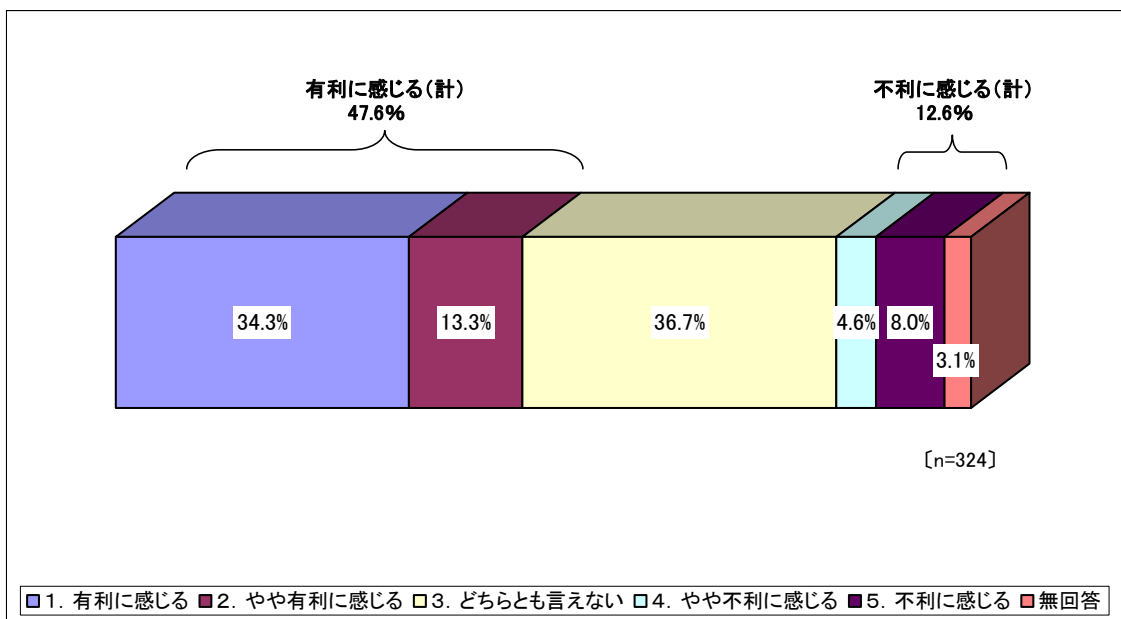
「どちらとも言えない」者は、希望する職種や企業により博士課程修了者の採用状況に差があるため一概には言えないという回答が最も多く、次いで博士課程修了というよりも本人の実力次第であるという回答が多かった。また、保健専攻の学生では、将来医師として働くのであれば学位よりも専門医の資格の方が重要であるため、博士課程に進学した場合は資格取得や臨床医として経験年数が遅れるといった意見も多くみられた。

問9-1.自由回答の内容(問9の回答別)	回答数
<b>「1. 有利に感じる」</b>	
大学教員等の研究職に就く場合は有利	10
給与・待遇が良い	4
研究遂行能力を身に付けることができた	4
専門的知識を身に付けることができた	3
その他	1
<b>「2. やや有利に感じる」</b>	
大学教員などの研究職に就く場合は有利	10
給与や待遇が良い	5
専門知識を身に付けることができた	2
その他	4
<b>「3. どちらとも言えない」</b>	
希望する職種・企業による	22
本人次第	15
医師には博士号は必ずしも必要ではない／臨床医としての経験年数が遅れる ／博士号より専門医の資格の方が重要	10
博士(後期)課程修了者の求人がない／少ない	8
就職先の企業・職種が限られる	5
年齢制限がある／中途採用となる	5
専門性を活かせる職がない／企業が求める専門性とのマッチングが難しい	5
給与や待遇面で他の学位取得者と変わりがない	3
大学教員などの研究職に就く場合は有利	2
専門知識を身に付けることができた	4
博士(後期)課程修了者が評価されない ／偏見がある(プライドが高い、頭が堅い等)	3
学位が高い分給料が高くなるため採用しがたらない	2
その他	2
<b>「4. やや不利に感じる」</b>	
年齢制限がある／中途採用となる	11
博士(後期)課程修了者の求人がない／少ない	10
就職先の企業・職種が限られる	7
専門性を活かせる職がない／企業が求める専門性とのマッチングが難しい	6
博士(後期)課程修了者が評価されない ／偏見がある(プライドが高い、頭が堅い等)	6
専門性が高すぎる／企業はそこまで専門性を必要としていない	2
その他	2
<b>「5. 不利に感じる」</b>	
年齢制限がある／中途採用となる	28
就職先の企業・職種が限られる	23
博士(後期)課程修了者の求人がない／少ない	21
博士(後期)課程修了者が評価されない ／偏見がある(プライドが高い、頭が堅い等)	9
専門性が高すぎる／企業はそこまで専門性を必要としていない	8
給与や待遇面で他の学位取得者と変わりがない	4
専門性を活かせる職がない／企業が求める専門性とのマッチングが難しい	2
学位が高い分給料が高くなるため採用しがたらない	2
その他	7

【参考】

(問5. で「10. 職場に復帰」と回答しなかった方)  
 問10. 博士(後期)課程卒での就職は、学部卒または修士・博士(前期)課程修了と比べて、ご自身の就職において有利または不利のどちらと感じましたか。(〇は1つ)

自身の就職において博士課程卒での就職を「有利に感じる」と回答した者は34.3%、「やや有利に感じる」と合わせると47.6%となっている。一方、「不利に感じる(計)」と回答した者も12.6%存在する。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 理学では、不利よりも有利に感じる者の方が多いが「不利に感じる」と強く感じている者も22.2%存在する。
- ◇ 工学では、「有利に感じる」と強く感じている者が多い。

選択肢	専攻別	(%)							
		全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(324)	(10)	(17)	(54)	(68)	(6)	(120)	(49)
有利に感じる(計)		47.5	60.0	52.9	46.3	55.9	33.3	40.0	53.1
1. 有利に感じる		34.3	40.0	47.1	35.2	47.1	16.7	24.2	36.7
2. やや有利に感じる		13.3	20.0	5.9	11.1	8.8	16.7	15.8	16.3
3. どちらとも言えない		36.7	20.0	41.2	22.2	23.5	66.7	51.7	32.7
不利に感じる(計)		12.7	20.0	0.0	31.5	17.6	0.0	3.3	12.2
4. やや不利に感じる		4.6	0.0	0.0	9.3	5.9	0.0	3.3	4.1
5. 不利に感じる		8.0	20.0	0.0	22.2	11.8	0.0	0.0	8.2
無回答		3.1	0.0	5.9	0.0	2.9	0.0	5.0	2.0

■ 全体+10%    ■ 全体-10%

(問5. で「10. 職場に復帰」と回答しなかった方)

問10-1. 問10で回答した理由を、空欄内にご記入ください。

自身の就職において博士課程卒を「有利に感じる」者は、大学教員等の希望する職に就くことができるまたはできたからという回答が圧倒的に多かった。

「不利に感じる」者は、博士課程卒になると就職先が限られてしまうことについての回答がほとんどであり、博士課程修了者の求人がないまたは少ないや、専門性を活かせる職について求人がない、年齢制限等により求人数が絞られるといった意見が多かった。

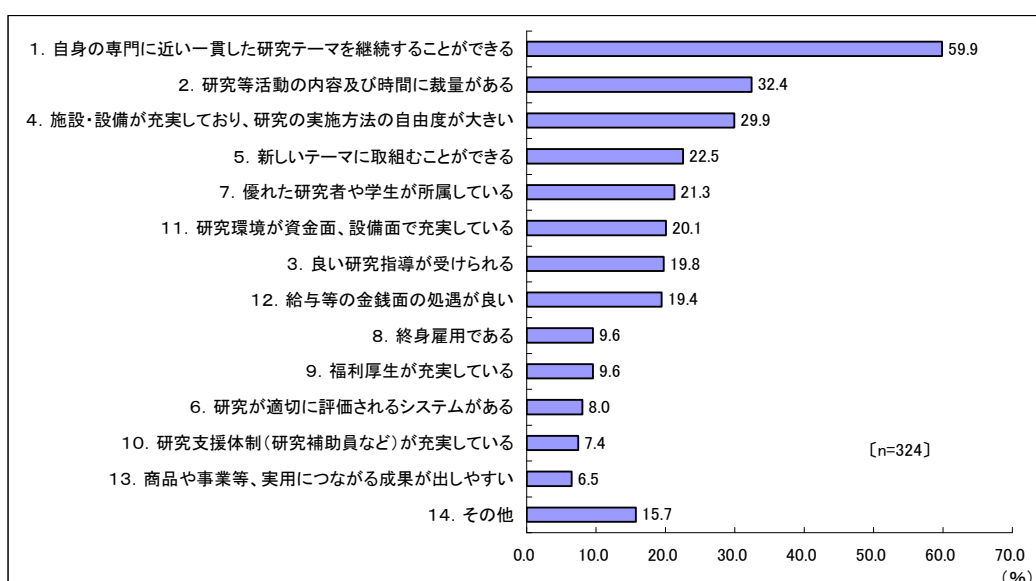
「どちらとも言えない」者は、希望する職に就くことができるからという回答が多く、次いで希望する職種や企業によって異なるという回答が多かった。また、保健専攻の学生では、医師を目指す場合は博士号よりも専門医の資格が重要であり、学生であれば臨床医としての経験年数が遅れるという意見が多くみられた。

問10-1.自由回答の内容(問10の回答別)	回答数
<b>「1. 有利に感じる」</b>	
希望する職に就くことができる／できた	85
専門知識を身に付けることができた	5
給与や待遇面が良い	5
研究遂行能力を身に付けることができた	4
その他	2
<b>「2. やや有利に感じる」</b>	
希望する職に就くことができる／できた	22
給与や待遇面が良い	4
専門知識を身に付けることができた	3
研究遂行能力を身に付けることができた	2
その他	3
<b>「3. どちらとも言えない」</b>	
希望する職に就くことができる／できた	18
希望する職種・企業による	11
医師には博士号は必ずしも必要ではない／臨床医としての経験年数が遅れる ／博士号より専門医の資格の方が重要	6
給与や待遇面で他の学位取得者と変わりがない	4
博士(後期)課程修了者の求人がない／少ない	3
専門性を活かせる職がない／企業が求める専門性とのマッチングが難しい	3
本人次第	3
専門性が高すぎる／企業はそこまで専門性を必要としていない	3
就職先の企業・職種が限られる	2
年齢制限がある／中途採用となる	2
任期付き職員であり将来が不安	2
その他	4
<b>「4. やや不利に感じる」</b>	
博士(後期)課程修了者の求人がない／少ない	4
専門性を活かせる職がない／企業が求める専門性とのマッチングが難しい	3
年齢制限がある／中途採用となる	2
その他	4
<b>「5. 不利に感じる」</b>	
専門性を活かせる職がない／企業が求める専門性とのマッチングが難しい	8
年齢制限がある／中途採用となる	8
博士(後期)課程修了者の求人がない／少ない	3
博士(後期)課程修了者が評価されない ／偏見がある(プライドが高い、頭が堅い等)	2
給与や待遇面で他の学位取得者と変わりがない	2
その他	4

【参考】

(問5. で「10. 職場に復帰」と回答しなかった方)  
 問11. 博士(後期)課程修了後の就職先を選択するに当たって、重視した事項をお教えてください。(当てはまるもの全てに○)

就職先選択時に重視した事項としては、「研究テーマを継続できる」が59.9%と最も多い。また、「研究等活動の内容・時間に裁量がある」「研究の実施方法の自由度が大きい」「新しいテーマに取り組むことができる」といった、研究内容に関連する項目が多く挙げられている。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 工学では、「研究の実施方法の自由度が大きい」「新しいテーマに取り組むことができる」「優れた研究者・学生が所属」「研究環境が資金・設備面で充実」が多い。
- ◇ その他の専攻では、「研究等活動の内容・時間に裁量がある」が多い。

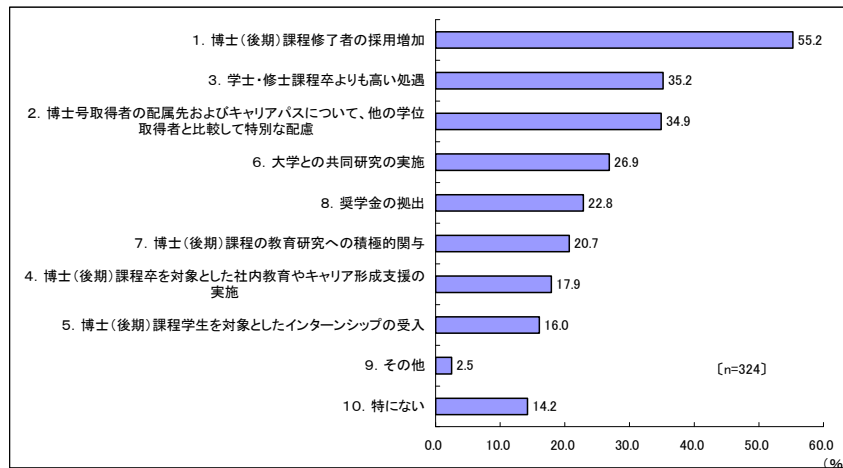
選択肢	専攻別	全体							
		全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(324)	(10)	(17)	(54)	(68)	(6)	(120)	(49)
1. 自身の専門に近い一貫した研究テーマを継続することができる		59.9	70.0	88.2	63.0	60.3	66.7	49.2	69.4
2. 研究等活動の内容及び時間に裁量がある		32.4	40.0	64.7	38.9	38.2	50.0	15.8	42.9
3. 良い研究指導が受けられる		19.8	20.0	17.6	18.5	22.1	33.3	21.7	12.2
4. 施設・設備が充実しており、研究の実施方法の自由度が大きい		29.9	30.0	47.1	29.6	48.5	16.7	15.8	34.7
5. 新しいテーマに取り組むことができる		22.5	40.0	35.3	29.6	38.2	0.0	10.8	16.3
6. 研究が適切に評価されるシステムがある		8.0	0.0	17.6	13.0	10.3	0.0	4.2	8.2
7. 優れた研究者や学生が所属している		21.3	20.0	23.5	25.9	33.8	16.7	12.5	20.4
8. 終身雇用である		9.6	0.0	41.2	13.0	11.8	0.0	0.8	16.3
9. 福利厚生が充実している		9.6	0.0	11.8	13.0	13.2	0.0	9.2	4.1
10. 研究支援体制(研究補助員など)が充実している		7.4	10.0	11.8	7.4	5.9	0.0	7.5	8.2
11. 研究環境が資金面、設備面で充実している		20.1	10.0	23.5	22.2	33.8	16.7	10.8	22.4
12. 給与等の金銭面の処遇が良い		19.4	30.0	17.6	22.2	25.0	16.7	14.2	20.4
13. 商品や事業等、実用につながる成果が出しやすい		6.5	0.0	0.0	5.6	16.2	16.7	4.2	2.0
14. その他		15.7	0.0	0.0	9.3	7.4	33.3	25.0	18.4
無回答		5.2	20.0	11.8	5.6	1.5	0.0	5.8	4.1

■ 全体+10%    ■ 全体-10%



(問5. で「10. 職場に復帰」と回答しなかった方)  
 問12. 博士(後期)課程修了後の就職等に関して、企業等に望むことをお教えてください。  
 (当てはまるもの全てに○)

企業等に望むこととして最も多いのは「採用増加」であり 55.2%と半数以上が回答している。また、「学士・修士卒よりも高い処遇」「配偶先・キャリアパスについて他の学位取得者と比較して特別な配慮」といった博士課程修了または博士号取得のメリットを求める項目が多く挙げられている。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

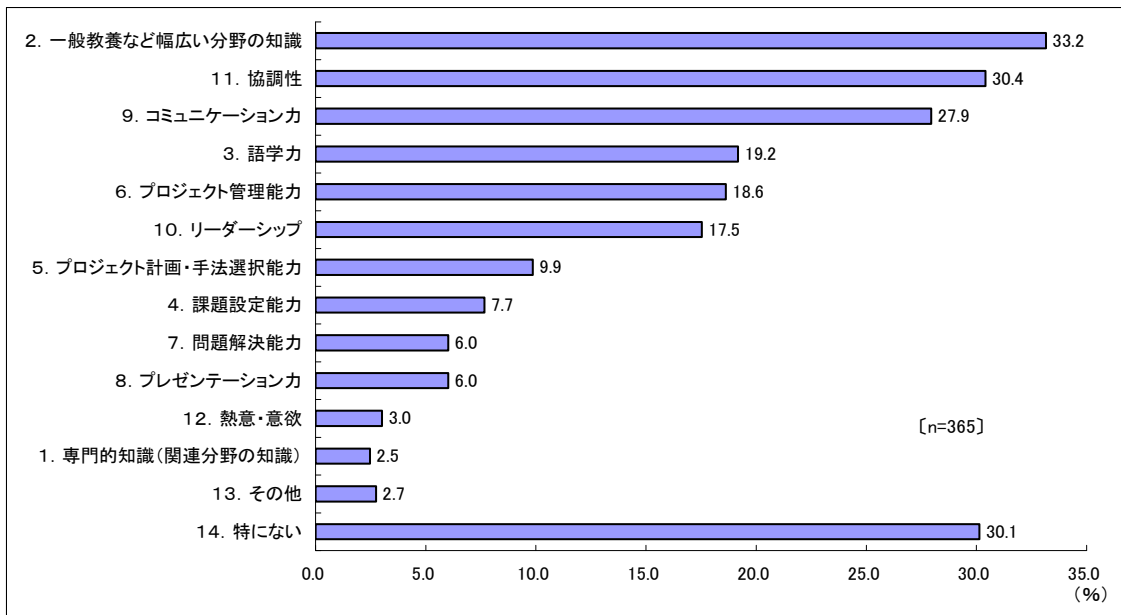
- ◇ 理学では、「採用増加」「配偶先・キャリアパスについて他の学位取得者と比較して特別な配慮」「博士卒対象の社内教育やキャリア形成支援の実施」が多い。
- ◇ 工学では、「採用増加」が多い。
- ◇ その他の専攻では、「採用増加」「大学との共同研究の実施」「博士課程の教育研究への積極的関与」が多い。

専攻別 選択肢	(%)							
	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
n=	(324)	(10)	(17)	(54)	(68)	(6)	(120)	(49)
1. 博士(後期)課程修了者の採用増加	55.2	80.0	58.8	70.4	69.1	66.7	27.5	79.6
2. 博士号取得者の配属先およびキャリアパスについて、他の学位取得者と比較して特別な配慮	34.9	20.0	41.2	48.1	26.5	50.0	34.2	32.7
3. 学士・修士課程卒よりも高い処遇	35.2	50.0	23.5	35.2	29.4	50.0	37.5	36.7
4. 博士(後期)課程卒を対象とした社内教育やキャリア形成支援の実施	17.9	10.0	11.8	29.6	26.5	0.0	7.5	24.5
5. 博士(後期)課程学生を対象としたインターンシップの受入	16.0	10.0	29.4	20.4	25.0	33.3	5.8	18.4
6. 大学との共同研究の実施	26.9	40.0	11.8	29.6	27.9	16.7	20.8	40.8
7. 博士(後期)課程の教育研究への積極的関与	20.7	30.0	17.6	29.6	17.6	16.7	13.3	32.7
8. 奨学金の拠出	22.8	40.0	29.4	20.4	26.5	33.3	19.2	22.4
9. その他(具体的に: )	2.5	0.0	0.0	3.7	1.5	16.7	0.0	8.2
10. 特にない	14.2	10.0	23.5	1.9	5.9	0.0	26.7	8.2
無回答	2.8	0.0	0.0	1.9	2.9	0.0	5.0	0.0

■ 全体+10%    □ 全体-10%

問13. 一般論として、博士（後期）課程修了者について、不足していると思われるものはありますか。（当てはまるもの全てに○）

不足しているものは、「幅広い分野の知識」が33.2%と最も多く、「協調性」が30.4%、「コミュニケーション力」が27.9%と続いている。また、「特にない」と回答する者も30.1%存在する。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

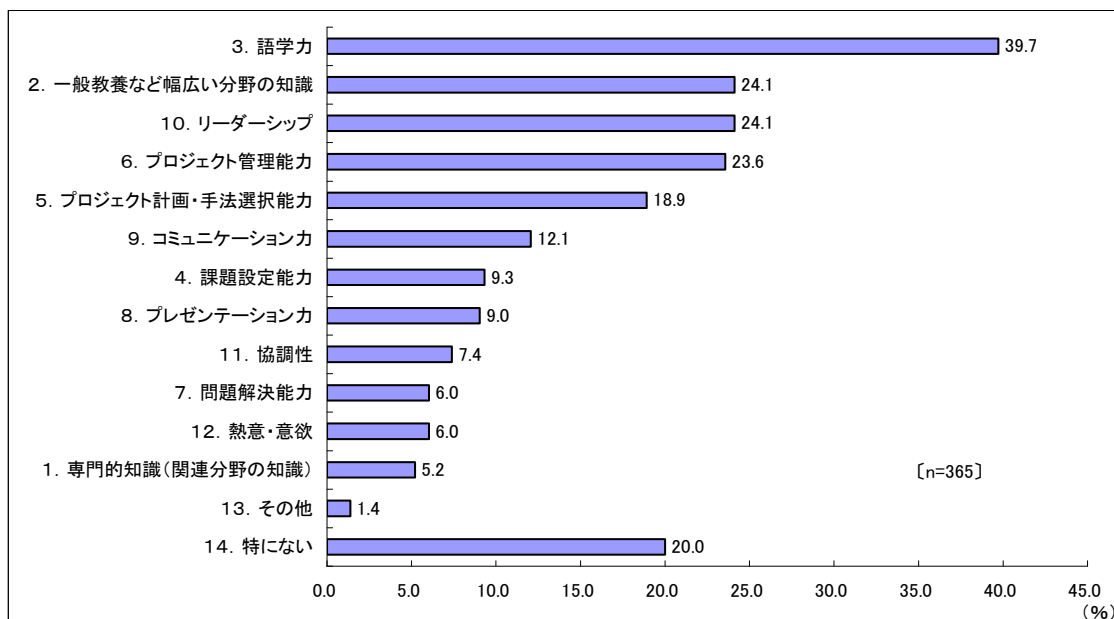
◇ 理学・工学では、「協調性」が「幅広い分野の知識」と並んで回答が多い。

選択肢	専攻別								
	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他	
	n=	(365)	(12)	(18)	(57)	(74)	(7)	(137)	(60)
1. 専門的知識(関連分野の知識)	2.5	8.3	0.0	0.0	5.4	0.0	2.9	0.0	
2. 一般教養など幅広い分野の知識	33.2	33.3	22.2	40.4	41.9	57.1	26.3	31.7	
3. 語学力	19.2	25.0	11.1	19.3	20.3	0.0	22.6	13.3	
4. 課題設定能力	7.7	8.3	16.7	5.3	9.5	14.3	7.3	5.0	
5. プロジェクト計画・手法選択能力	9.9	16.7	5.6	12.3	9.5	14.3	8.8	10.0	
6. プロジェクト管理能力	18.6	16.7	16.7	22.8	20.3	42.9	13.9	21.7	
7. 問題解決能力	6.0	0.0	5.6	8.8	1.4	0.0	5.8	11.7	
8. プレゼンテーション力	6.0	16.7	5.6	1.8	12.2	0.0	4.4	5.0	
9. コミュニケーション力	27.9	41.7	33.3	35.1	32.4	42.9	16.1	36.7	
10. リーダーシップ	17.5	33.3	16.7	17.5	24.3	14.3	13.1	16.7	
11. 協調性	30.4	41.7	44.4	42.1	40.5	42.9	16.1	31.7	
12. 熱意・意欲	3.0	0.0	5.6	1.8	2.7	28.6	2.9	1.7	
13. その他	2.7	0.0	11.1	3.5	1.4	0.0	2.2	3.3	
14. 特にない	30.1	25.0	33.3	24.6	20.3	0.0	38.0	33.3	
無回答	1.1	0.0	5.6	0.0	1.4	0.0	1.5	0.0	

■ 全体+10%    ■ 全体-10%

問14. 博士（後期）課程修了者として、博士課程において身に付けることができなかつたと感じるものはありますか。（当てはまるもの全てに○）

身に付けることができなかつた点としては、「語学力」が39.7%と最も多い。次いで、「幅広い分野の知識」「リーダーシップ」「プロジェクト管理能力」が多く挙げられている。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

専攻別の特徴はほとんどみられない。

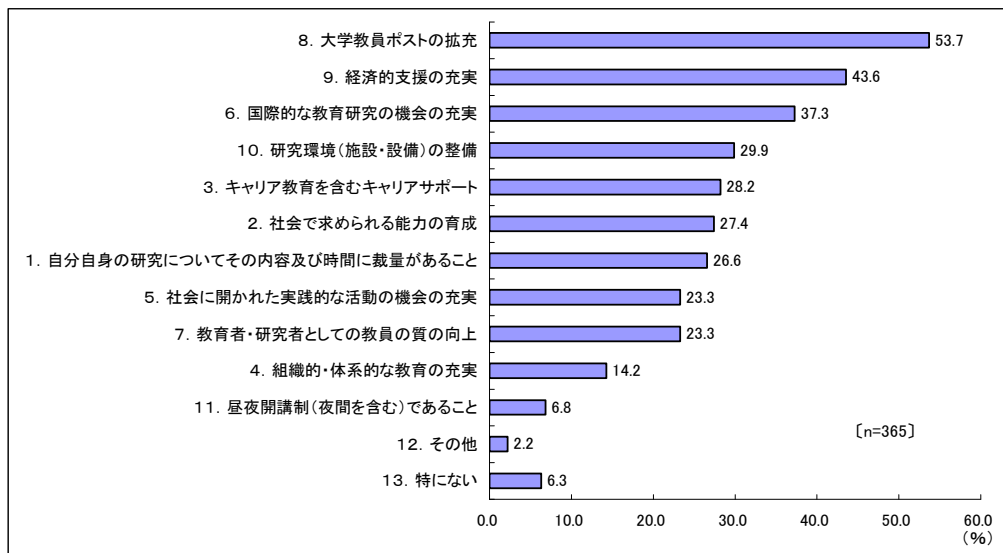
(%)

選択肢	専攻別	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
	n=	(365)	(12)	(18)	(57)	(74)	(7)	(137)	(60)
1. 専門的知識(関連分野の知識)		5.2	8.3	0.0	5.3	10.8	14.3	2.9	3.3
2. 一般教養など幅広い分野の知識		24.1	16.7	22.2	28.1	29.7	28.6	20.4	23.3
3. 語学力		39.7	83.3	11.1	36.8	40.5	57.1	41.6	35.0
4. 課題設定能力		9.3	8.3	16.7	14.0	9.5	14.3	8.8	3.3
5. プロジェクト計画・手法選択能力		18.9	33.3	38.9	19.3	25.7	14.3	13.9	13.3
6. プロジェクト管理能力		23.6	41.7	27.8	26.3	23.0	28.6	20.4	23.3
7. 問題解決能力		6.0	8.3	11.1	10.5	5.4	0.0	5.1	3.3
8. プレゼンテーション力		9.0	16.7	27.8	10.5	8.1	14.3	7.3	5.0
9. コミュニケーション力		12.1	16.7	11.1	14.0	10.8	0.0	13.1	10.0
10. リーダーシップ		24.1	16.7	27.8	28.1	20.3	0.0	28.5	18.3
11. 協調性		7.4	8.3	11.1	7.0	13.5	0.0	5.1	5.0
12. 熱意・意欲		6.0	8.3	5.6	3.5	4.1	28.6	5.8	8.3
13. その他		1.4	0.0	11.1	1.8	1.4	0.0	0.7	0.0
14. 特になし		20.0	16.7	22.2	17.5	14.9	28.6	20.4	26.7
無回答		0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0

問15. 教育や就職支援等について、大学に望むことはありますか。

(当てはまるもの全てに○)

大学に望むこととしては、「大学教員ポストの拡充」が53.7%と最も多く、次いで「経済的支援の充実」が43.6%、「国際的な教育研究の機会の充実」が37.3%となっている。



<専攻別> ※全体と比較して特徴がみられるもの

- ◇ 理学では、「大学教員ポストの拡充」が多い。
- ◇ その他の専攻では、「キャリアサポート」「社会に開かれた実践的な活動機会の充実」が多い。

選択肢	専攻別 (%)							
	全体	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	その他
n=	(365)	(12)	(18)	(57)	(74)	(7)	(137)	(60)
1. 自分自身の研究についてその内容及び時間に裁量があること	26.6	25.0	44.4	19.3	25.7	28.6	24.8	33.3
2. 社会で求められる能力(業務遂行能力、コミュニケーション力、協調性、マネジメント能力等)の育成	27.4	16.7	5.6	33.3	33.8	57.1	21.2	33.3
3. 博士(後期)課程でのキャリア教育を含むキャリアサポート	28.2	25.0	38.9	26.3	36.5	28.6	19.0	38.3
4. コースワーク(講義、演習)を含めた組織的・体系的な教育の充実	14.2	16.7	38.9	8.8	16.2	14.3	10.9	16.7
5. 企業等へのインターンシップや企業等との共同研究などの社会に開かれた実践的な活動の機会の充実	23.3	33.3	5.6	24.6	32.4	28.6	14.6	33.3
6. 海外の大学への留学や国際学会等への参加などの国際的な教育研究の機会の充実	37.3	58.3	22.2	31.6	35.1	14.3	38.7	45.0
7. 教育者・研究者としての教員の質の向上	23.3	16.7	33.3	12.3	20.3	28.6	26.3	28.3
8. 大学教員ポストの拡充	53.7	75.0	77.8	68.4	47.3	100.0	39.4	63.3
9. 経済的支援の充実	43.6	41.7	44.4	45.6	43.2	42.9	39.4	51.7
10. 研究環境(施設・設備)の整備	29.9	33.3	50.0	28.1	18.9	57.1	32.8	28.3
11. 昼夜開講制(夜間を含む)であること	6.8	16.7	0.0	7.0	4.1	14.3	5.8	11.7
12. その他(具体的に: )	2.2	0.0	5.6	3.5	4.1	0.0	0.7	1.7
13. 特にない	6.3	0.0	5.6	3.5	1.4	0.0	10.9	6.7
無回答	1.6	0.0	5.6	3.5	1.4	0.0	1.5	0.0

■ 全体+10%    ■ 全体-10%

## (5) 自由回答の内容

◇最後に、博士（後期）課程に関して、大学や企業、国に対して要望などがありましたら、どのようなことでも構いませんので、お書きください。

自由回答の内容は、修士在籍者、博士在籍者、博士修了者すべてで、進路に関する意見が最も多く、次いで経済的支援、社会的地位・博士課程の質に関する意見が多く挙げられていた。個々の回答については、項目別に以下に整理した。

### <進路に関する意見（計 364）>

進路に関して最も多い回答は、「教員・研究職ポストの拡充／博士課程修了者が活躍できる場の提供」であり、博士課程修了者数に対して、専門性を活かせるポストが明らかに不足していることが分かる。文系では「文系の使い道を考えて欲しい」といった意見がみられたことから、理系よりも専門性を活かせる職が限られており就職が厳しい状況にあることがうかがえる。また、「短期任期付雇用ではなく、長期・終身雇用」という回答がみられることから、ポストの拡充だけではなく、安定したポストの提供が求められている。さらに、「キャリア支援」という回答も多くみられた。博士課程修了者は、就職先のポストが少なく厳しい就職環境にあることから、進路に関してはより一層大学や国、企業も含めた支援を行い、結果的に学生がキャリアパスを描けるようにしていくことが必要であると考えられる。

### <経済的支援に関する意見（計 192）>

経済的支援に関して最も多い回答は、「経済面での支援」であり、具体的な回答としては「学費の援助・免除」や「奨学金の充実」が挙げられていた。博士課程在籍者は、研究で忙しくアルバイト等をする時間がないため、経済的に厳しい状況にあり、経済的な支援を望んでいる者が多くみられる。また、授業はあまり開講されず、教員の研究の手伝い等をさせられることが多いことから、学費については援助・免除して欲しい、逆に給料を欲しいといった意見もみられた。奨学金については、貸付ではなく給付金にして欲しいといった意見や年齢制限を廃止して欲しいといった意見が多かった。

### <社会的地位・博士課程の質に関する意見（計 80）>

社会的地位・博士課程の質に関して最も多い回答は、「博士課程修了者を評価・理解して欲しい」であり、企業や社会からの博士課程修了者に対する偏見を感じる者が多くいることが分かる。また、「博士課程のメリットが感じられない」や「博士課程の社会的地位の向上」「博士課程の質の向上」「学生のレベルが低いいため、入学時の合格基準を厳しくして欲しい」といった回答も多くみられた。学生も含めた博士課程の質を向上させることにより、博士課程修了者の社会的地位の向上を図っていくことが求められている。

#### ＜教育・研究内容に関する意見（計 70）＞

教育・研究内容に関して最も多い回答は、「大学・企業間のネットワークの構築・強化」であり、企業と交流することにより研究内容の充実を図れるとともに修了後のキャリア形成にも活かせるとの回答であった。文系でも積極的に企業との交流の場をつくって欲しいという意見もあった。また、「教育プログラムの充実」という回答も多く挙げられており、語学系の講座への要望がみられた。さらに、博士課程修了者において「社会のニーズに直結した研究を行って欲しい」という回答がみられたことから、専門性を活かした職に就く場合には、学生時代から社会のニーズを踏まえた研究を行っておくことが必要であることが分かる。

#### ＜研究支援に関する意見（計 56）＞

研究支援に関して最も多い回答は、「研究費の充実」であった。次いで「基礎研究への理解・支援」という回答が多く、基礎研究の重要性を認識することで基礎研究への予算を拡大して欲しいということであった。また、学術振興会特別研究員については、「定員数の増加」や「年齢制限の廃止」を求める声がみられた。

#### ＜大学教員に関する意見（計 35）＞

大学教員に関して最も多い回答は、「指導・教育ができない教員が多い」であり、大学教員は、研究能力だけでなく、教育者としての質の向上が求められていることが分かる。また、「倫理的に問題のある教員が多い」という回答もみられ、アカデミックハラスメントやセクシャルハラスメントを訴える声もあったことから、それらを防止する方策が必要であると考えられる。

#### ＜社会人学生に関する意見（計 29）＞

社会人学生に関して最も多い回答は、「社会人学生に対する奨学金・学費の援助」であり、年齢制限や給料をもらっているという立場から奨学金等への申請ができず、経済的に厳しいということであった。

#### ＜教育・研究環境に関する意見（計 21）＞

教育・研究環境に関して最も多い回答は、「雑用等で研究する時間がとれない／研究に集中できない」であった。また、修士課程在籍者において「閉鎖的であるため開かれた雰囲気にしてもらいたい」という回答がみられることから、今後は博士課程のネガティブなイメージを払拭させていくことが必要である。

#### ＜その他の意見（計 48）＞

その他の意見として最も多い回答は、「博士課程の定員数の削減」であり、修了者数に

対して活躍できるポストの数が少ないことから、博士課程の定員を無責任に増やさないで欲しいといった意見であった。また、修士課程在籍者を中心に「進学前に博士課程のカリキュラム・進路等の情報提供」や「国は今後大学院をどのようにしていきたいのか明示してもらいたい」という回答が挙げられており、博士課程についての情報が全般的に不足していると考えられることから、今後は国や大学が積極的に情報発信していくことが必要である。

女性の意見としては、「女性研究者への支援」や「託児所の設置／育児等の悩みを相談できる窓口の設置」という回答が挙げられていた。女性の大学教員があまりいないことから女性の教員ポストの拡充を望む声や結婚や出産、育児への支援を望む声がみられた。博士課程修了後まで待つと年齢的に高くなってしまふことから、研究と出産や育児が両立できる仕組み作りが求められている。

	① 修士 在籍	② 博士 在籍	③ 博士 修了	合計
<b>&lt;進路に関する意見&gt;</b>	<b>計141</b>	<b>計127</b>	<b>計96</b>	<b>計364</b>
教員・研究職ポストの拡充／博士課程修了者が活躍できる場の提供	58	60	46	164
キャリア支援の充実	19	20	11	50
企業における博士課程修了者の採用増加	17	11	6	34
キャリアパスが描けない	18	9	7	34
博士課程修了者の待遇の改善	12	8	6	26
短期任期付雇用ではなく、長期・終身雇用を増加	4	11	8	23
ポストク問題への対策	9	3	6	18
公的機関における博士課程修了者の採用増加	2	3	4	9
採用時の年齢制限の廃止	0	0	2	2
企業側でどのような研究をしているか明示して欲しい	2	0	0	2
企業が博士課程修了者に対し何を求めているか教えて欲しい	0	1	0	1
博士課程修了すれば、教員(小・中・高・専門等)として働けるようにして欲しい	0	1	0	1
<b>&lt;経済的支援に関する意見&gt;</b>	<b>計82</b>	<b>計79</b>	<b>計31</b>	<b>計192</b>
経済面での支援	28	37	15	80
学費の援助・免除	27	19	9	55
奨学金の充実(貸付ではなく給付金にして欲しい、年齢制限の廃止等)	17	19	5	41
欧米と同様に給料が欲しい	10	4	2	16
<b>&lt;社会的地位・博士課程の質に関する意見&gt;</b>	<b>計28</b>	<b>計21</b>	<b>計31</b>	<b>計80</b>
企業等は博士課程修了者を理解・評価して欲しい	11	8	5	24
博士課程のメリットが感じられない	10	2	3	15
博士課程修了者の社会的地位の向上	3	3	4	10
博士課程の質の向上	0	2	8	10
学生のレベルが低いため、入学時の合格基準を厳しくして欲しい	3	3	4	10
学位認定基準を厳しくして欲しい	1	0	3	4
学位認定基準の明確化	0	2	2	4
学位を国家資格にして欲しい	0	1	0	1
論文博士との違いの明確化	0	0	1	1
論文博士を廃止すれば、企業の博士課程への関心が強まると思う	0	0	1	1
<b>&lt;教育・研究内容に関する意見&gt;</b>	<b>計27</b>	<b>計13</b>	<b>計30</b>	<b>計70</b>
大学と企業間のネットワークの構築・強化(共同研究等)	12	3	12	27
教育プログラム(語学も含めたコースワーク)の充実	10	6	7	23
社会のニーズに直結した研究を行って欲しい	0	0	6	6
留学支援制度の充実	2	1	3	6
国際的な教育研究の機会(国際学会への参加、留学)を増やして欲しい	0	1	1	2
若手研究者(修士・博士学生)の交流の場(研究集会等)を増やして欲しい	2	0	0	2
未来を考えた研究を行って欲しい	0	1	0	1
授業料の高さと教育の質・量が比例していない	0	1	0	1
研究内容に対する適切な評価	0	0	1	1
学部時代から、博士課程進学希望者用の特別なカリキュラムを用意して欲しい	1	0	0	1
<b>&lt;研究支援に関する意見&gt;</b>	<b>計15</b>	<b>計27</b>	<b>計14</b>	<b>計56</b>
研究費の充実	6	11	6	23
基礎研究への理解・支援(予算拡大等)	6	6	4	16
学会参加費(旅費、宿泊費等)の援助	2	4	0	6
学術振興会特別研究員の数の増加	0	3	1	4
学術振興会特別研究員の年齢制限を廃止	1	0	3	4
書籍購入代の援助	0	2	0	2
学術振興会等の研究者への支援機関の増加	0	1	0	1



	① 修士 在籍	② 博士 在籍	③ 博士 修了	合計
<b>&lt;大学教員に関する意見&gt;</b>	<b>計4</b>	<b>計18</b>	<b>計13</b>	<b>計35</b>
指導・教育ができない教員が多い	3	11	10	24
倫理的に問題のある教員が多い	0	3	2	5
教員の評価制度の実施	0	2	1	3
複数の指導教員に指導を受けられるようにして欲しい	1	2	0	3
<b>&lt;社会人学生に関する意見&gt;</b>	<b>計9</b>	<b>計13</b>	<b>計7</b>	<b>計29</b>
社会人学生に対する奨学金・学費の援助(定収入があるため、奨学金等の経済的援助を受けられない)	4	8	1	13
社会人学生への授業開講日時の配慮	3	2	0	5
企業の社会人学生に対する支援の充実	2	1	2	5
年齢問わず博士課程に進学できる環境の整備	0	0	3	3
社会人を送り出している企業に対する金銭的支援	0	1	0	1
社会人学生が博士課程へ進学しやすい様に、大学・企業間の流動性を高めて欲しい	0	1	0	1
社会人学生の合格基準を厳しくして欲しい(社会人学生がいるために、一般学生の企業への就職口が少なくなっている)	0	0	1	1
<b>&lt;教育・研究環境に関する意見&gt;</b>	<b>計4</b>	<b>計10</b>	<b>計7</b>	<b>計21</b>
雑用等で研究する時間がとれない／研究に集中できない	1	6	4	11
研究施設・設備の充実	1	2	2	5
研究室が狭いので広くして欲しい	0	2	0	2
閉鎖的であるため、開かれた雰囲気にしてもらいたい	2	0	0	2
包括的ワークシェアリングの実施(教員、博士学生、オーバードクターを含めた)	0	0	1	1
<b>&lt;その他の意見&gt;</b>	<b>計21</b>	<b>計10</b>	<b>計17</b>	<b>計48</b>
<b>大学に対する意見</b>	<b>計7</b>	<b>計3</b>	<b>計4</b>	<b>計14</b>
進学前に博士課程のカリキュラム・進路等の情報提供	4	0	2	6
託児所の設置／育児等の悩みを相談できる窓口の設置	2	1	2	5
学生は覚悟をして進学すべきであり、大学は学生に対し過保護すぎる	0	1	0	1
多くの大学で博士課程を設置してもらい、選択肢を増やして欲しい	1	0	0	1
留学生会館を作って欲しい	0	1	0	1
<b>その他の意見</b>	<b>計14</b>	<b>計7</b>	<b>計13</b>	<b>計34</b>
博士課程の定員数の削減	3	5	8	16
学位取得まで時間がかかり年齢が高くなるため、就職時に不利	4	0	0	4
女性研究者への支援	2	2	0	4
国は今後大学院をどのようにしていきたいのか明示してもらいたい	3	0	1	4
国は計画的に物事を考えて、隙間世代を作らないようにして欲しい	0	0	1	1
大学への締め付けを強めすぎないで欲しい(大学から思考する場が失われる)	0	0	1	1
教育を小中高大院まで一貫して考えて欲しい	0	0	1	1
地方大学に対する人的・経済的支援	1	0	0	1
社会との距離を感じる	1	0	0	1
留学生が多すぎる	0	0	1	1

## (6) まとめ

修士・博士課程在籍者及び博士課程修了者に対するアンケート調査から、現状の博士課程における課題は、主に次の3点が挙げられる。

### 1) 専門性を活かせる就職先・安定した就職先の確保

博士課程へは大学教員や研究機関・企業の研究職に就くために進学する者が修士課程と比べて多くみられる一方で、それらのポストは不足しており、希望通りの職に就けない者も少なくはない。また専攻によっても異なり、工学や保健では就職先が決まっている者が約半数いたのに対し、それ以外の専攻では就職が決まっていない者の方が多くみられた。さらに希望通りの職に就けたとしても、学歴に見合った処遇が受けられない、ポスト等の短期任期付雇用が多く雇用期間終了後のキャリアは不確定のため不安定な立場に置かれ続けるといった問題を指摘する声が多かった。そのため、国や大学、企業は、ポストの拡充、採用数の増加とあわせて博士課程修了者の待遇改善を行い、長期継続雇用を念頭に安心して活躍できる場を提供していくことが求められている。特に、工学や保健以外の直接仕事に結びつきにくい研究を行っている学生については、社会における活用方法を検討して、専門性を活かせる場を提供することが必要である。

### 2) 博士課程の質の向上

一方で、博士課程の質の低下も指摘されていた。研究を目的に進学した博士課程在籍者においても自身の研究能力に限界を感じる者が多く存在していた。また、学生は専門的知識以外の語学力や幅広い知識が不足しており、大学に対して国際的な教育研究の機会の充実を要望する声も多くみられたことから、学生の知識・技術に偏りがある様子がみてとれる。社会では様々な環境変化に対応した研究を行う必要があることから、社会においてより活用できる人材を育成するためにも、今後教育プログラムを充実させ、学生のレベルを上げることが必要である。さらに、教育者としての資質がない教員が多くいるとの意見があったことから、教育プログラムを活用させるためにも教員の教育に対する意識改革や教育者としての育成、学生からの評価制度などを導入し、教員の教育者としてのレベルを向上させ、博士課程の質の向上を図ることが求められている。

### 3) 経済的な支援

また、経済的支援を求める声が多く、特に学費の援助・免除や奨学金の充実を望む者が多くみられた。博士課程の学生は、研究で忙しくアルバイト等で生活費を稼ぐ時間がないため、収入がほとんどない中で授業料を払うのは大変であるということであった。また、授業がほとんど開講されておらず、逆に研究の手伝いをさせら

れていることから、その分学費を援助・免除して欲しいという意見もみられた。さらに、奨学金は年齢制限などがあり、社会人学生など一部の学生には申請ができず、経済的な援助を全く受けられない中で学生を続けていくことは厳しいという意見もあった。そのため、学費については、大学が提供する授業などの内容と学生が手伝える研究内容の双方を考慮し、学生に納得がいくように再検討することが必要ではないだろうか。また奨学金については、博士課程へ進学する全ての人に対して申請の機会を与え、個々の学生の状況に応じて、貸与／給付額や貸与ではなく給付にするなど支援内容を柔軟なものにしていくことが必要であると考えられる。

上記以外にも、国際的な教育研究の機会の提供や企業との共同研究の促進などの社会において活躍が可能な能力を身に付けることができる教育・研究内容とすること、基礎研究も含めた研究費の拡大などの研究支援の充実も課題として挙げられていたことから、今後はこれらについての具体的な対応が求められる。

